

港区保健福祉基礎調査

報告書

(一般区民調査)

令和8年(2026年)3月

港区

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

目 次

第1章 調査の実施概要	1
1 調査目的.....	2
2 調査対象・抽出条件.....	2
3 調査方法・期間.....	2
4 回収結果.....	2
5 調査内容.....	2
6 標本誤差.....	3
7 報告書の見方.....	3
第2章 主な調査結果のまとめ	5
1 福祉課題について.....	6
2 健康状態や健康づくりに関する取組状況.....	7
3 感染予防対策と感染症に関する情報発信・普及啓発.....	9
4 人とのつながりについて.....	10
5 孤独・孤立の状況と自殺対策.....	12
6 ひきこもりの状況.....	14
7 区民の終活に対する意識や意向.....	15
8 ACP や人生の最終段階での医療・介護に関する区民の意識.....	17
第3章 集計結果	19
1 一般区民を対象とした調査の集計結果.....	20
1. あなた自身について.....	20
2. 地域での支え合いや地域活動について.....	26
3. 健康づくりについて.....	33
4. かかりつけ医と夜間休日診療体制について.....	35
5. 感染症について.....	37
6. 地域包括ケアについて.....	40
7. 孤独・孤立について.....	49
8. ひきこもりについて.....	52
9. 自殺対策について.....	63
10. 終活について.....	65
11. 介護について.....	67
12. 保健・福祉全般について.....	69
第4章 調査票	79
1 一般区民を対象とした調査票.....	79

第1章 調査の実施概要

1 調査目的

本調査は、保健福祉施策の課題及び区民生活や福祉サービスに関するニーズ等の実態を的確に把握し、令和8年度に策定を予定している港区地域保健福祉計画等の基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査対象・抽出条件

調査名称	調査対象	抽出条件
一般区民	令和7年8月1日時点で港区在住の 15歳以上65歳未満の区民	無作為抽出

3 調査方法・期間

- 1 調査方法…郵送により配布、郵送又はWEBにより回収
- 2 調査期間…令和7年9月19日（金）～10月10日（金）

4 回収結果

調査名称	配布数	有効回答数	有効回答率
一般区民	3,000件	合計 1,135件 (内訳)・郵送 446件 ・WEB 689件	37.8%

5 調査内容

調査名称	調査内容
一般区民	1. あなた自身について 2. 地域での支え合いや地域活動について 3. 健康づくりについて 4. かかりつけ医と夜間休日診療体制について 5. 感染症について 6. 地域包括ケアについて 7. 孤独・孤立について 8. ひきこもりについて 9. 自殺対策について 10. 終活について 11. 介護について 12. 保健・福祉全般について

6 標本誤差

標本誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数、回答の比率によって誤差範囲が異なります。回答比率は、ある設問の1つの選択肢に対して得られた回答者の割合です。定数 1.96 は、信頼率 95%と設定した場合の定数です。

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N：母集団数、n：サンプル数（有効回答数）、p：回答比率

この計算式に従って算出される本調査の標本誤差は以下のとおりです。

調査名称	母集団 (N)	有効回答数 (n)	90% 又は 10%程度	80% 又は 20%程度	70% 又は 30%程度	60% 又は 40%程度	50%程度
一般区民	182,491	1,135	±1.74%	±2.32%	±2.66%	±2.84%	±2.90%

7 報告書の見方

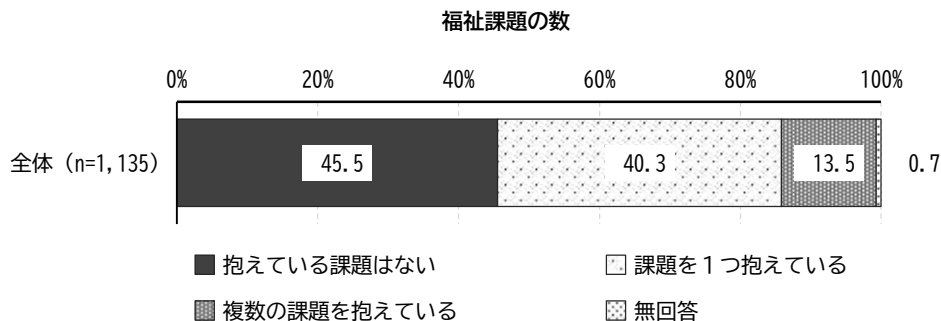
- 1 本報告書のグラフにおいては、選択肢の番号（「1.」「2.」など）は原則として表示していません。選択肢の全文及び番号との対応は、第4章に掲載しています。
- 2 本報告書における「前回調査」とは、令和4年度に実施した港区「くらしと健康の調査—コロナ禍における保健福祉に関する調査—」を指します。
- 3 図表内のnとは該当の設問における回答者数のことです。
- 4 集計は小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- 5 複数回答が可能な設問の場合、一つひとつの項目の回答比率(%)は、項目を選んだ回答者数を分子、その設問の回答者数を分母として算出しているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 6 本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化しています。
- 7 全体集計では全ての回答者を含めていますが、属性別クロス集計では、その属性項目に無回答の方を除いて集計しているため、各属性の合計と全体の回答者数が一致しない場合があります。

第2章 主な調査結果のまとめ

1 福祉課題について

- 半数以上 (53.8%) が何らかの福祉課題を抱えており、そのうち約4分の1が複数の課題を抱えている。複数課題の組み合わせとしては「育児・子育て」と「親の介護・介助」が多い。
- 複数の課題を抱える人ほど、ワンストップかつ専門性のある相談窓口へのニーズが高い。

育児・子育て、介護・看護、疾病、障害、生活困窮など、生活上の課題（以下「福祉課題」という。）の状況を見ると、「抱えている課題はない」（45.5%）が最も高く、次いで「課題を1つ抱えている」（40.3%）、「複数の課題を抱えている」（13.5%）となっています。全体では半数以上（53.8%）が何らかの福祉課題を抱えており、そのうち約4分の1が複数の課題を抱えています。



2つの福祉課題を抱える場合の組み合わせとしては、「育児・子育て」と「親の介護・介助」、「親の介護・介助」と「自身の疾病」、「育児・子育て」と「生活困窮」の順で多くなっています。

相談機関に求めることについて、福祉課題の数別にみると、「ひとつの窓口でいろいろな相談ができる」ことへのニーズは、課題はない層（46.1%）に比べて福祉課題を抱える層で高くなっています。また、「専門性の高い相談ができる」についても、福祉課題を抱える層が、課題はない層（38.6%）を上回り、複数の課題を抱える人ほど、ワンストップかつ専門性のある相談窓口へのニーズが高くなっています。

相談機関に求めること（福祉課題の数別）

	ひとつの窓口でいろいろな相談ができる	予約なしで相談ができる	専門性の高い相談ができる	区役所に行かなくても、リモート等で相談ができる	相談員が訪問してくれる	気軽に相談できる雰囲気がある
課題はない (n=516)	46.1%	37.0%	38.6%	31.0%	2.7%	39.1%
課題1つ (n=457)	55.6%	41.1%	42.5%	35.7%	4.8%	44.9%
課題2つ (n=123)	66.7%	50.4%	55.3%	49.6%	8.9%	48.0%
課題3つ以上 (n=31)	61.3%	45.2%	35.5%	38.7%	3.2%	32.3%
	土日や祝日、仕事帰りに相談ができる	相談の際、同行している子どもや高齢者の面倒をみってくれる	その他	特に要望はない	わからない	無回答
課題はない (n=516)	46.5%	3.3%	0.4%	8.5%	7.0%	0.6%
課題1つ (n=457)	48.1%	9.6%	0.9%	4.2%	2.8%	0.4%
課題2つ (n=123)	53.7%	13.8%	1.6%	4.9%	4.1%	0.0%
課題3つ以上 (n=31)	29.0%	0.0%	6.5%	6.5%	6.5%	0.0%

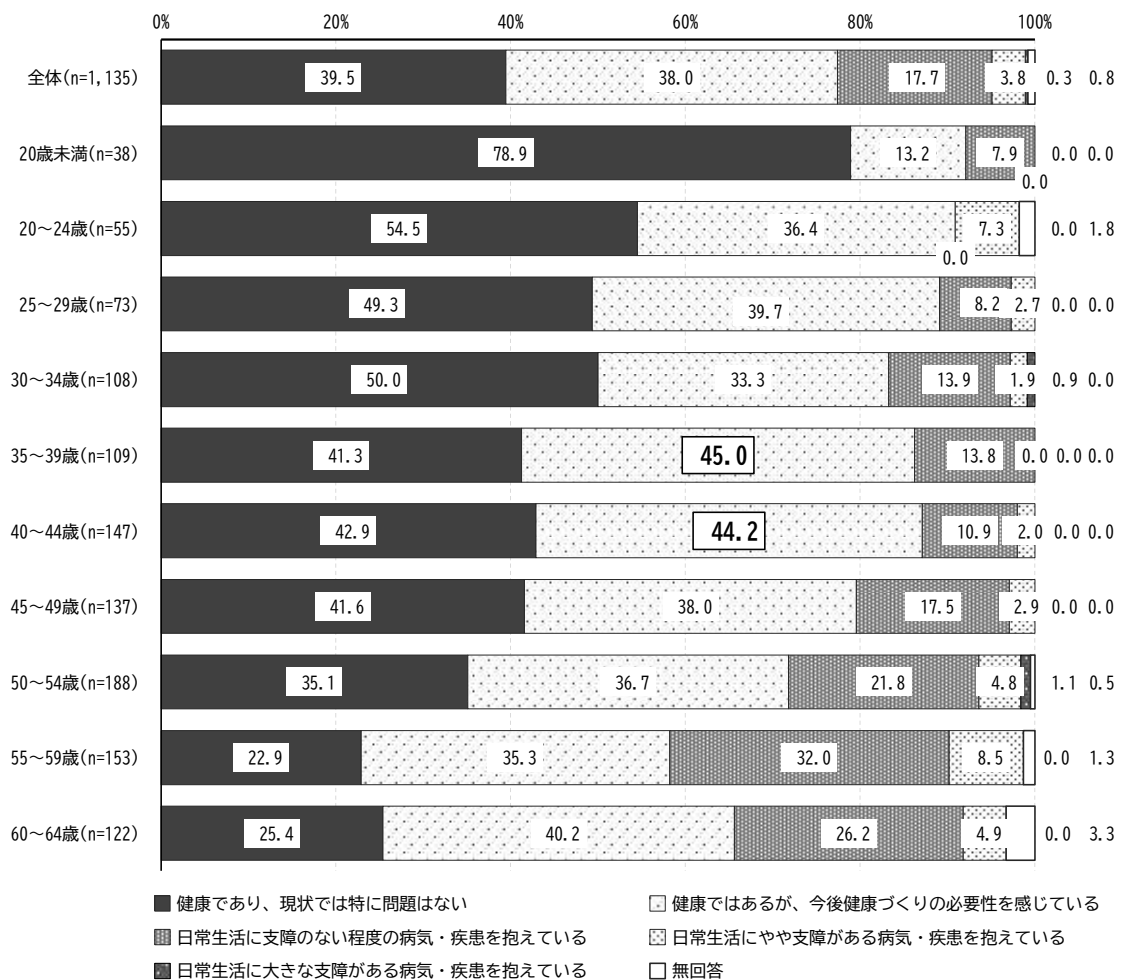
2 健康状態や健康づくりに関する取組状況

- 健康づくりの必要性を感じている割合は全年代で高く、特に働き盛り世代で健康づくりへの意識が高まっている。
- 若い世代ほど定期的な歯科通院と栄養バランスへの意識が低い傾向となっている。

現在の健康状態について、年齢別にみると、健康である割合は年齢が上がるにつれて低下する傾向にあります。特に「健康であり、現状では特に問題はない」との回答は年齢が上がるにつれて大きく低下する一方、「日常生活に支障のない程度の病気・疾患を抱えている」の割合は年齢とともに上昇傾向にあります。

また、「健康ではあるが、今後健康づくりの必要性を感じている」の割合は全年代で高く、特に35～39歳（45.0%）、40～44歳（44.2%）など、35歳以上の働き盛り世代でその意識が強くなっています。

現在の健康状態（年齢別）



年齢区分別に健康維持の取組をみると、40歳未満では「栄養バランス」が最も高く、40歳以上では「健康診査」が上位となり、60歳代では76.2%まで上昇しています。

また、「定期的な運動」は年齢が上がるにつれて実施率が高くなり、「歯科通院」も同様の傾向にあります。特に、20歳未満（21.1%）と20歳代（33.6%）では他の年代と比べて低くなっています。

「栄養バランスを意識した食事摂取」でみると、若い世代ほど割合が低くなっています。「栄養バランスを意識した食事摂取」をしていない（できない）理由としては、全体では「忙しくて時間がない」が多く、特に30歳代で50.6%と最も高くなっています。また、30～40歳代では「外食が多い」も35%前後と高く、20歳未満では「バランスの良い食事がわからない」（37.5%）が、60歳代では「調理をしない・できない」（26.9%）が最も高くなっています。

健康づくりで意識していること（年代別）

	健康診査（がん検診含む）の受診	栄養バランスを意識した食事摂取	定期的な運動	歯医者等の定期的な通院	余暇の充実（リフレッシュ）	かかりつけ医等への相談	その他	特に意識的に実施しているものはない	無回答
全体（n=1,135）	64.2%	67.9%	54.4%	46.1%	48.0%	18.1%	1.1%	4.9%	1.1%
20歳未満（n=38）	5.3%	57.9%	44.7%	21.1%	47.4%	18.4%	2.6%	18.4%	0.0%
20歳代（n=128）	44.5%	56.3%	53.1%	33.6%	53.1%	10.9%	0.8%	9.4%	0.8%
30歳代（n=217）	57.6%	63.6%	50.2%	41.9%	51.2%	10.6%	0.5%	6.5%	0.9%
40歳代（n=284）	69.7%	71.1%	54.9%	50.4%	48.2%	14.8%	1.1%	4.2%	0.4%
50歳代（n=341）	73.3%	71.0%	56.9%	50.4%	45.7%	26.1%	1.8%	2.6%	0.9%
60歳代（n=122）	76.2%	75.4%	58.2%	51.6%	45.1%	24.6%	0.0%	1.6%	3.3%

「栄養バランスを意識した食事摂取」をしていない（できない）理由										
	バランスの良い食事がわからない	必要と思わない	調理をしない・できない	外食が多い	好き嫌いが多く	忙しくて時間がない	食材費等が高騰し買えない	周辺に食材等の買い物環境がない	その他	無回答
全体（n=352）	9.9%	8.5%	16.2%	32.1%	7.1%	38.1%	19.9%	4.3%	5.1%	15.3%
20歳未満（n=16）	37.5%	6.3%	18.8%	18.8%	12.5%	6.3%	18.8%	0.0%	6.3%	12.5%
20歳代（n=55）	14.5%	5.5%	20.0%	32.7%	12.7%	38.2%	34.5%	7.3%	1.8%	14.5%
30歳代（n=77）	9.1%	7.8%	18.2%	35.1%	2.6%	50.6%	18.2%	2.6%	1.3%	16.9%
40歳代（n=81）	6.2%	8.6%	9.9%	35.8%	6.2%	42.0%	16.0%	7.4%	6.2%	13.6%
50歳代（n=96）	6.3%	9.4%	14.6%	30.2%	7.3%	35.4%	18.8%	3.1%	9.4%	15.6%
60歳代（n=26）	7.7%	15.4%	26.9%	26.9%	7.7%	19.2%	7.7%	0.0%	3.8%	19.2%

3 感染予防対策と感染症に関する情報発信・普及啓発

● 性感染症検査の匿名・無料実施に関する認知度は若い世代で低い。

感染症全般に関する情報収集媒体をみると、「インターネット」と「テレビ」がどの世代においても主要な情報源となっています。区の公式情報（「広報みなど」「港区公式ホームページ」「区からのメールやSNS」）の利用は10%前後にとどまっています。

年代別にみると、「テレビ」は年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60歳代では「広報みなど」（22.1%）など区の情報の利用も他の年代より高くなっています。

感染症全般に関する情報収集媒体（年代別）

調査対象	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (n=38)	インターネット 81.6%	テレビ 47.4%	新聞 13.2%	広報みなど 10.5%	港区公式HP 7.9%
20歳代 (n=128)	インターネット 72.7%	テレビ 39.1%	厚労省HP 21.1%	東京都HP 11.7%	港区公式HP 10.9%
30歳代 (n=217)	インターネット 73.3%	テレビ 36.9%	厚労省HP 12.0%	港区公式HP 11.1%	区からのメールやSNS 11.1%
40歳代 (n=284)	インターネット 72.9%	テレビ 44.0%	厚労省HP 19.4%	港区公式HP 12.3%	メールやSNS 11.3%
50歳代 (n=341)	インターネット 78.3%	テレビ 59.2%	新聞 19.6%	厚労省HP 18.2%	港区公式HP 13.5%
60歳代 (n=122)	テレビ 69.7%	インターネット 64.8%	新聞 27.0%	広報みなど 22.1%	厚労省HP 16.4%

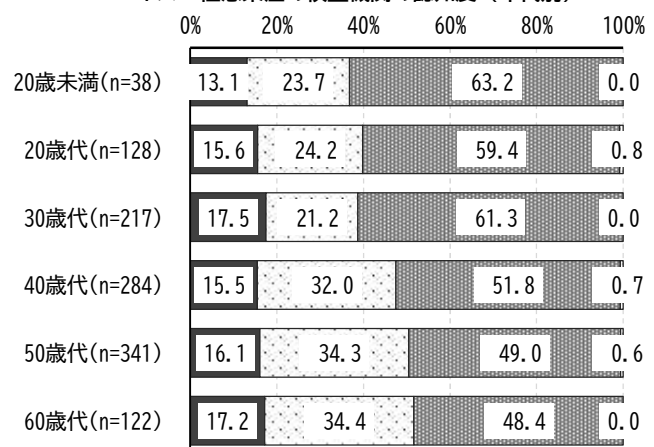
注) 20歳未満においては、「港区公式ホームページ」と「厚生労働省のホームページ」「その他」「入手していない」が7.9%で同率5位となっています。

注) 20歳代においては、「港区公式ホームページ」と「新聞」が10.9%で同率5位となっています。

エイズ・性感染症の検査機関の認知度について、年代別にみると、「知っている」割合は30歳代が最も高く、17.5%となっています。一方、「匿名・無料で受けられることを知らなかった」割合も若い世代で高く、20歳未満で63.2%、30歳代で61.3%となっています。

こうした結果から、匿名・無料の性感染症検査について、特に若い世代では十分に情報が行き届いていない状況がうかがえます。

エイズ・性感染症の検査機関の認知度（年代別）



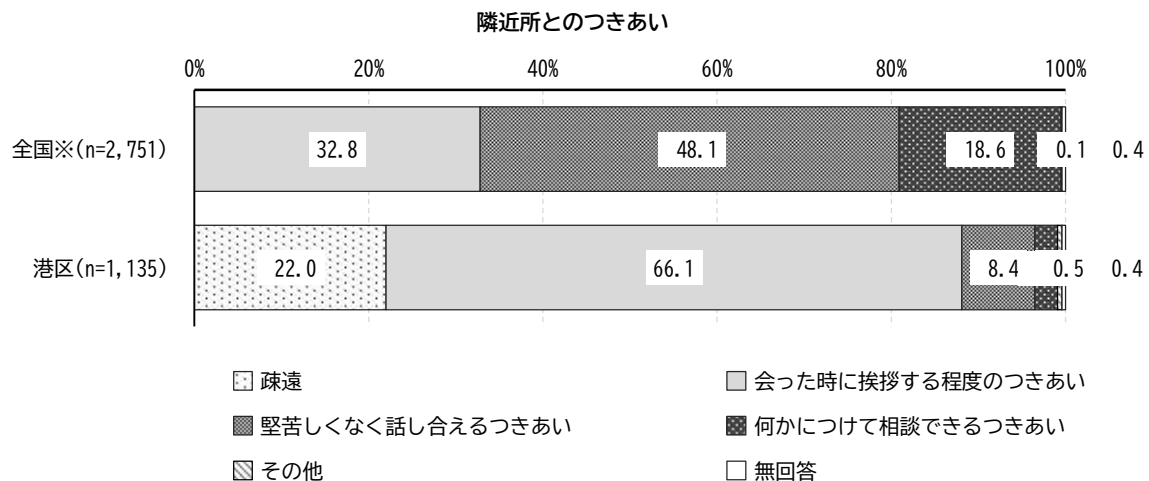
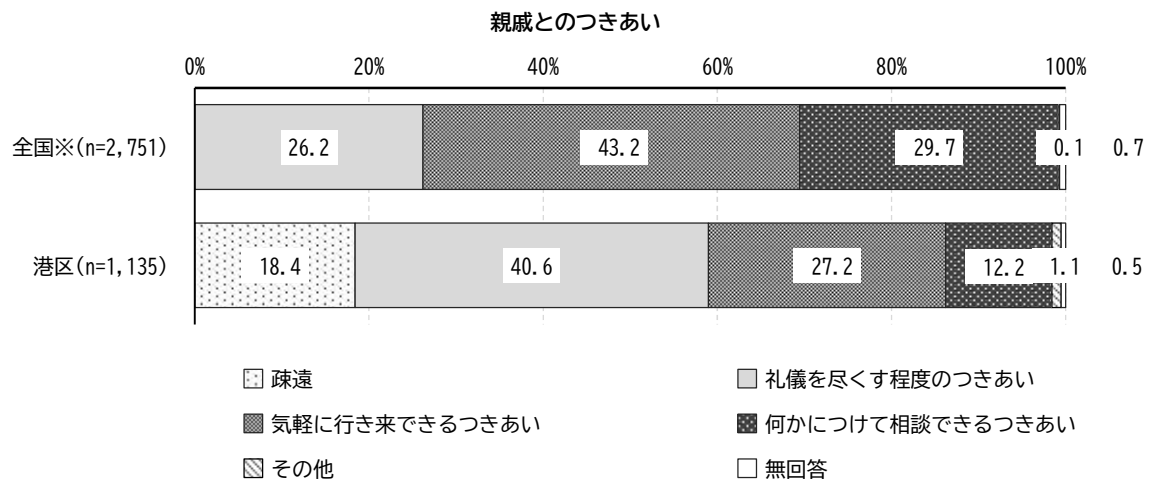
- 知っている
- 匿名・無料で受けられることは知っていたが、場所は知らなかった
- ▨ 匿名・無料で受けられることを知らなかった
- ▤ 無回答

4 人とのつながりについて

- 隣近所との付き合いは「会った時に挨拶する程度」「疎遠」が9割近くに達し、都心部ならではの特徴が浮き彫りとなっている。
- 住民同士の支え合いや助け合いの必要性は7割以上が認識しており、特に気軽な交流の場づくりや日常的なつながりづくりへのニーズが高くなっている。
- 地域活動への参加に消極的な層でも居場所の利用ニーズが一定程度ある。

親戚との付き合いについて、全国調査では、「気軽に行き来ができる」「何かにつけて相談ができる」付き合いが望ましいという回答が72.9%でしたが、港区の実態は39.4%にとどまり、「礼儀を尽くす程度」「疎遠」が約6割となっています。

また、隣近所との付き合いでも、全国調査では「堅苦しくなく話し合える」「何かにつけて相談できる」が望ましいという回答が66.7%でしたが、そのような関係性を築けているのは港区では約1割となっており、反対に「会った時に挨拶する程度」「疎遠」が9割近くに達し、港区民は全国と比べて、親族や地域との関係が希薄な傾向がみられます。



注) 全国の数値は、NHK 放送文化研究所 第10回「日本人の意識」調査(2018) (親戚・近所との『望ましい付き合い方』に関する設問)の結果です。

注) 港区の数値は本調査における『現在の付き合い方』に関する設問の結果であり、全国の値と港区の値では質問内容が異なるため、数値の比較は厳密な対応関係を示すものではなく、あくまで傾向の参考として示したものです。

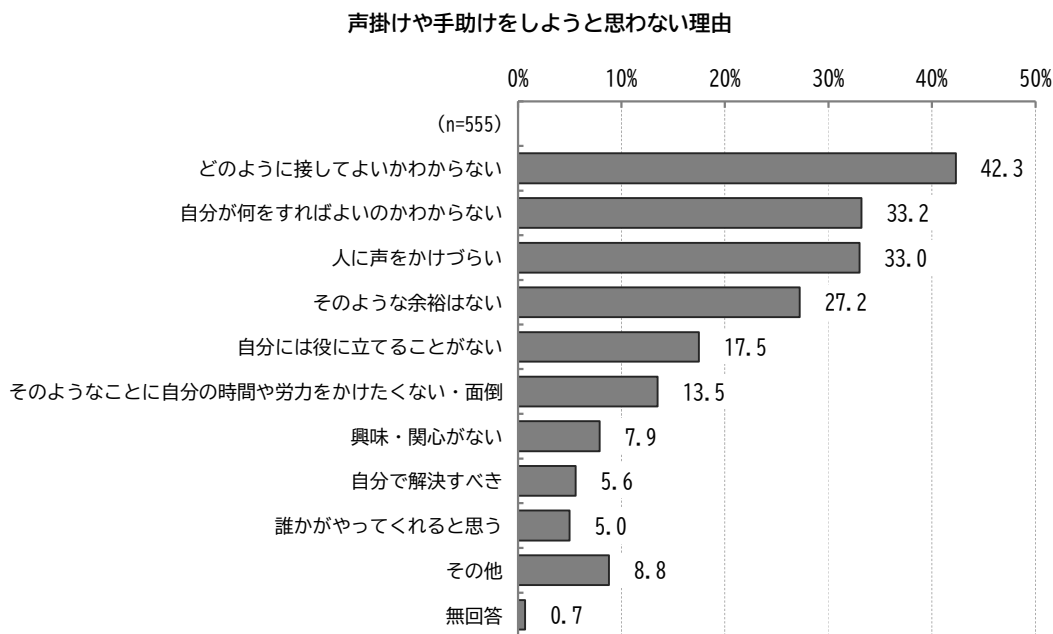
一方、住民同士の支え合いや助け合いについて、必要だと思う（「とても必要だと思う」「まあまあ必要だと思う」の合計）割合は73.2%と高くなっています。

支え合いや助け合いが必要だと答えた人に、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするために必要な取組を聞いたところ、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」（41.2%）が最も高く、次いで「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」（37.5%）、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」（36.3%）となっています。

住民同士の助け合いの必要性は広く認識されており、特に気軽な交流の場づくりや日常的なつながりづくりが求められています。

地域や交流の場において、気になる人や不安や悩みを抱えている人への声かけや手助けをしたいと思うかについて、「はい」（50.3%）と「いいえ」（48.9%）がほぼ同程度となっています。

声掛けや手助けをしようと思わない理由では、「どのように接してよいかわからない」（42.3%）が最も高く、次いで「自分が何をすればよいかわからない」（33.2%）、「人に声をかけづらい」（33.0%）となっており、具体的な関わり方がわからないことが主な理由となっています。また、「そのような余裕はない」（27.2%）という時間的・精神的な余裕のなさも目立っています。



地域活動への参加状況を見ると、全体では、参加意向がある（「参加したい」「参加したいが事情があって参加できない」の合計）割合が50.2%となっています。

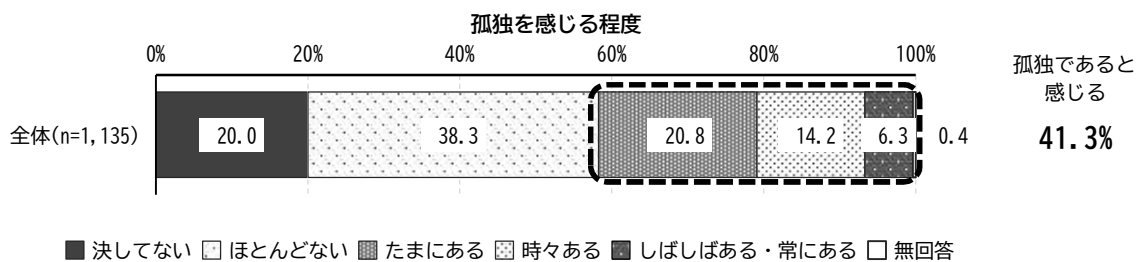
一方、「参加したくない」と回答した人は41.5%でしたが、そのうち誰もが気軽に立ち寄れ、自由な時間を過ごす居場所については35.0%が「利用したい」と回答しており、地域活動への参加に消極的な層でも居場所の利用ニーズが一定程度みられます。

5 孤独・孤立の状況と自殺対策

- 孤独であると感じる程度をみると、孤独・孤立の状態は人生のあらゆる段階において何人にも生じ得るものである。
- 「育児・子育て」を除き、福祉課題を抱えている人ほど孤独を感じるが多くなる。

孤独であると感じることが「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」を合わせると41.3%となっています。全国調査では39.3%であり、本調査の方がやや孤独を感じる人の割合が多くなっています。

また、孤独を感じる人は、性別や年代に関わらず3割から4割程度おり、孤独・孤立の状態は特定の属性に限らず、人生のあらゆる段階において誰にでも生じ得るものであることがうかがえます。



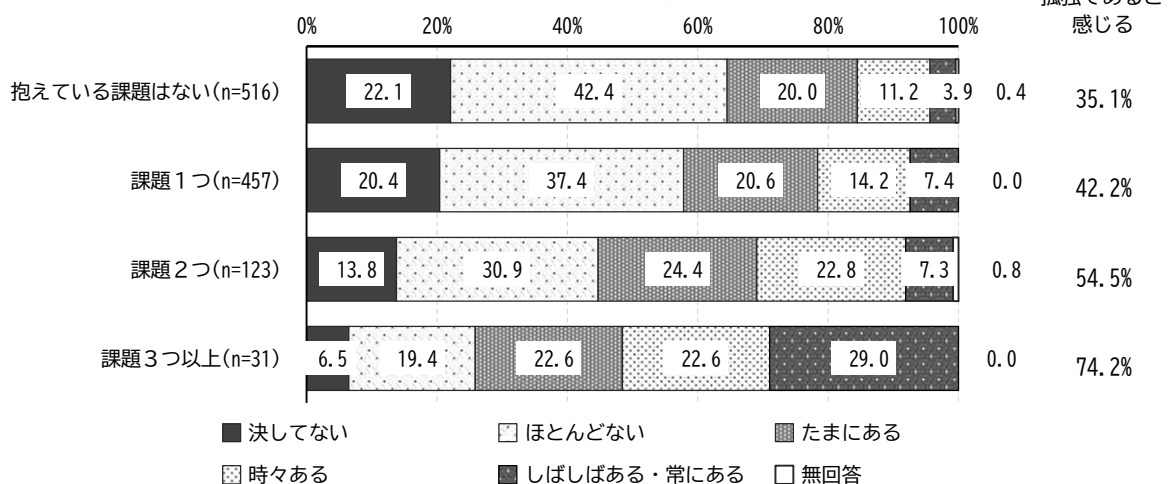
注) 全国調査の結果は、内閣府「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」(令和6年)によるものです。

孤独を感じる程度別に福祉課題の状況をみると、「抱えている課題はない」の割合は、孤独を「決してない」「ほとんどない」層では5割程度であるのに対し、「しばしばある・常にある」層では27.8%まで低下しています。福祉課題を複数抱えている人ほど孤独を感じるが多くなることがうかがえます。

福祉課題の状況 (孤独を感じる程度別)

	育児・子育て (子どもの介護・看護を含む)	親の介護・看護	配偶者(夫・妻)の 介護・看護	自身の疾病(高齢化に伴う日常生活自立度の低下を含む)	自身の障害	生活困窮・貧困	その他	抱えている課題はない	無回答
決してない (n=227)	33.5%	14.5%	0.4%	5.3%	0.9%	3.5%	0.9%	50.2%	0.4%
ほとんどない (n=435)	21.6%	21.1%	1.1%	6.9%	1.4%	4.8%	4.1%	50.3%	0.2%
たまにある (n=236)	18.2%	22.9%	0.8%	15.3%	1.3%	13.6%	2.1%	43.6%	0.8%
時々ある (n=161)	18.0%	31.1%	3.7%	11.2%	3.7%	17.4%	3.7%	36.0%	1.9%
しばしばある・常にある (n=72)	11.1%	22.2%	2.8%	23.6%	9.7%	33.3%	11.1%	27.8%	0.0%

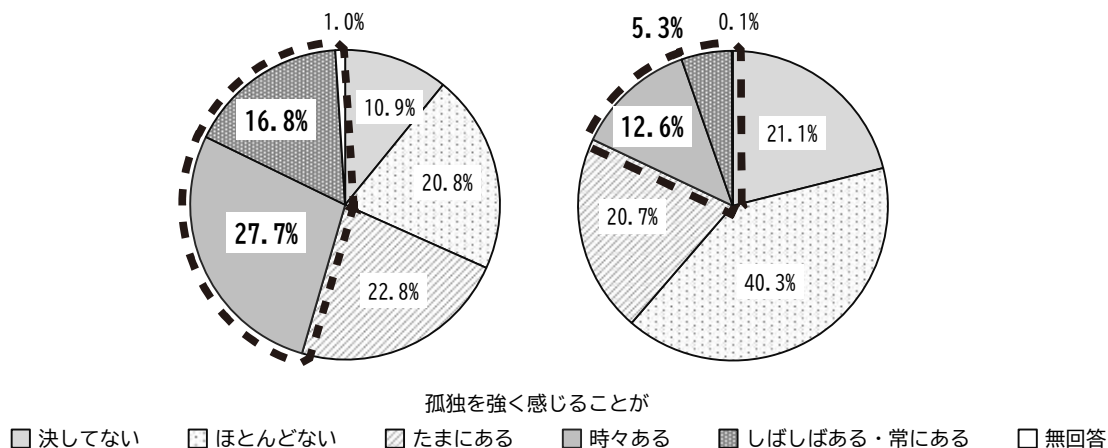
孤独を感じる程度 (福祉課題の数別)



自殺の準備をした経験の有無別に孤独の程度をみると、『孤独を強く感じる（「時々ある」「しばしばある・常にある」の合計）』割合は、経験がある人で44.5%、ない人で17.9%と、自殺の準備をした経験がある人ほど孤独をより強く頻繁に感じています。

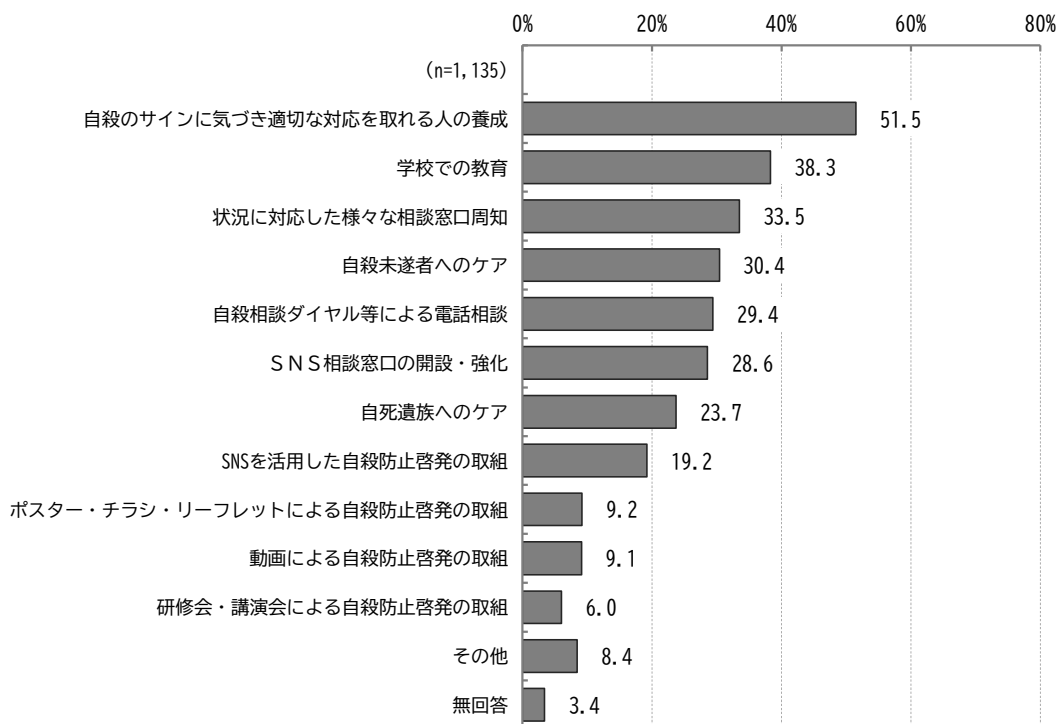
自殺の準備と孤独を感じる程度

自殺の準備の経験がある(n=101) 自殺の準備の経験がない(n=1,016)



自殺対策として必要な取組をみると、「自殺のサインに気づき適切な対応を取れる人の養成」(51.5%)が最も高く、続いて「学校での教育」(38.3%)、「状況に対応した様々な相談窓口周知」(33.5%)、「自殺未遂者へのケア」(30.4%)、「自殺相談ダイヤル等による電話相談」(29.4%)となっています。一方、啓発的な取組は「SNSを活用した取組」(19.2%)を除き、10%未満となっています。

自殺対策として必要な取組



6 ひきこもりの状況

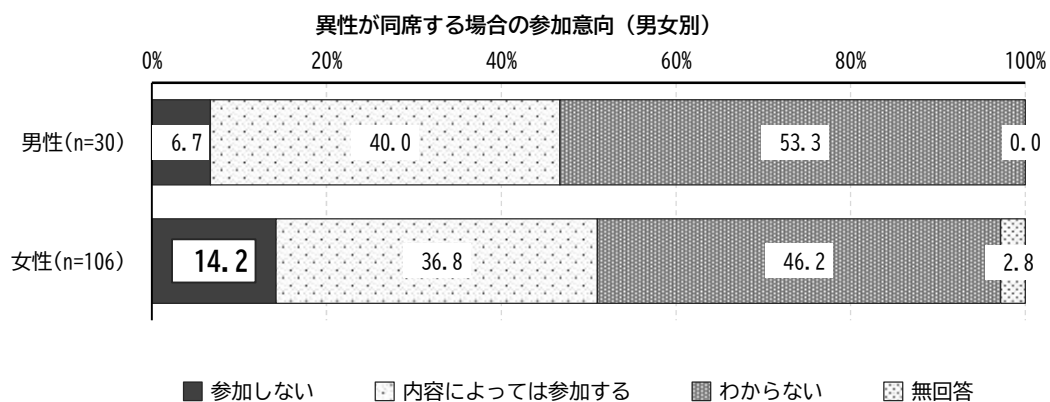
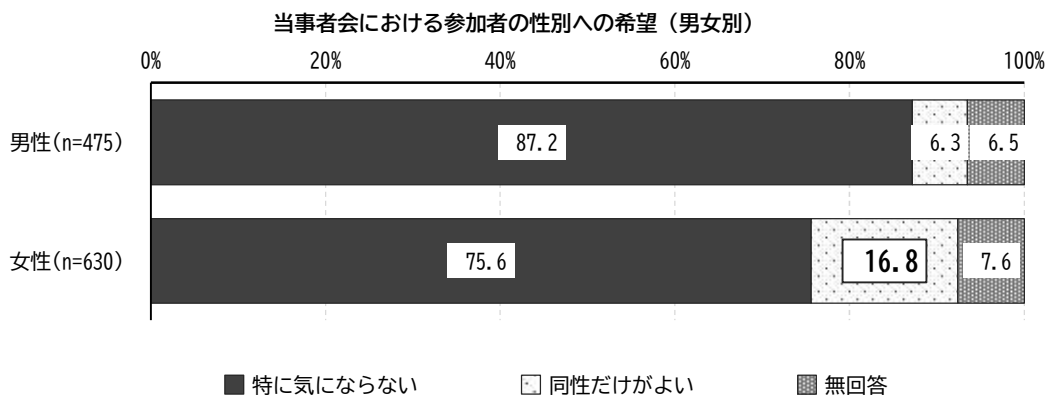
- ひきこもり状態の家族（本人含む）がいる回答者は3.3%（37人）となっており、前回調査の2.7%（25人）よりも増加している。
- 当事者会への参加において、女性は男性より同性での参加を重視する傾向が強い。

ひきこもり状態の家族（本人含む）がいる回答者は3.3%（37人）となっており、前々回調査の1.1%（8人）、前回調査の2.7%（25人）、今回調査と、調査を重ねるごとに増加傾向にあります。

この3.3%を単純に港区の15歳から64歳の人口（187,106人）に当てはめると、6,174人にのぼります。

当事者会に参加する場合、参加者の性別について、「同性だけがよい」は女性（16.8%）が男性（6.3%）を上回っています。また、同性だけを希望する人に異性がいる場合の参加意向を聞いたところ、「参加しない」は女性（14.2%）が男性（6.7%）を上回っており、女性の方がより同性での参加を重視する傾向がみられます。

このことから、特に女性参加者に対しては、同性のみの参加機会の確保など、性別に配慮した当事者会の運営が必要であると考えられます。



7 区民の終活に対する意識や意向

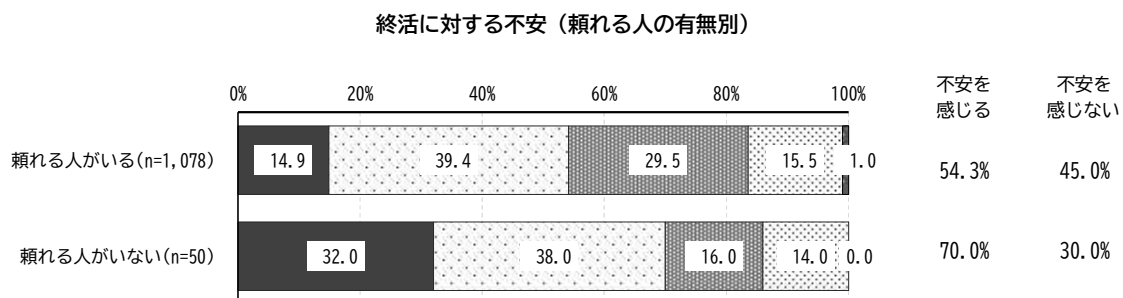
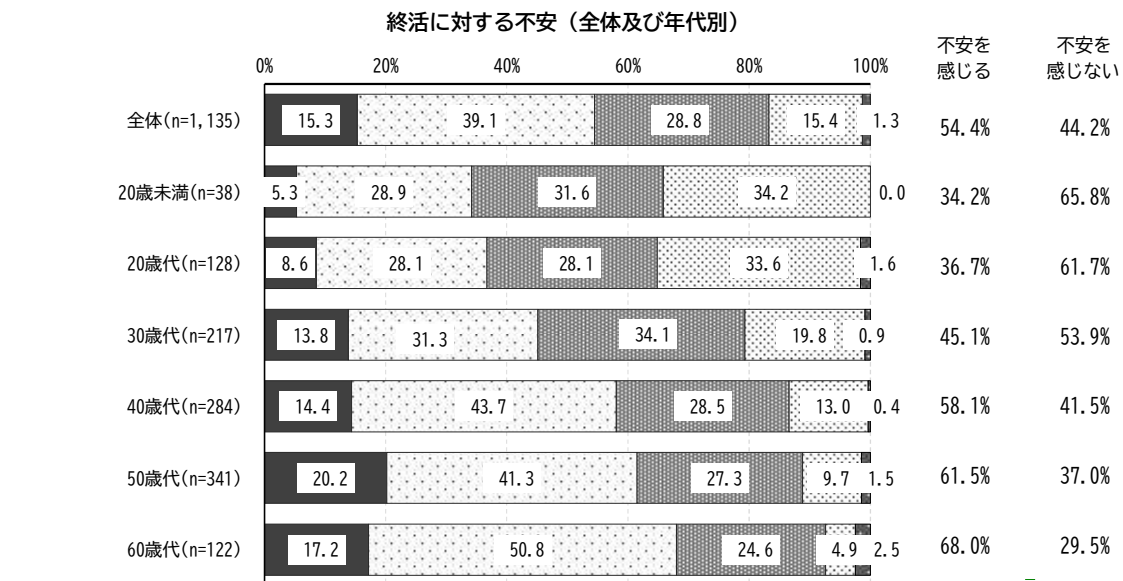
※高齢者の結果は、「港区保健福祉基礎調査報告書（高齢者調査）」(p.16) 参照

- 終活に対する不安は年齢とともに上昇し、また頼れる人がいない人は、頼れる人がいる人よりも強く不安を感じている。
- 終活への不安の背景には、具体的な進め方がわからないことや頼れる存在の不在といった課題が大きい。

終活に関する不安については、不安を感じる（「とても不安を感じる」「少し不安を感じる」の合計）割合は54.4%となっており、不安を感じない（「あまり不安を感じない」「全く不安を感じない」の合計）割合の44.2%を上回っています。

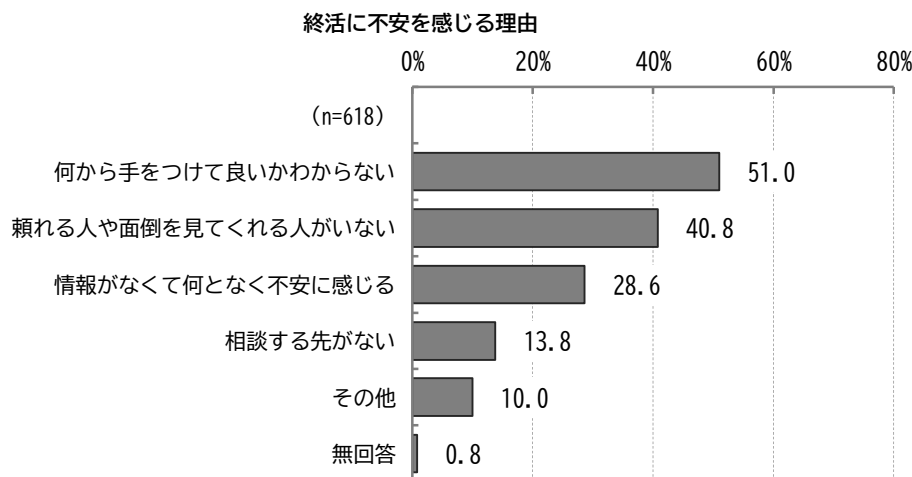
年代別にみると、不安を感じる割合は年齢とともに上昇し、60歳代（68.0%）で最も高くなっています。

頼れる人の有無別にみると、不安を感じる割合は、頼れる人がいない人（70.0%）が、頼れる人がいる人（54.3%）を大きく上回っており、特に「とても不安を感じる」は32.0%と、頼れる人がいる人（14.9%）の約2倍となっています。

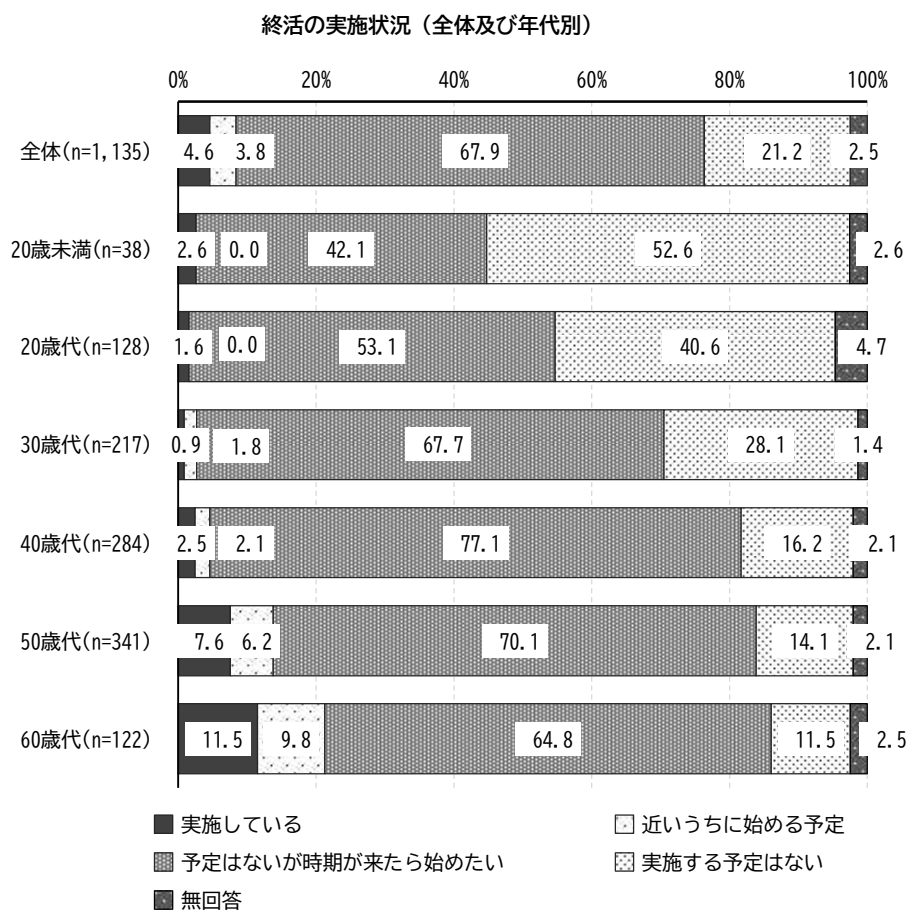


■ とても不安を感じる □ 少し不安を感じる ▨ あまり不安を感じない ▩ 全く不安を感じない ■ 無回答

終活に不安を感じる理由として、「何から手をつけて良いかわからない」(51.0%)が最も高く、次いで「頼れる人や面倒を見てくれる人がいない」(40.8%)、「情報がなくて何となく不安を感じる」(28.6%)、「相談する先がない」(13.8%)となっています。終活への不安の背景には、具体的な進め方がわからないことや頼れる存在がいないことがうかがえます。



終活の実施状況について、年代別にみると、「実施している」割合は全体的に低い傾向にあるものの、50歳代(7.6%)、60歳代(11.5%)では上昇しています。また、実施又は予定あり(「実施している」「近いうちに始める予定」の合計)の割合は、20歳代以上では、年齢とともに上昇し、60歳代では21.3%となっています。一方、「予定はないが時期が来たら始めたい」との回答は20歳代以上の全ての年代で最も高くなっています。

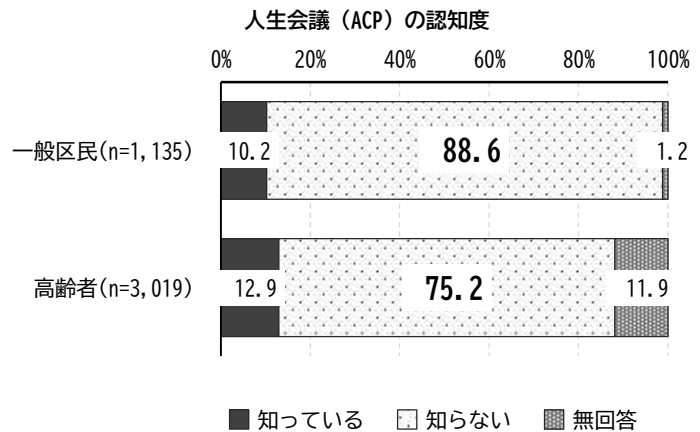


8 ACP や人生の最終段階での医療・介護に関する区民の意識

- 人生会議（ACP）については、認知度は全年齢層で1割程度と低いものの、実践意欲は50代を中心に多くなっている。
- 終末期を過ごしたい場所は、一般区民、高齢者ともに「自宅」が最も多く選ばれている。その理由として「自分らしさの維持」と「住み慣れた環境での生活継続」を選択する人が多い一方、自宅以外を選択する理由としては「家族への負担」や「症状急変時の不安」が大きな要因となっている。

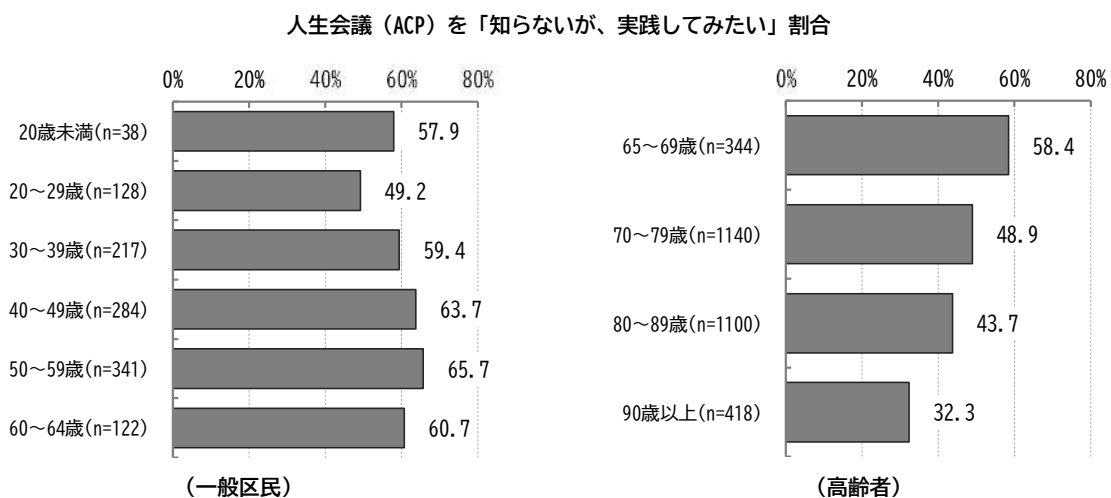
人生会議（ACP）の認知度をみると、いずれの年齢層でも「知らない」が8割程度と高く、「知っている」は1割程度と低くなっています。

一般区民の方が高齢者と比べて「知らない」の割合が高くなっています。



実践意欲については、一般区民は「知らないが、実践してみたい」の割合が50代（65.7%）で最も高く、次いで40代（63.7%）、60～64歳（60.7%）となっており、20歳未満（57.9%）や30代（59.4%）でも比較的高くなっています。

一方、高齢者では年齢が上がるにつれて低下し、65～69歳（58.4%）、70代（48.9%）、80代（43.7%）、90歳以上（32.3%）となっています。



終末期を過ごしたい場所をみると、「自宅」の割合は一般区民が61.7%、高齢者が52.6%と、いずれも最も高くなっています。次いで多い場所は、一般区民では「介護施設」(17.4%)、「医療機関」(12.4%)の順である一方、高齢者では「医療機関」(20.4%)、「介護施設」(15.0%)の順となっています。

また、同居人の有無も踏まえて結果を見ると、高齢者では同居人の有無による差が大きく、「自宅」を希望する割合は同居人がいる人(56.7%)が一人暮らし(46.5%)を10ポイント以上上回っています。なお、一般区民では同居人の有無による大きな差は見られません。

終末期を過ごしたい場所

終末期を過ごしたい場所で「自宅」を選んだ割合
(同居の有無別)

調査対象	終末期を過ごしたい場所			終末期を過ごしたい場所で「自宅」を選んだ割合 (同居の有無別)		
	第1位	第2位	第3位	調査対象	自宅	
一般区民(n=1,135)	自宅	介護施設	医療機関	一般区民	同居人がいる(n=783)	61.6%
	61.7%	17.4%	12.4%		一人暮らし(n=349)	61.9%
高齢者(n=3,019)	自宅	医療機関	介護施設	高齢者	同居人がいる(n=1,815)	56.7%
	52.6%	20.4%	15.0%		一人暮らし(n=1,169)	46.5%

終末期を過ごしたい場所で「自宅」を選択した理由をみると、一般区民、高齢者ともに「最期まで自分らしく好きなように過ごしたい」「住み慣れた場所で最期を迎えたい」の2つが他の理由と比べて特に高くなっています。

終末期を過ごしたい場所で「自宅以外」を選択した理由をみると、一般区民、高齢者ともに、家族等への負担を心配する声が多く、次いで症状急変時の対応への不安が高くなっています。

終末期を過ごす場所について、自分らしさの維持と生活環境の継続性を望み、自宅を選択する人がいる一方、家族等への負担や症状急変時の対応への不安を理由に、自宅以外を選択した人もいます。

終末期を過ごしたい場所で「自宅」を選んだ理由(上位5位)

調査対象	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
一般区民(n=700)	最期まで自分らしく好きなように過ごしたい 69.7%	住み慣れた場所で最期を迎えたい 63.6%	家族等に看取られたくない 28.6%	医療機関や介護施設で過ごすとき経済的に負担が大きい 11.9%	訪問してくれるかかりつけの医師がいる 2.1%
高齢者(n=1,589)	住み慣れた場所で最期を迎えたい 67.5%	最期まで自分らしく好きなように過ごしたい 67.4%	家族等に看取られたくない 34.1%	医療機関や介護施設で過ごすとき経済的に負担が大きい 13.4%	訪問してくれるかかりつけの医師がいる 9.7%

終末期を過ごしたい場所で「自宅以外」を選んだ理由(上位5位)

調査対象	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
一般区民(n=428)	家族等に負担をかけたくない 61.4%	症状が急に悪くなったときの対応に不安がある 29.0%	介護してくれる家族がいない 19.2%	在宅医療や在宅介護のケア内容が分からない 13.3%	その他 11.9%
高齢者(n=1,228)	家族等に負担をかけたくない 50.5%	症状が急に悪くなったときの対応に不安がある 43.2%	介護してくれる家族がいない 21.3%	在宅医療や在宅介護のケア内容が分からない 13.6%	訪問してくれるかかりつけの医師がいない 12.7%

第3章 集計結果

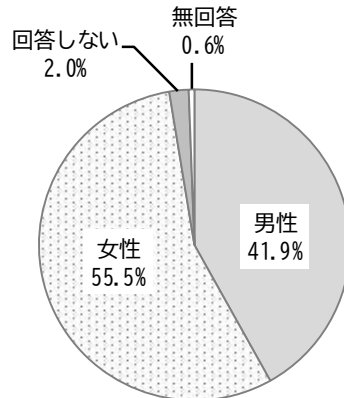
1 一般区民を対象とした調査の集計結果

1. あなた自身について

問1 性別を教えてください。(○は1つ)

「男性」が41.9%、「女性」が55.5%、「回答しない」が2.0%となっている。

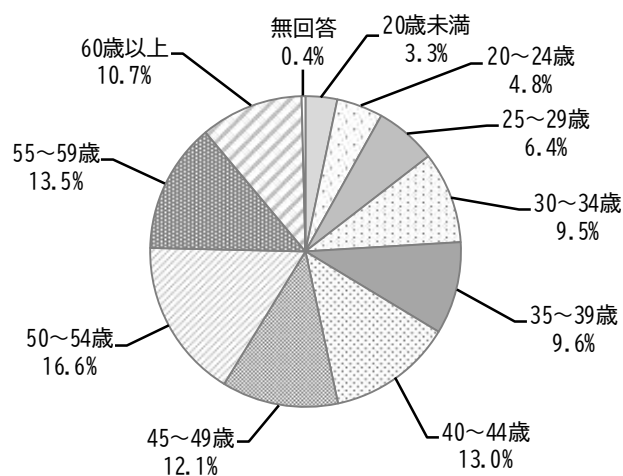
(n=1,135)



問2 年齢を教えてください。(○は1つ)

「50～54歳」が16.6%と最も多く、次いで「55～59歳」が13.5%、「40～44歳」が13.0%となっている。

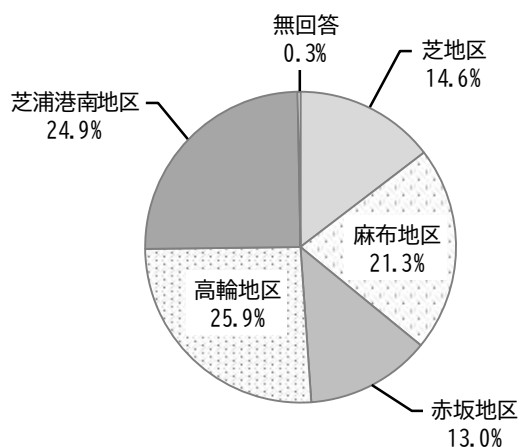
(n=1,135)



問3 お住まいの地区を教えてください。(〇は1つ)

「高輪地区」が25.9%と最も多く、次いで「芝浦港南地区」が24.9%、「麻布地区」が21.3%となっている。

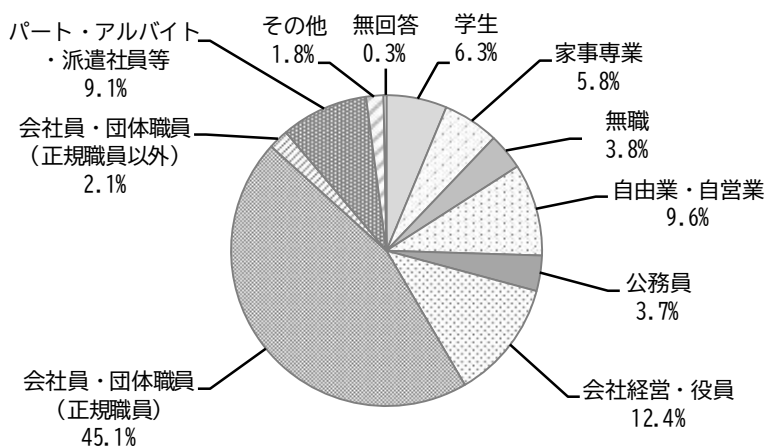
(n=1,135)



問4 職業を教えてください。(〇は1つ)

「会社員・団体職員(正規職員)」が45.1%と最も多く、次いで「会社経営・役員」が12.4%、「自由業・自営業」が9.6%となっている。

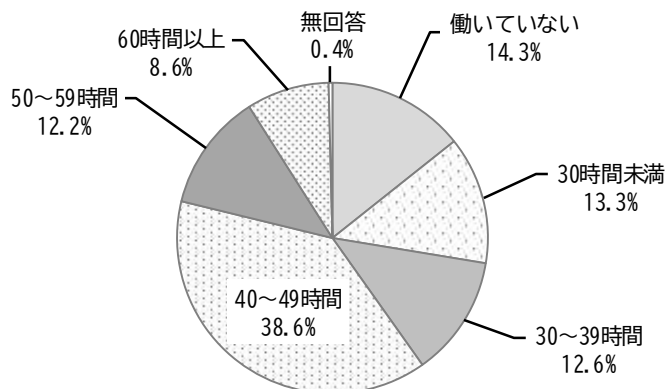
(n=1,135)



問5 あなたの一週間の平均的な労働時間を教えてください。(○は1つ)

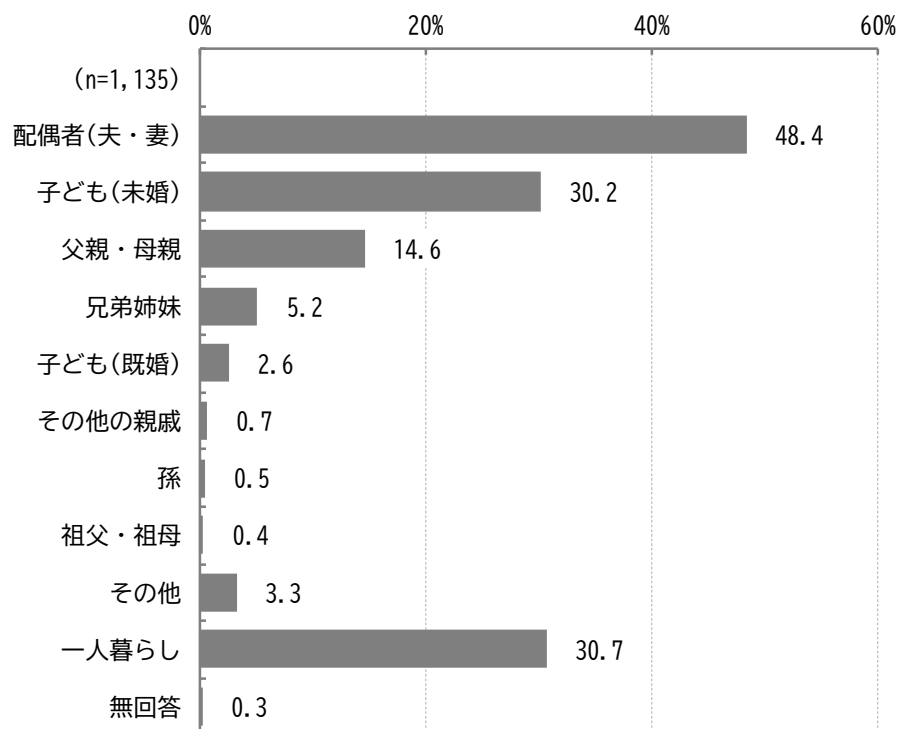
「40～49時間」が38.6%と最も多く、次いで「30時間未満」が13.3%、「30～39時間」が12.6%となっている。

(n=1,135)



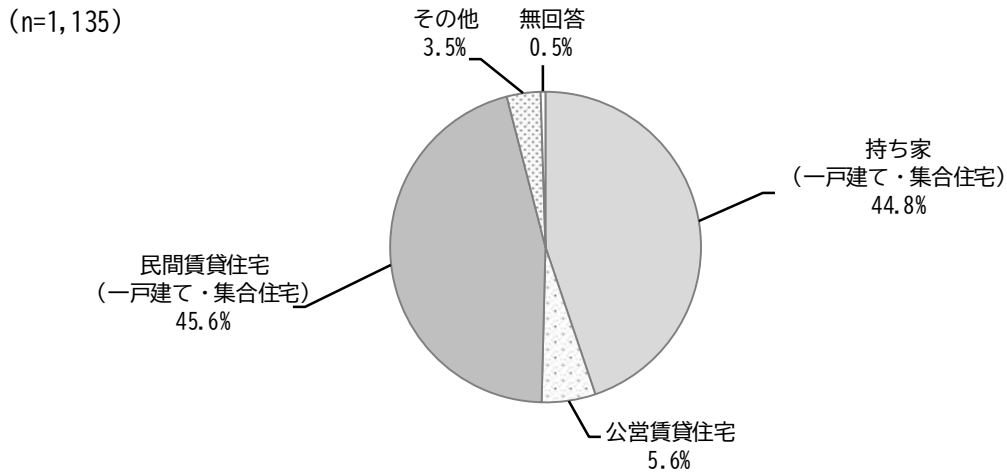
問6 現在、どなたと同居しているか教えてください。(○はいくつでも)

「配偶者(夫・妻)」が48.4%と最も多く、次いで「一人暮らし」が30.7%、「子ども(未婚)」が30.2%となっている。



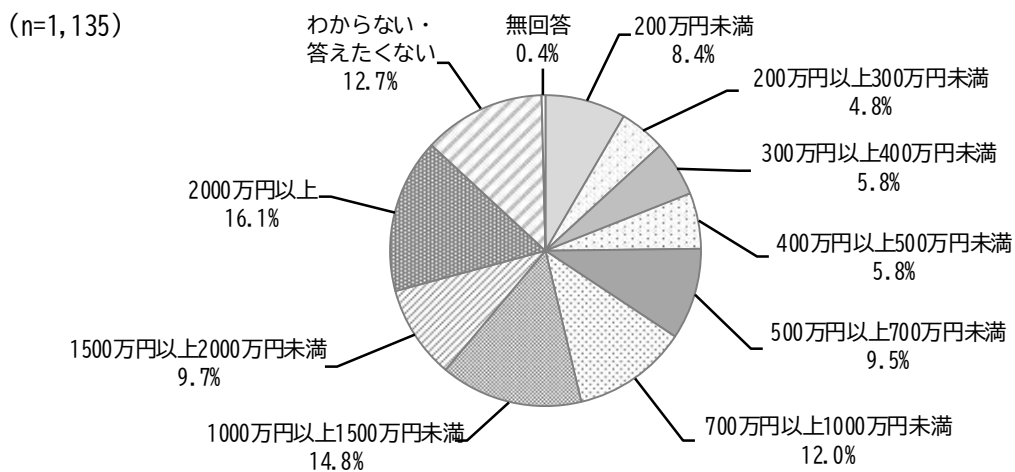
問7 現在お住まいの住宅を教えてください。(〇は1つ)

「民間賃貸住宅(一戸建て・集合住宅)」が45.6%と最も多く、次いで「持ち家(一戸建て・集合住宅)」が44.8%、「公営賃貸住宅」が5.6%となっている。



問8 あなたの世帯全体における昨年1年間のおおよその年収(税込)を教えてください。(〇は1つ) ※年金や生活保護等の金額も含まれます。

「2000万円以上」が16.1%と最も多く、次いで「1000万円以上1500万円未満」が14.8%、「わからない・答えたくない」が12.7%となっている。

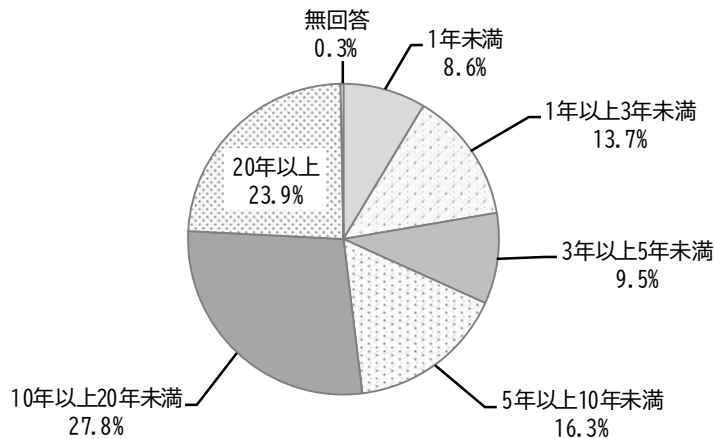


問9 港区での居住年数を教えてください。(○は1つ)

※港区内で引っ越し等をしている場合は、合計の年数をお選びください。

「10年以上20年未満」が27.8%と最も多く、次いで「20年以上」が23.9%、「5年以上10年未満」が16.3%となっている。

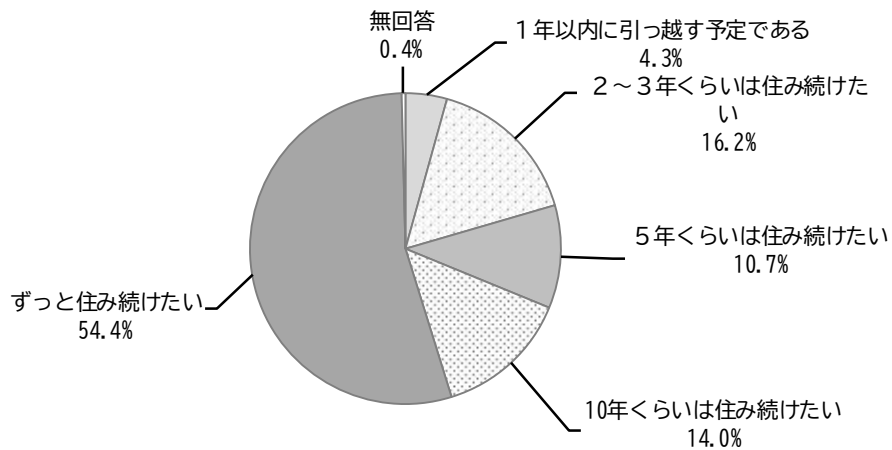
(n=1,135)



問10 今後、港区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

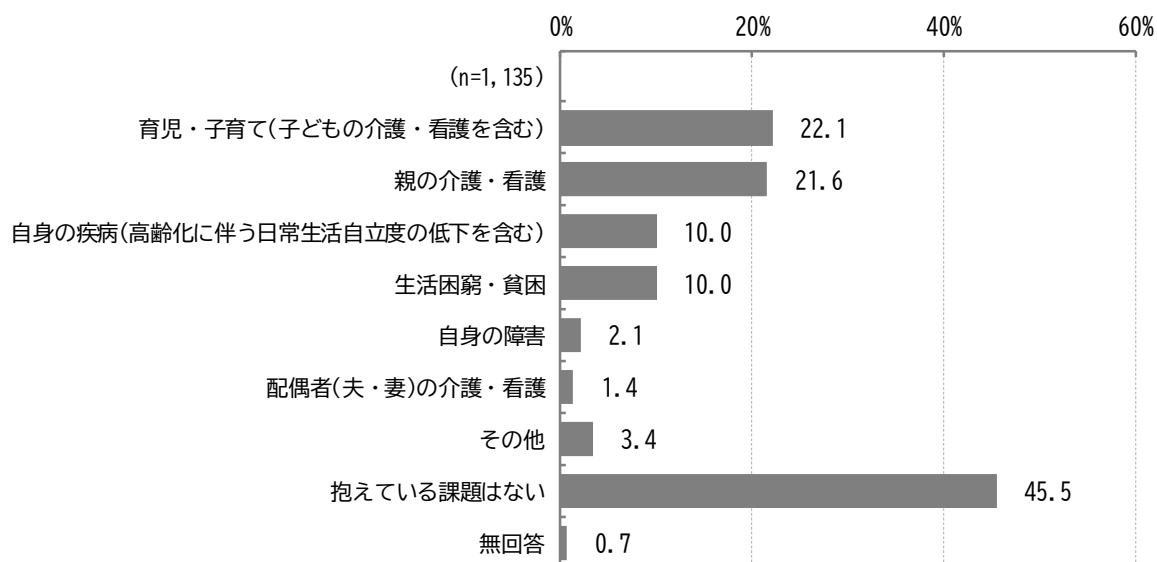
「ずっと住み続けたい」が54.4%と最も多く、次いで「2～3年くらいは住み続けたい」が16.2%、「10年くらいは住み続けたい」が14.0%となっている。

(n=1,135)



問11 あなたが現在抱えている福祉課題を教えてください。(〇はいくつでも)

「抱えている課題はない」が45.5%と最も多く、次いで「育児・子育て(子どもの介護・看護を含む)」が22.1%、「親の介護・看護」が21.6%となっている。

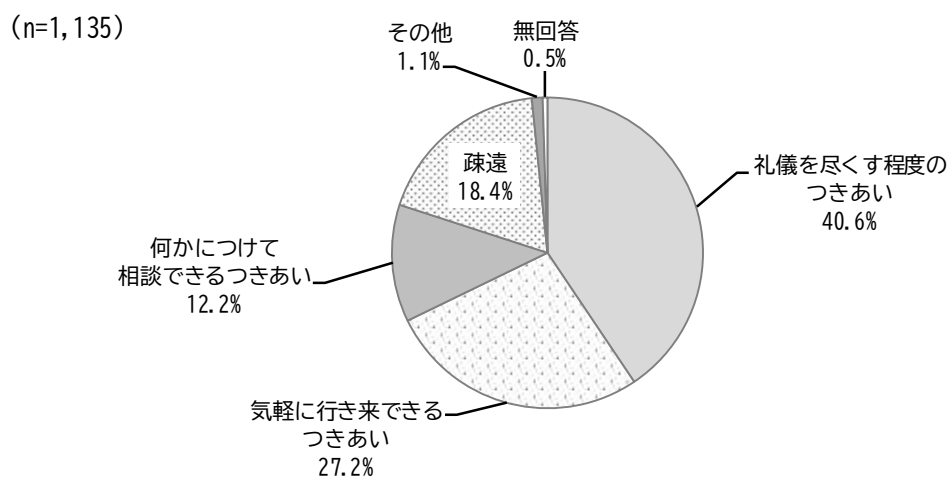


2. 地域での支え合いや地域活動について

問12 人とのつながりについて教えてください。(それぞれ○は1つ)

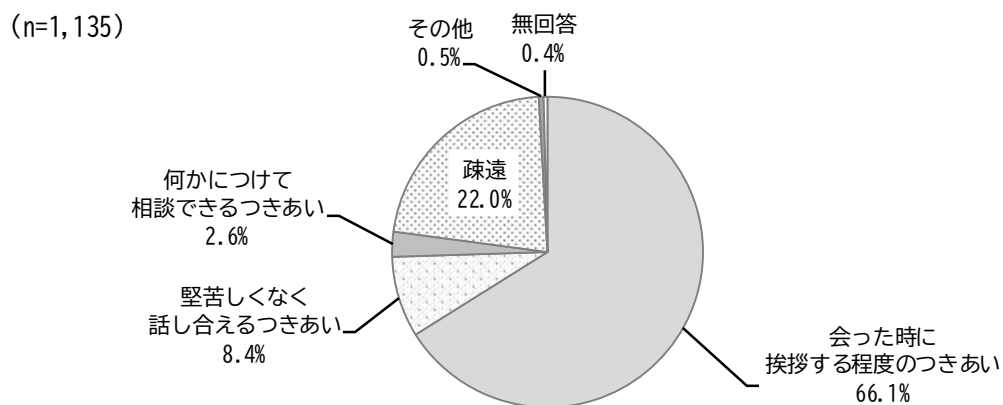
【親戚とのつきあいについて】

「礼儀を尽くす程度のつきあい」が40.6%と最も多く、次いで「気軽に行き来できるつきあい」が27.2%、「疎遠」が18.4%となっている。



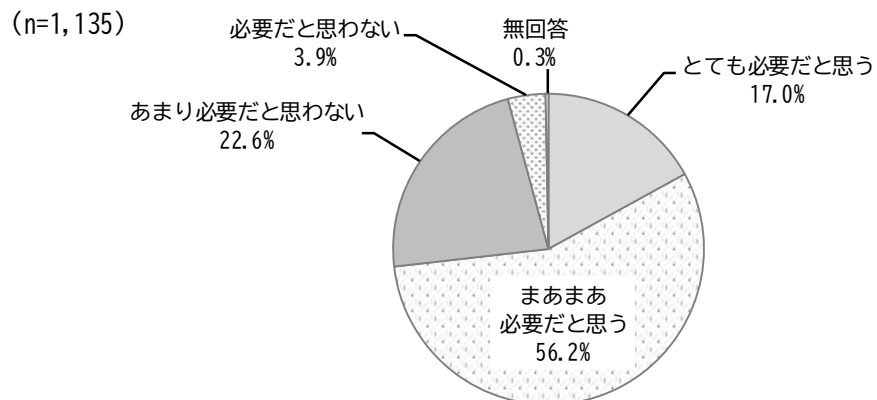
【隣近所とのつきあいについて】

「会った時に挨拶する程度のつきあい」が66.1%と最も多く、次いで「疎遠」が22.0%、「堅苦しくなく話し合えるつきあい」が8.4%となっている。



問13 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。

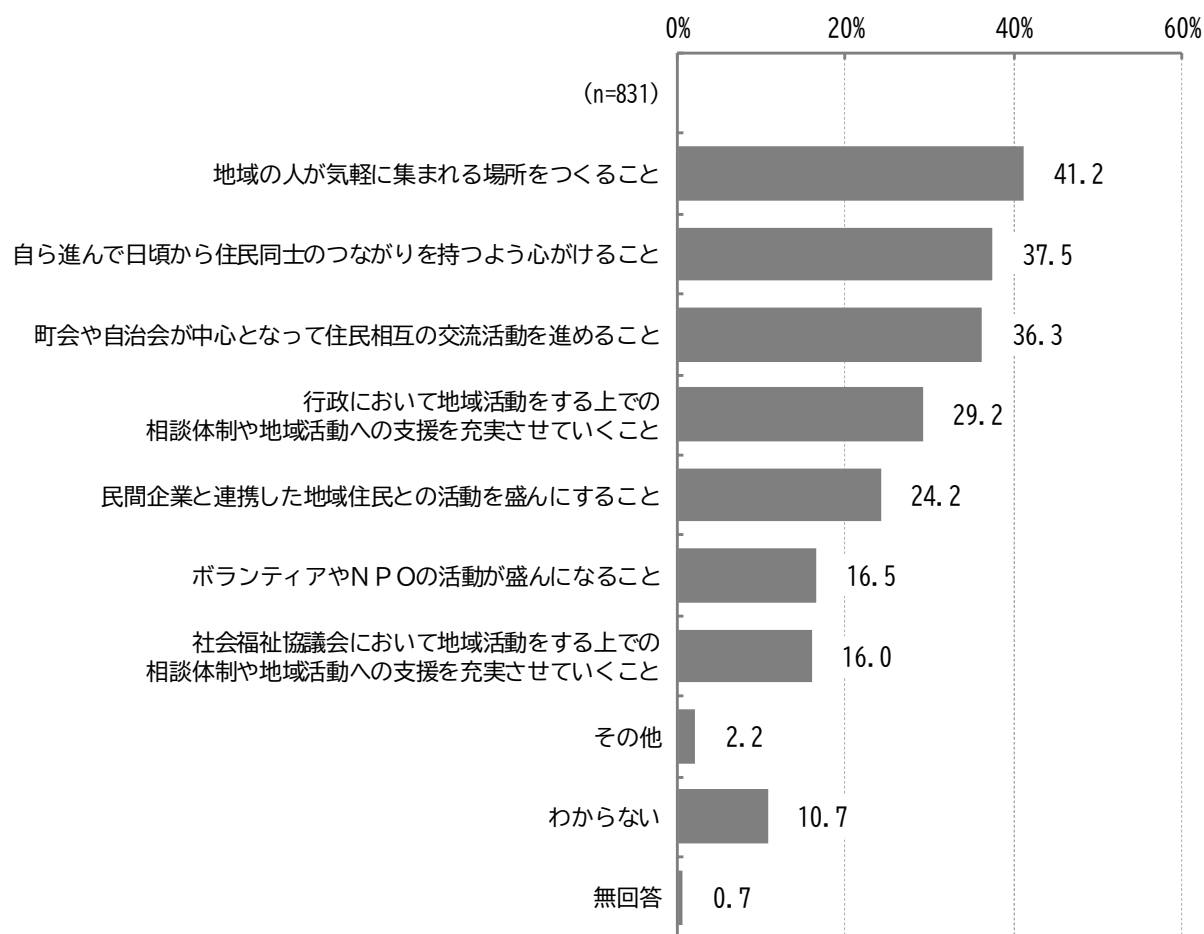
「まあまあ必要だと思う」が56.2%と最も多く、次いで「あまり必要だと思わない」が22.6%、「とても必要だと思う」が17.0%となっている。



※問 14 は、問 13 で選択肢「1.とても必要だと思う」又は「2.まあまあ必要だと思う」を選択した人のみ回答

問14 地域で起こる様々な生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

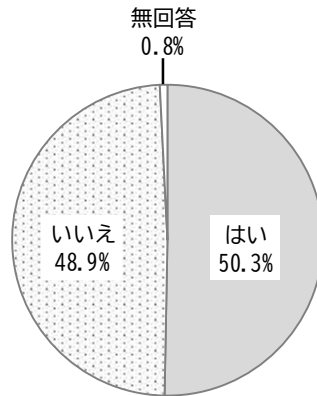
「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」が41.2%と最も多く、次いで「自ら進んで日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること」が37.5%、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」が36.3%となっている。



問15 お住まいの地域や様々な交流の場等で、気になる人や不安や悩みを抱えている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしようと思いますか。(〇は1つ)

「はい」が50.3%、「いいえ」が48.9%となっている。

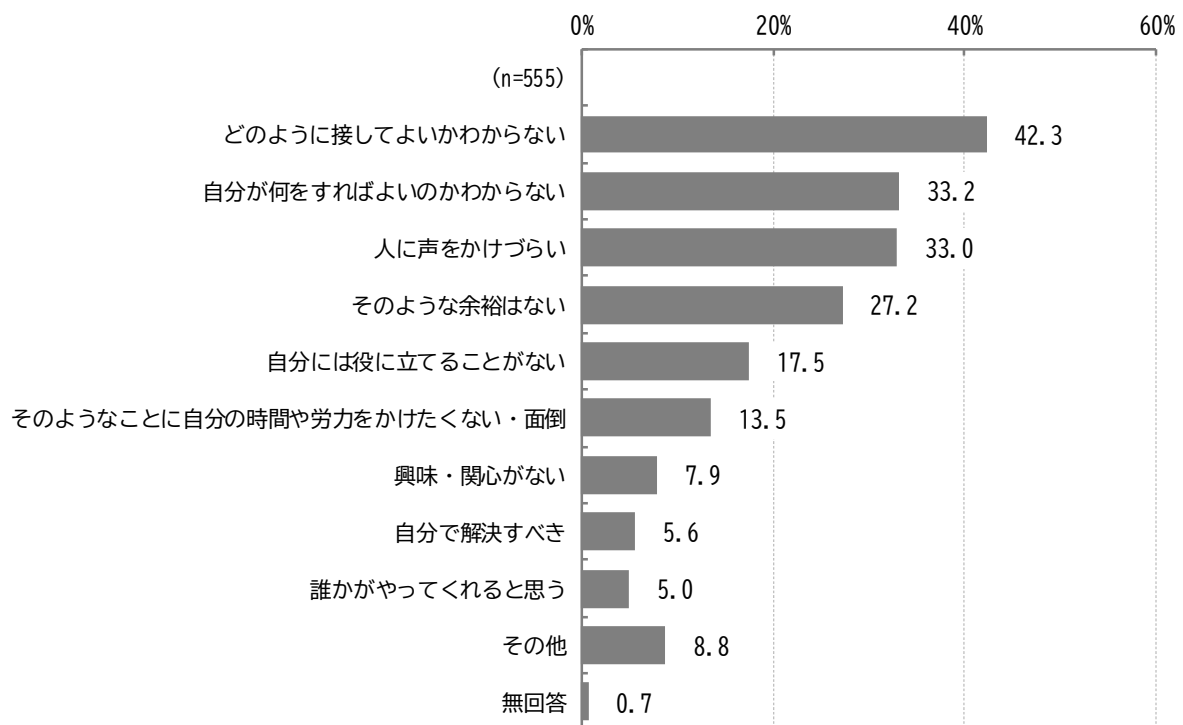
(n=1,135)



※問16は、問15で「いいえ」を選択した人のみ回答

問16 その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

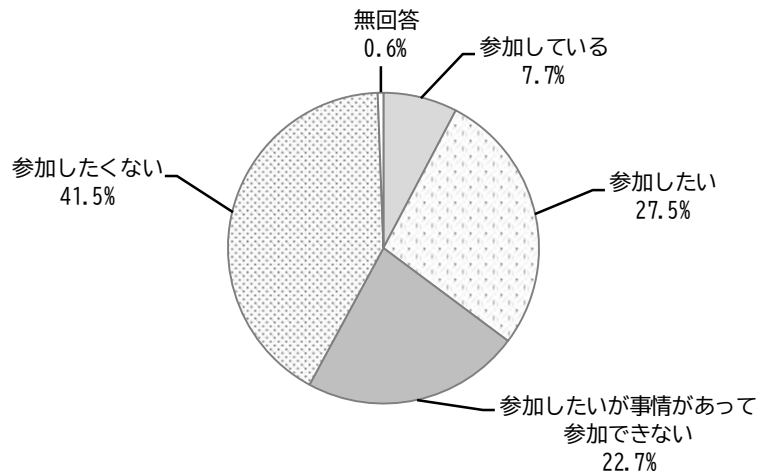
「どのように接してよいかわからない」が42.3%と最も多く、次いで「自分が何をすればよいかわからない」が33.2%、「人に声をかけづらい」が33.0%となっている。



問17 お住まいの地域で、グループや団体で自主的に行われている活動（地域活動）へ参加したいと思いますか。（○は1つ）

「参加したくない」が41.5%と最も多く、次いで「参加したい」が27.5%、「参加したいが事情があって参加できない」が22.7%となっている。

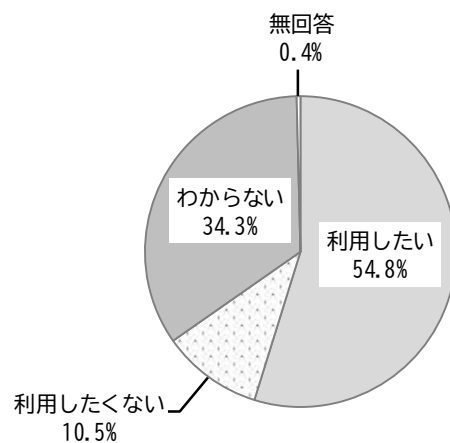
(n=1,135)



問18 誰もが気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごすことができ、心理的に解放されるような「居場所」があったら、利用したいと思いますか。（○は1つ）

「利用したい」が54.8%と最も多く、次いで「わからない」が34.3%、「利用したくない」が10.5%となっている。

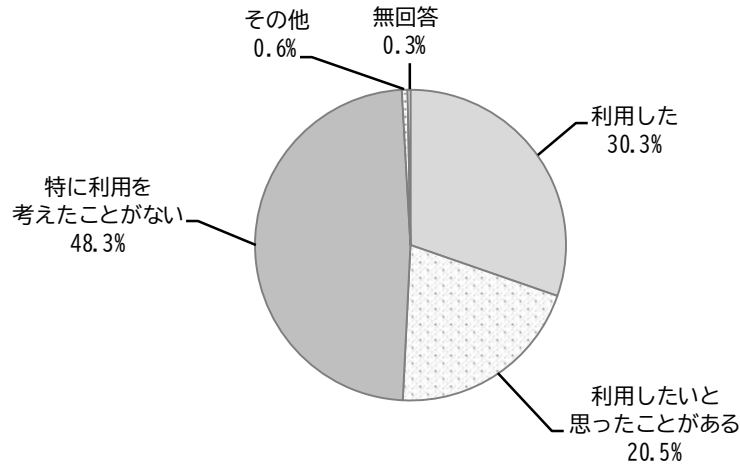
(n=1,135)



問19 最近、5年間に於いて、公衆浴場（銭湯）を利用したこと又は利用したいと思ったことはありますか。（○は1つ）

「特に利用を考えたことがない」が48.3%と最も多く、次いで「利用した」が30.3%、「利用したいと思ったことがある」が20.5%となっている。

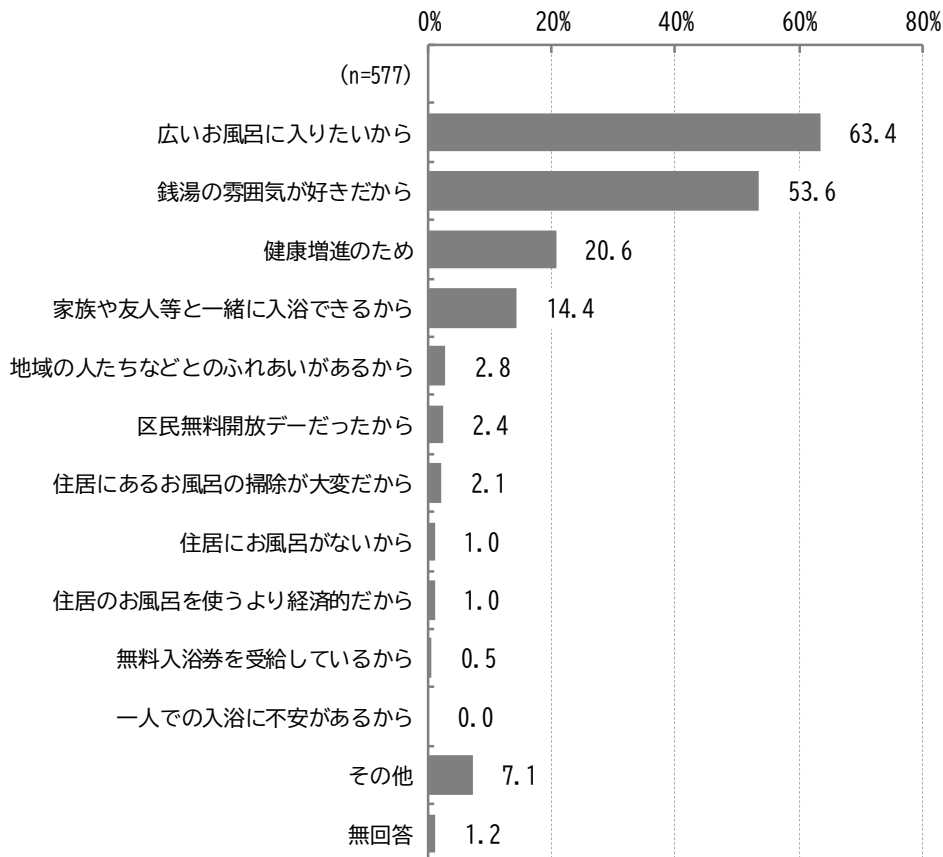
(n=1,135)



※問20は、問19で選択肢「1. 利用した」又は「2. 利用したいと思ったことがある」を選択した人のみ回答

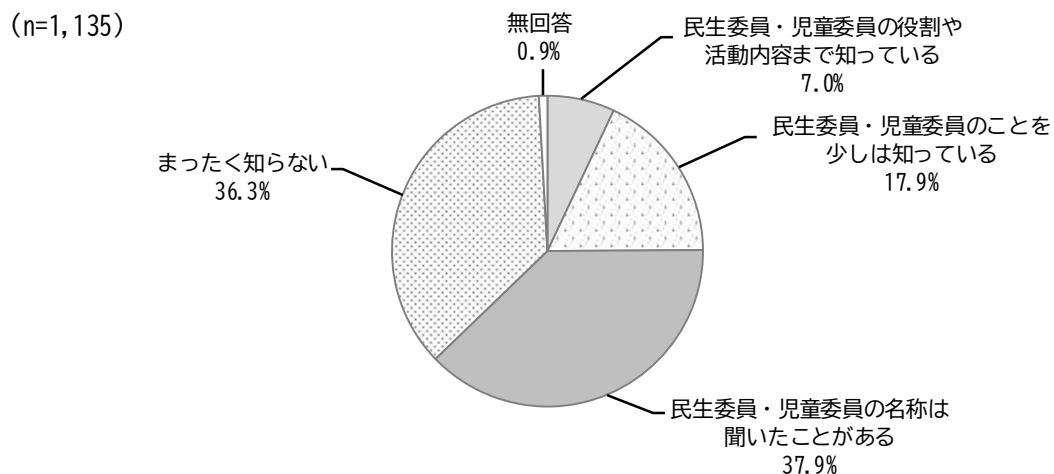
問20 その理由はなんですか。（○はいくつでも）

「広いお風呂に入りたいから」が63.4%と最も多く、次いで「銭湯の雰囲気が好きだから」が53.6%、「健康増進のため」が20.6%となっている。



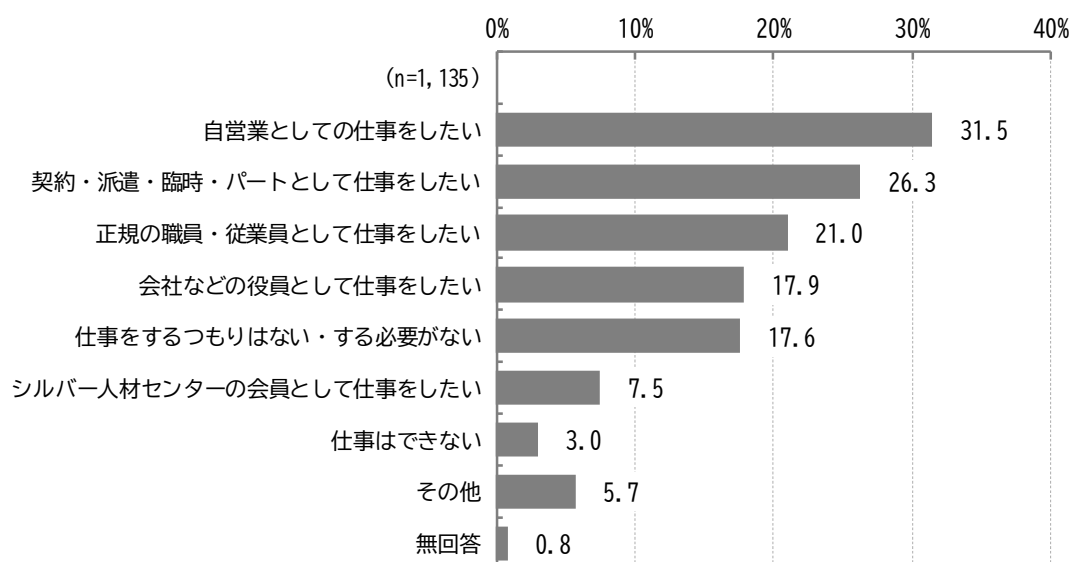
問21 民生委員・児童委員を知っていますか。(○は1つ)

「民生委員・児童委員の名称は聞いたことがある」が37.9%と最も多く、次いで「まったく知らない」が36.3%、「民生委員・児童委員のことを少しは知っている」が17.9%となっている。



問22 65歳以上になっても仕事をしたいと思えますか。(○はいくつでも)

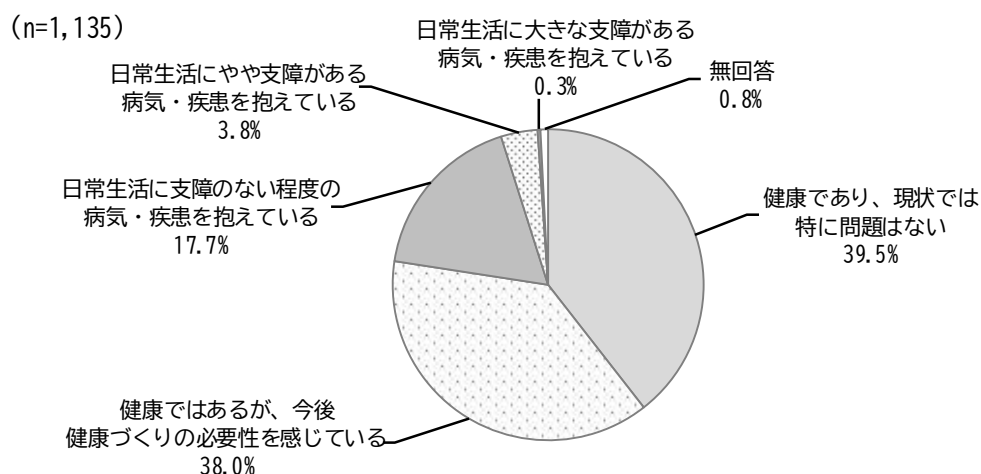
「自営業としての仕事をしたい」が31.5%と最も多く、次いで「契約・派遣・臨時・パートとして仕事をしたい」が26.3%、「正規の職員・従業員として仕事をしたい」が21.0%となっている。



3. 健康づくりについて

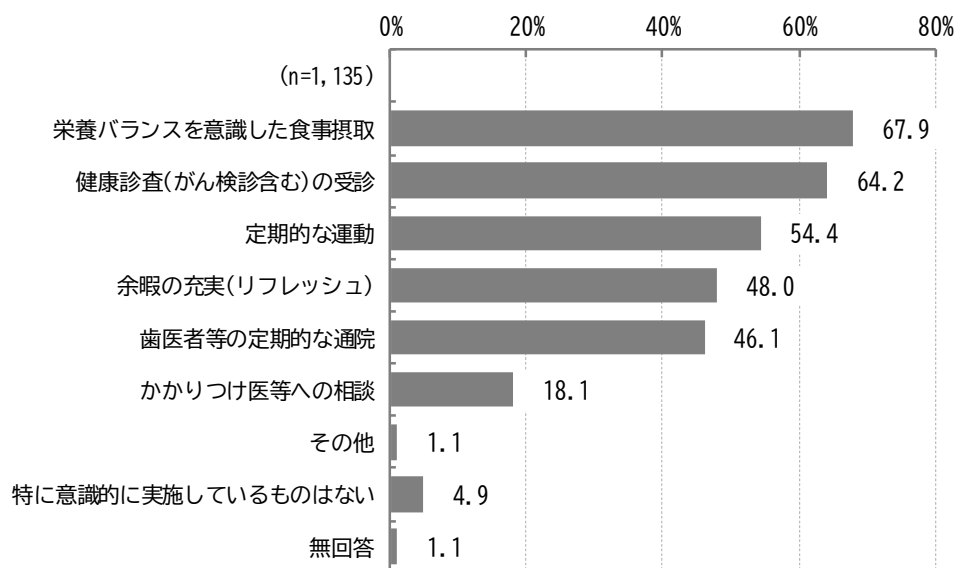
問23 あなたの現在の健康状態について、最も近いものを選んでください。(○は1つ)

「健康であり、現状では特に問題はない」が39.5%と最も多く、次いで「健康ではあるが、今後健康づくりの必要性を感じている」が38.0%、「日常生活に支障のない程度の病気・疾患を抱えている」が17.7%となっている。



問24 あなたが心身の健康づくりに関して、意識的に実施している取組はありますか。(○はいくつでも)

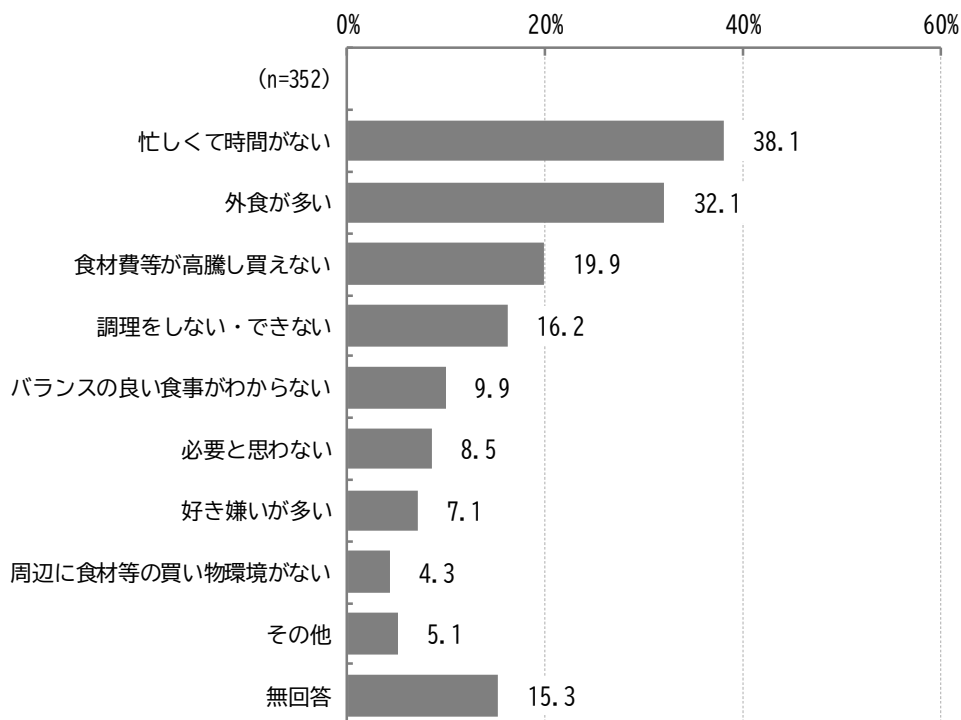
「栄養バランスを意識した食事摂取」が67.9%と最も多く、次いで「健康診査(がん検診含む)の受診」が64.2%、「定期的な運動」が54.4%となっている。



※問 25 は、問 24 で「栄養バランスを意識した食事摂取」を選択しなかった人のみ回答

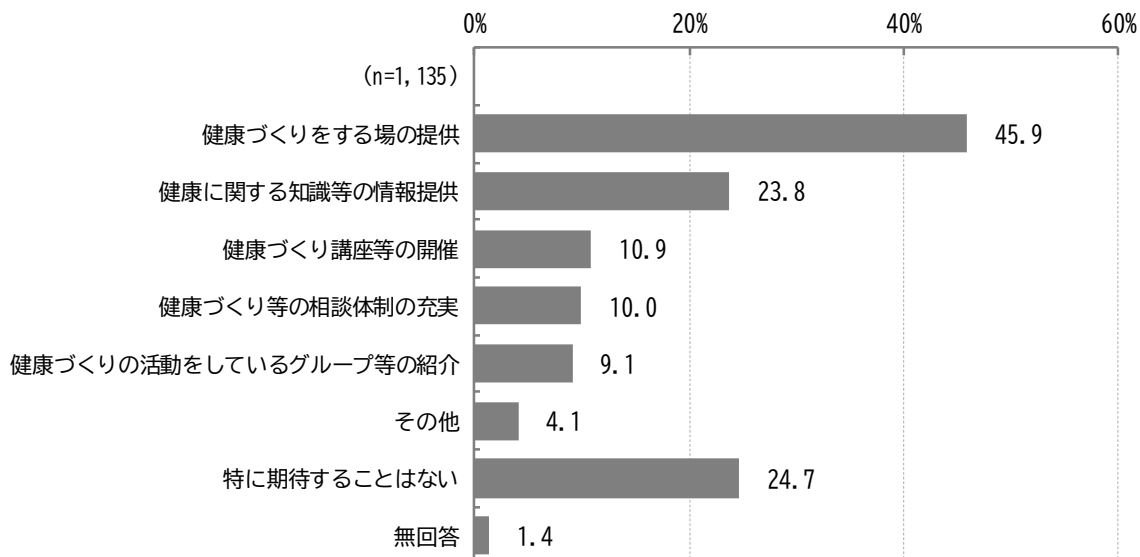
問25 あなたが栄養バランスを意識した食事摂取を実施していない（できない）理由はなんですか。（○はいくつでも）

「忙しくて時間がない」が38.1%と最も多く、次いで「外食が多い」が32.1%、「食材費等が高騰し買えない」が19.9%となっている。



問26 あなたが健康づくりに積極的に取り組むために、区に対してどのような支援を期待しますか。（○は2つまで）

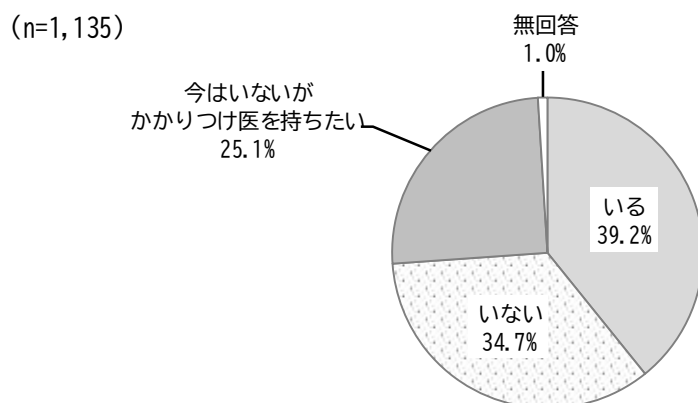
「健康づくりをする場の提供」が45.9%と最も多く、次いで「特に期待することはない」が24.7%、「健康に関する知識等の情報提供」が23.8%となっている。



4. かかりつけ医と夜間休日診療体制について

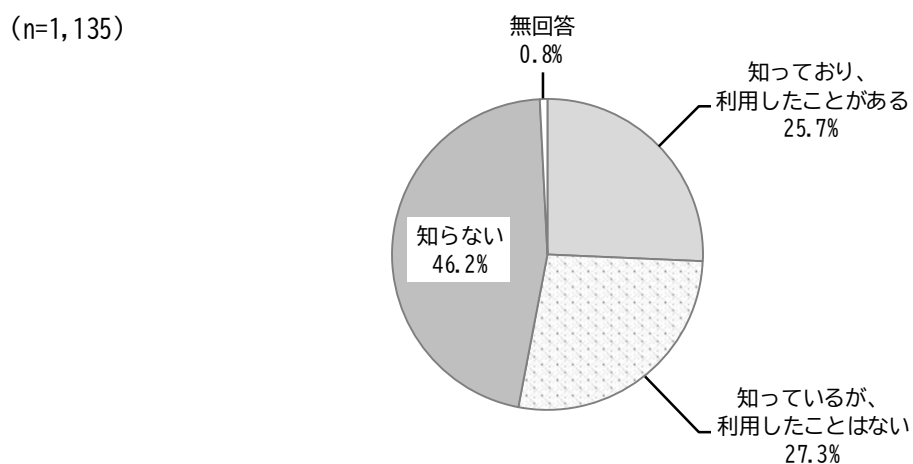
問27 健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師（かかりつけ医）はいますか。（○は1つ）

「いる」が39.2%と最も多く、次いで「いない」が34.7%、「今はないがかかりつけ医を持ちたい」が25.1%となっている。



問28 港区の休日・夜間診療について、実施されていることを知っていますか。また、利用したことはありますか。（○は1つ）

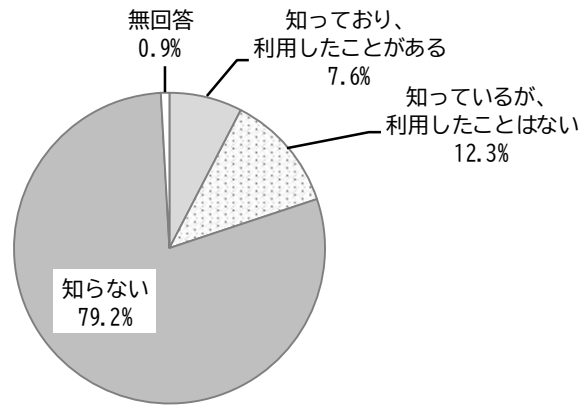
「知らない」が46.2%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が27.3%、「知っており、利用したことがある」が25.7%となっている。



問29 みなと子ども救急診療室について、知っていますか。
また、利用したことはありますか。(○は1つ)

「知らない」が79.2%と最も多く、次いで「知っているが、利用したことはない」が12.3%、「知っており、利用したことがある」が7.6%となっている。

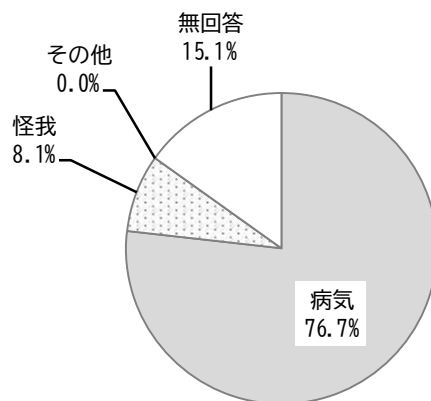
(n=1,135)



【受診した理由】

「病気」が76.7%と最も多く、次いで「怪我」が8.1%となっている。

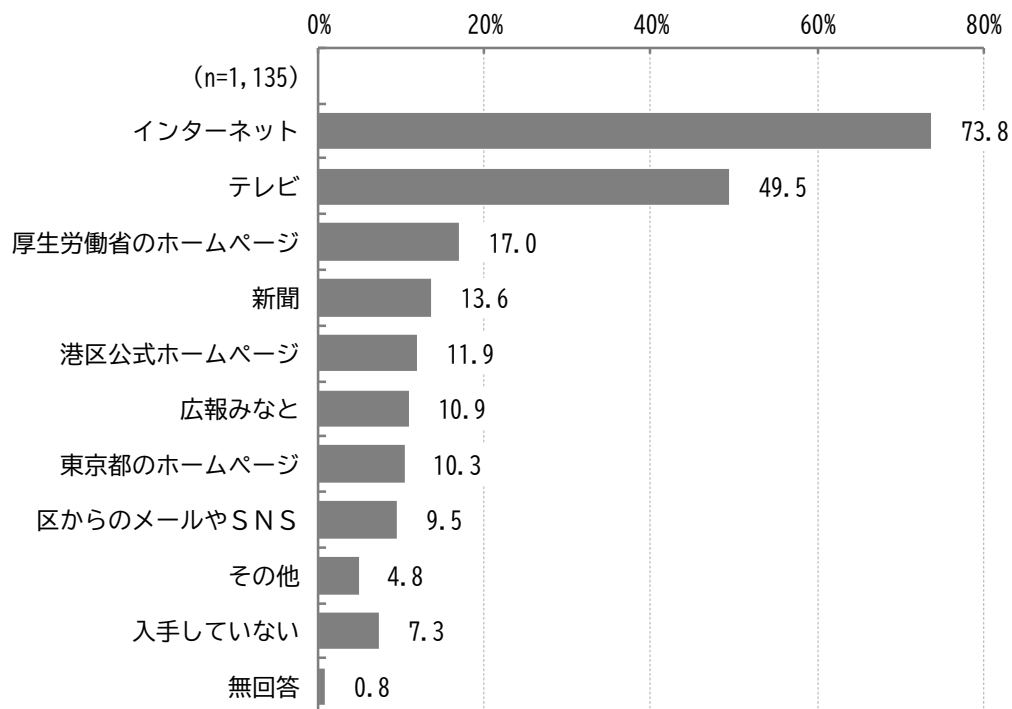
(n=86)



5. 感染症について

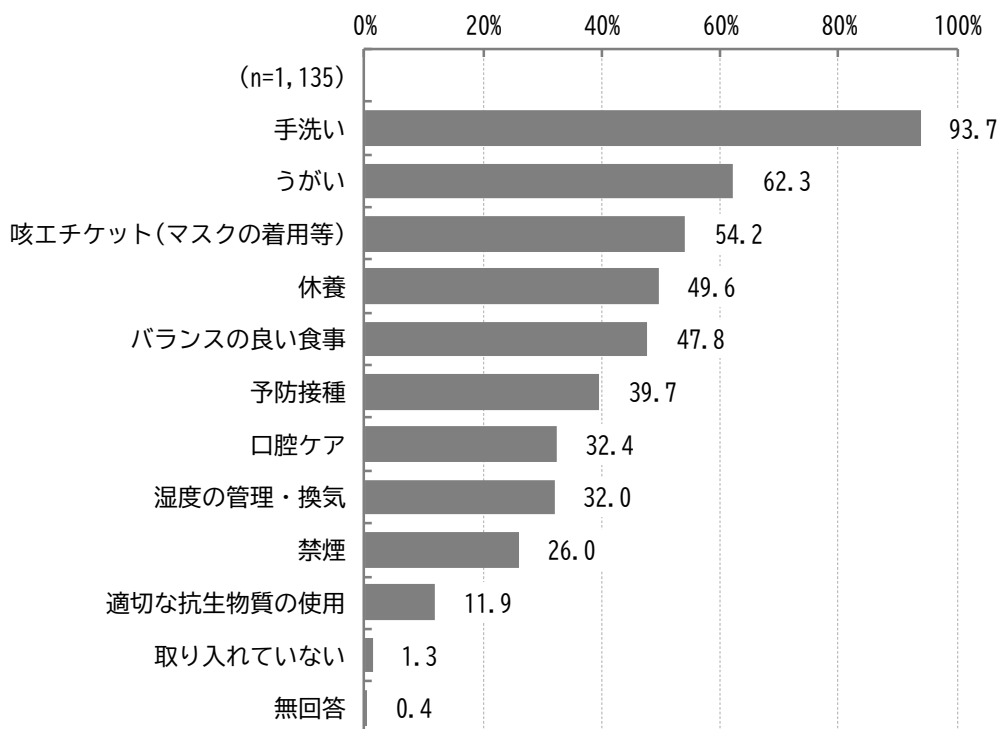
問30 感染症について、どのような媒体から有益な情報を入手していますか。(〇はいくつでも)

「インターネット」が73.8%と最も多く、次いで「テレビ」が49.5%、「厚生労働省のホームページ」が17.0%となっている。



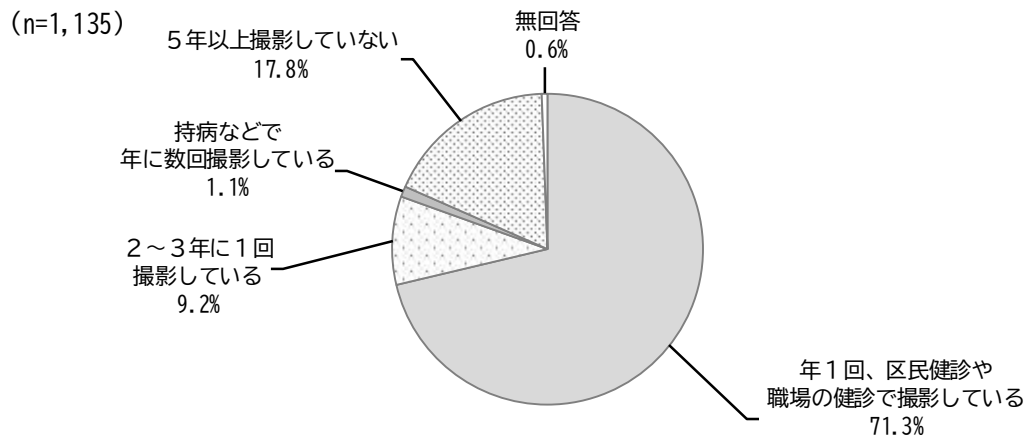
問31 普段の生活で取り入れている感染症を予防する生活習慣は何ですか。(〇はいくつでも)

「手洗い」が93.7%と最も多く、次いで「うがい」が62.3%、「咳エチケット(マスクの着用等)」が54.2%となっている。



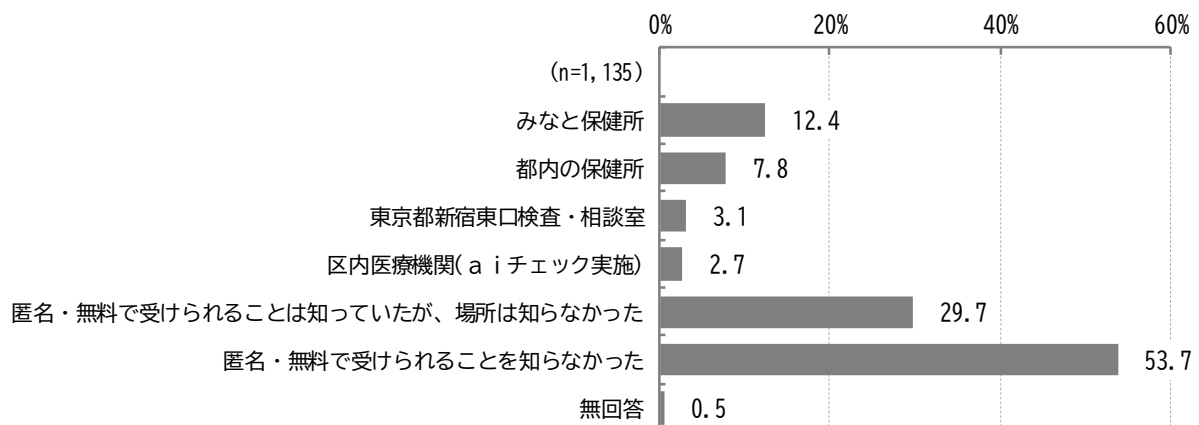
問32 結核は、空気感染で、家族や職場の同僚などの身近な人につす病気です。
結核を早期発見するためには、胸部エックス線撮影が有効ですが、胸部エックス線撮影の機会がありますか。(○は1つ)

「年1回、区民健診や職場の健診で撮影している」が71.3%と最も多く、次いで「5年以上撮影していない」が17.8%、「2～3年に1回撮影している」が9.2%となっている。



問33 エイズ・性感染症の検査を匿名・無料で受けられる場所を知っていますか。(○はいくつでも)

「匿名・無料で受けられることを知らなかった」が53.7%と最も多く、次いで「匿名・無料で受けられることは知っていたが、場所は知らなかった」が29.7%、「みなと保健所」が12.4%となっている。

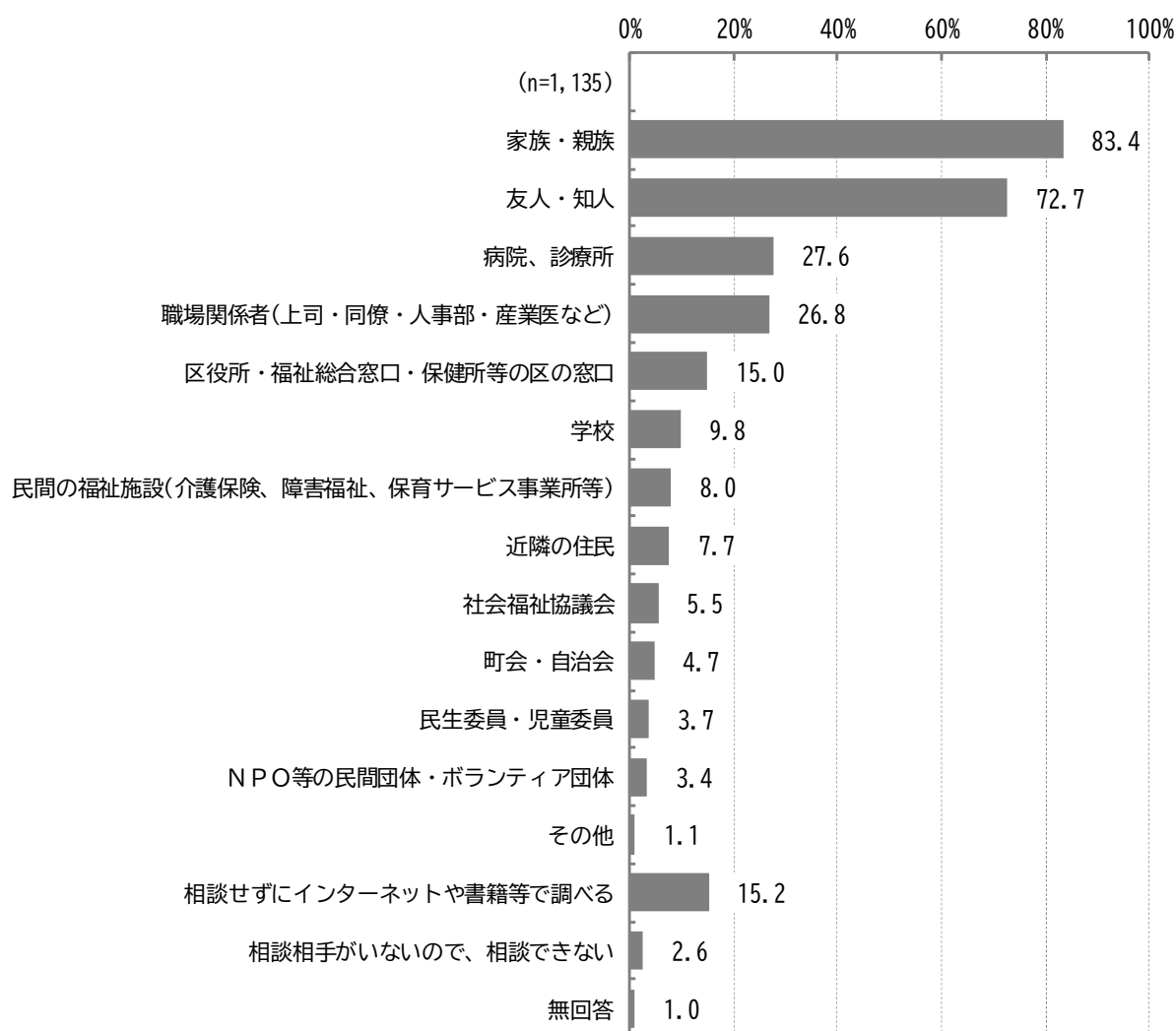


6. 地域包括ケアについて

問34 あなたに不安や悩みが生じた場合の相談先と相談方法について、「1～13」の相談相手がいる場合は「a～c」の中から相談方法をお答えください（○はいくつでも）。
相談相手がない、もしくは誰かに相談をしないという場合は、「14・15」のいずれかをお答えください。

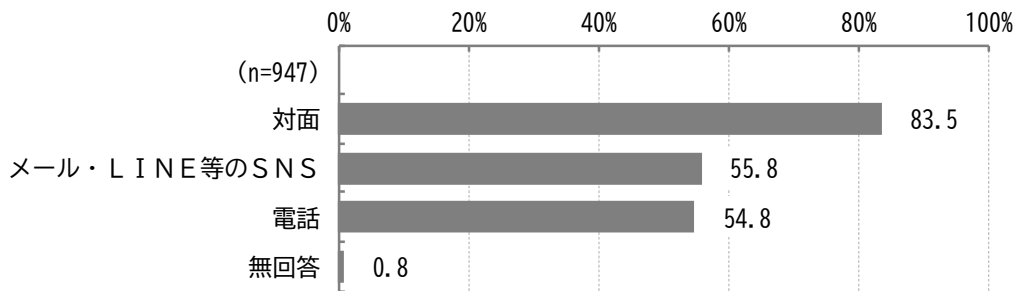
【相談先】

「家族・親族」が83.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が72.7%、「病院、診療所」が27.6%となっている。



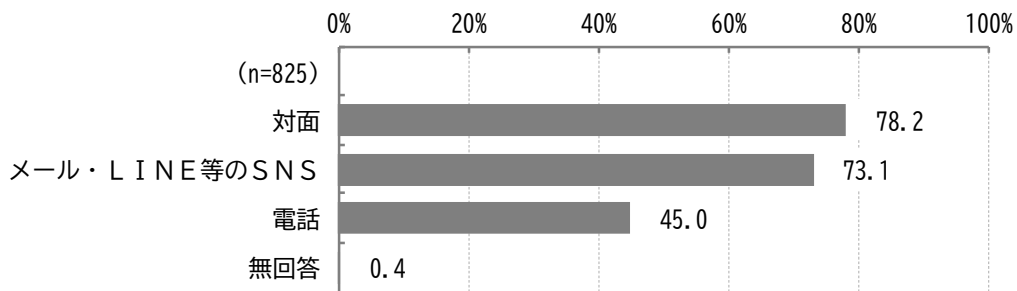
【相談方法：家族・親族】

「対面」が83.5%と最も多く、次いで「メール・LINE等のSNS」が55.8%、「電話」が54.8%となっている。



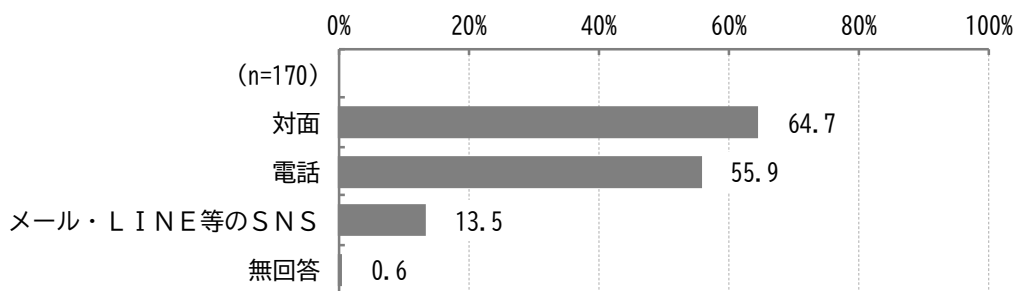
【相談方法：友人・知人】

「対面」が78.2%と最も多く、次いで「メール・LINE等のSNS」が73.1%、「電話」が45.0%となっている。



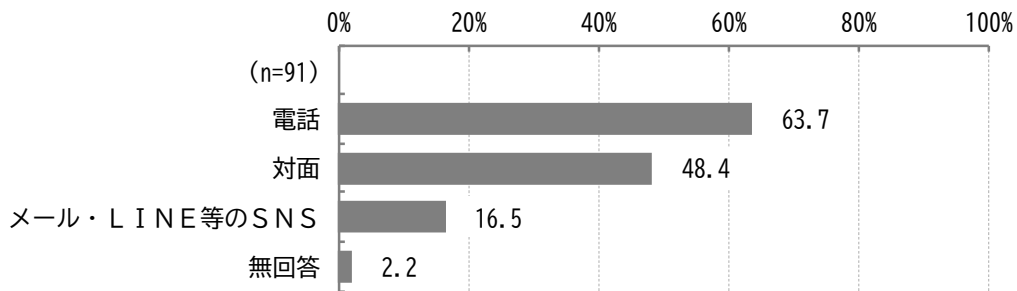
【相談方法：区役所・福祉総合窓口・保健所等の区の窓口】

「対面」が64.7%と最も多く、次いで「電話」が55.9%、「メール・LINE等のSNS」が13.5%となっている。



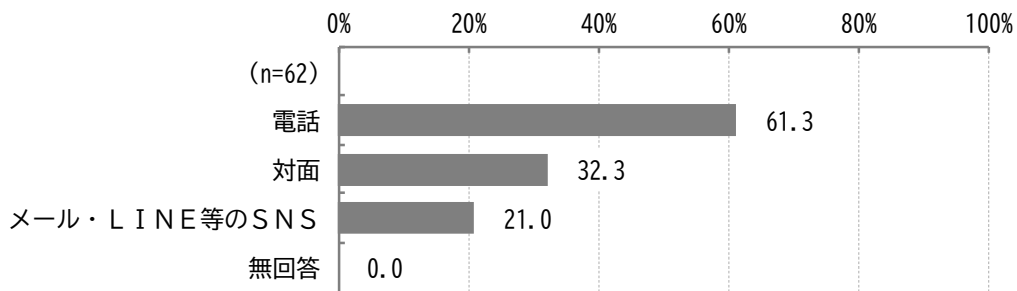
【相談方法：民間の福祉施設（介護保険、障害福祉、保育サービス事業所等）】

「電話」が63.7%と最も多く、次いで「対面」が48.4%、「メール・LINE等のSNS」が16.5%となっている。



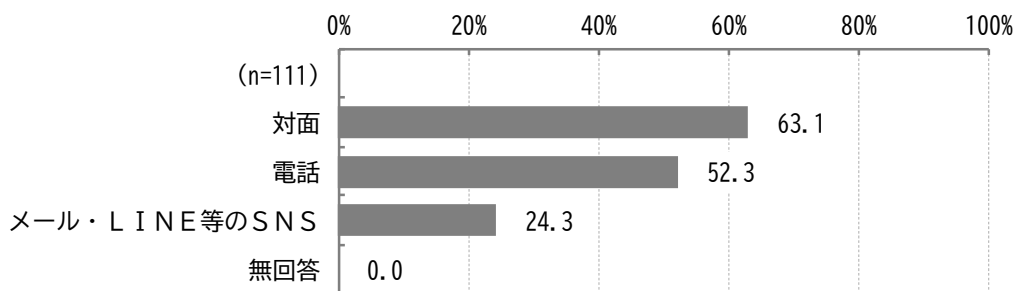
【相談方法：社会福祉協議会】

「電話」が61.3%と最も多く、次いで「対面」が32.3%、「メール・LINE等のSNS」が21.0%となっている。



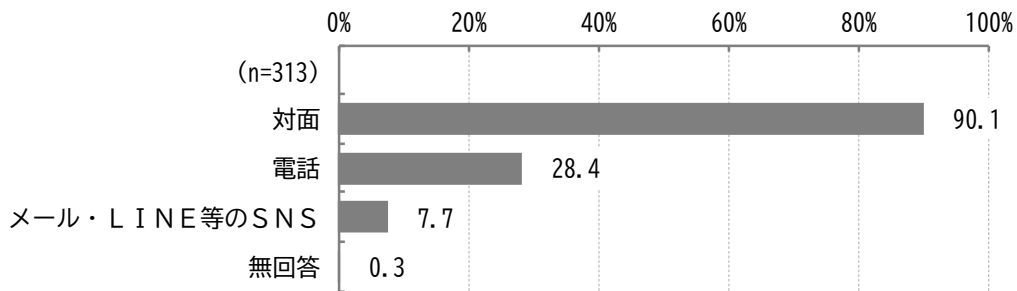
【相談方法：学校】

「対面」が63.1%と最も多く、次いで「電話」が52.3%、「メール・LINE等のSNS」が24.3%となっている。



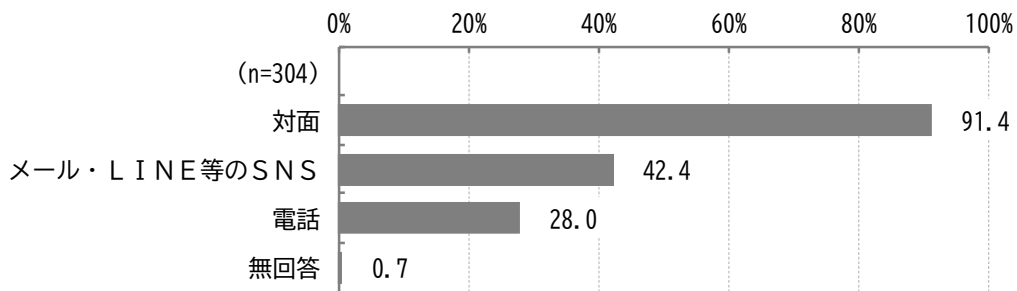
【相談方法：病院、診療所】

「対面」が90.1%と最も多く、次いで「電話」が28.4%、「メール・LINE等のSNS」が7.7%となっている。



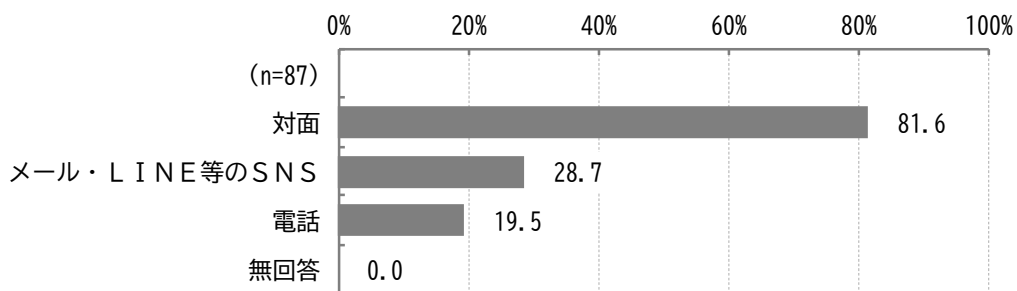
【相談方法：職場関係者（上司・同僚・人事部・産業医など）】

「対面」が91.4%と最も多く、次いで「メール・LINE等のSNS」が42.4%、「電話」が28.0%となっている。



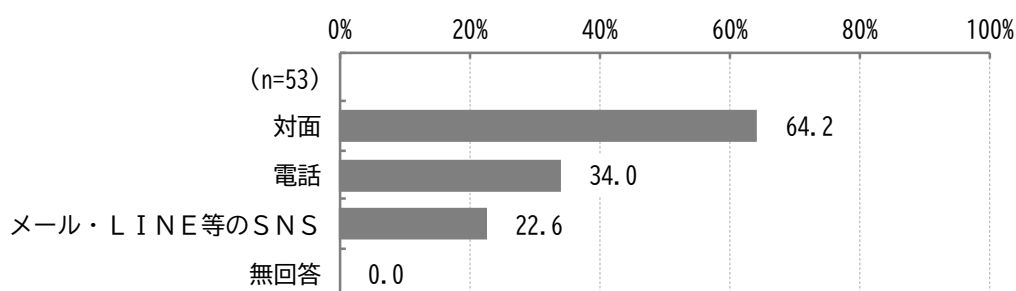
【相談方法：近隣の住民】

「対面」が81.6%と最も多く、次いで「メール・LINE等のSNS」が28.7%、「電話」が19.5%となっている。



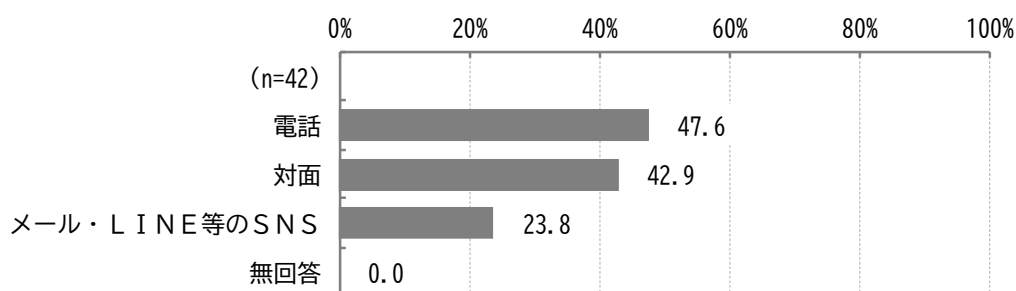
【相談方法：町会・自治会】

「対面」が64.2%と最も多く、次いで「電話」が34.0%、「メール・LINE等のSNS」が22.6%となっている。



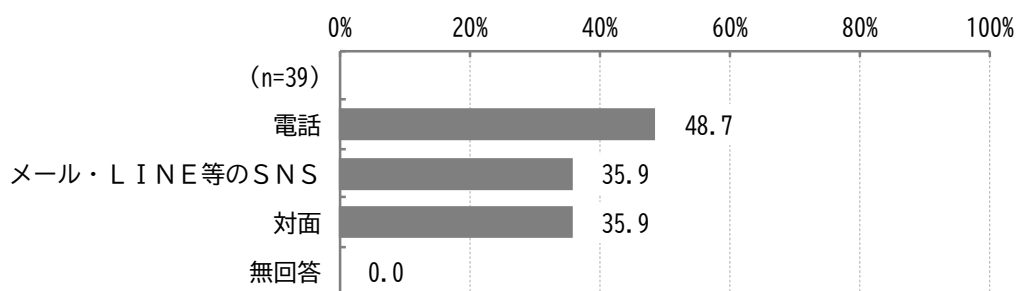
【相談方法：民生委員・児童委員】

「電話」が47.6%と最も多く、次いで「対面」が42.9%、「メール・LINE等のSNS」が23.8%となっている。



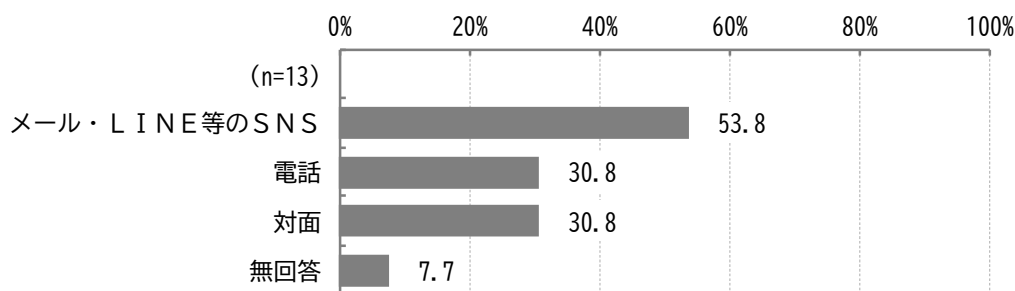
【相談方法：NPO等の民間団体・ボランティア団体】

「電話」が48.7%と最も多く、次いで「メール・LINE等のSNS」と「対面」が35.9%となっている。



【相談方法：その他※】

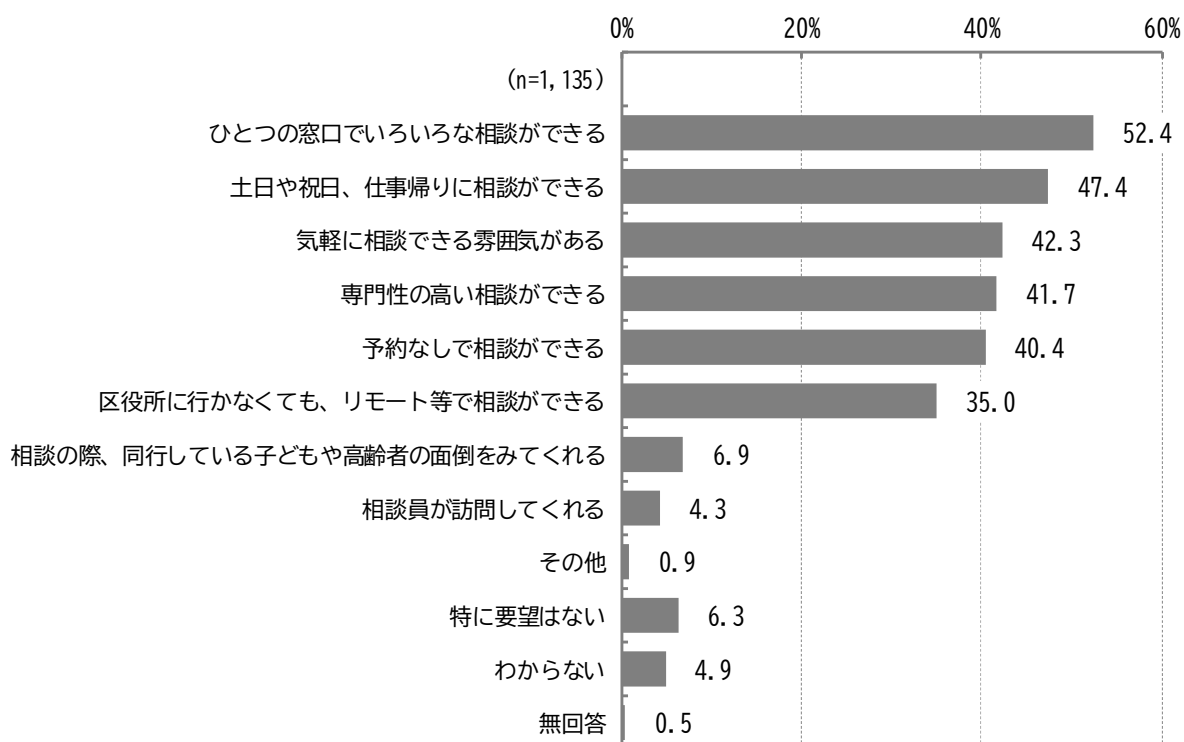
「メール・LINE等のSNS」が53.8%と最も多く、次いで「電話」と「対面」が30.8%となっている。



※その他の具体的な回答：SNSの知り合い、AI等

問35 今後、福祉に関する相談をすることになった時、区の相談機関にはどのようなことを求めますか。(〇はいくつでも)

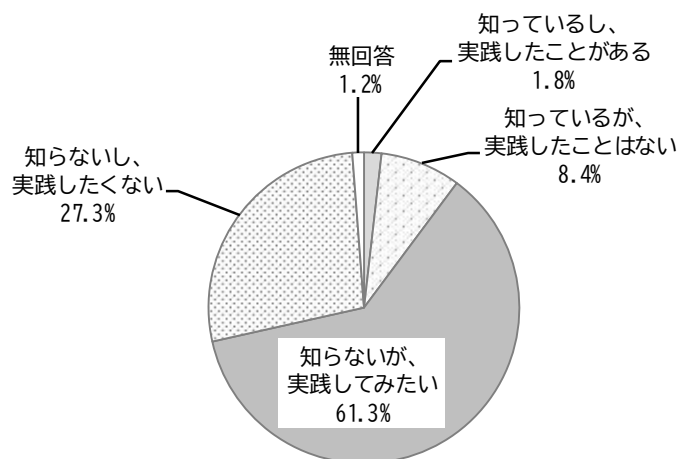
「ひとつの窓口でいろいろな相談ができる」が52.4%と最も多く、次いで「土日や祝日、仕事帰りに相談ができる」が47.4%、「気軽に相談できる雰囲気がある」が42.3%となっている。



問36 人生会議（※アドバンス・ケア・プランニング＜ACP＞）を知っていますか。（○は1つ）
 ※最期まで自分らしく暮らすために医療や介護をどのように受けたいか、ご家族や医療・介護の
 担当者とあらかじめ話し合い、共有する取組を指します。

「知らないが、実践してみたい」が61.3%と最も多く、次いで「知らないし、実践したくない」
 が27.3%、「知っているが、実践したことはない」が8.4%となっている。

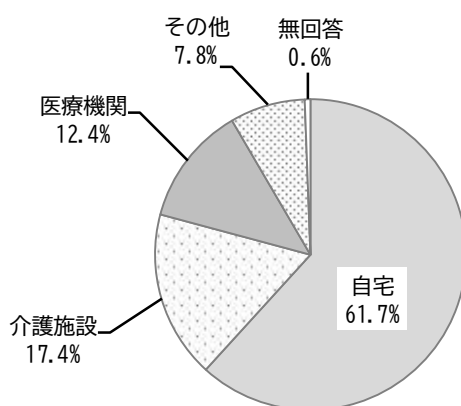
(n=1,135)



問37 人生の終末期をどこで過ごしたいですか。（○は1つ）

「自宅」が61.7%と最も多く、次いで「介護施設」が17.4%、「医療機関」が12.4%となっ
 ている。

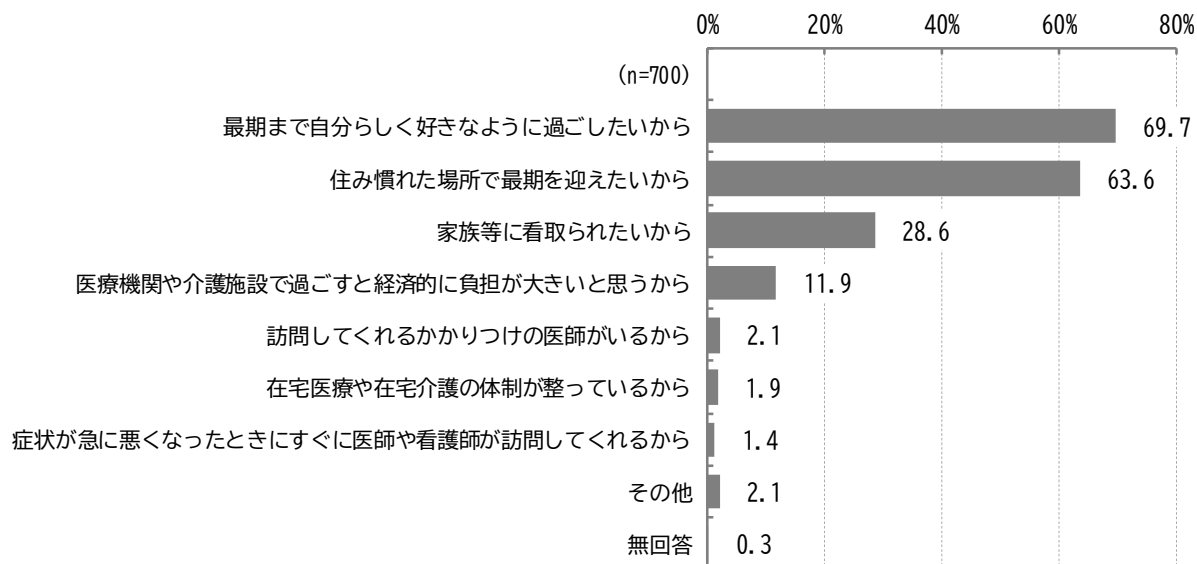
(n=1,135)



※問 38 は、問 37 で「自宅」を選択した人のみ回答

問38 なぜ、自宅を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)

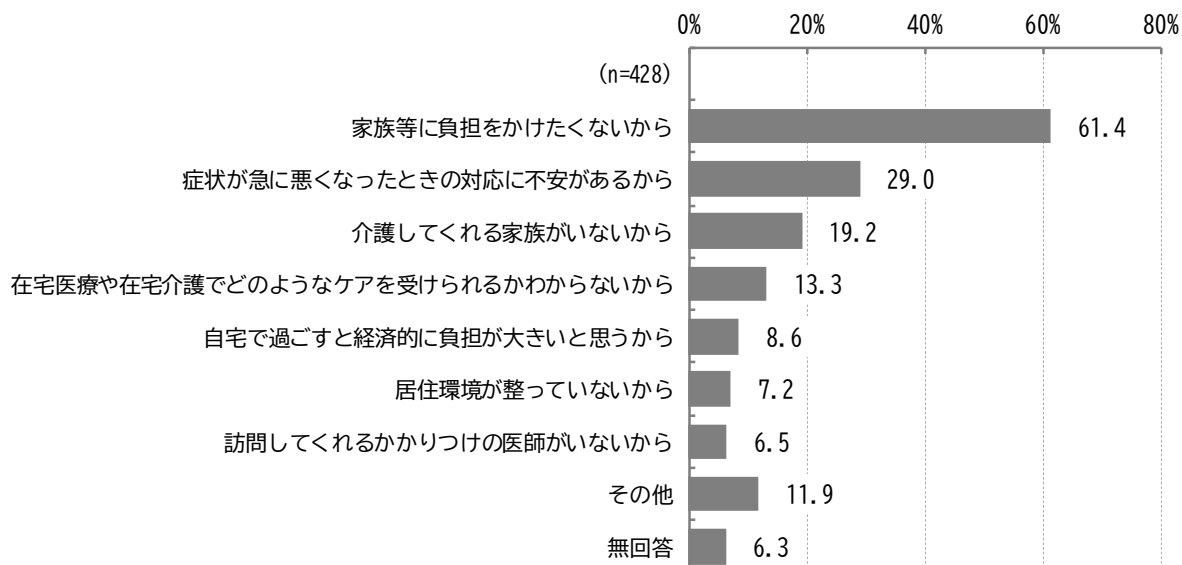
「最期まで自分らしく好きなように過ごしたいから」が 69.7%と最も多く、次いで「住み慣れた場所で最期を迎えたいから」が 63.6%、「家族等に看取られたいから」が 28.6%となっている。



※問 39 は、問 37 で選択肢「2. 介護施設」～「4. その他」のいずれかを選択した人のみ回答

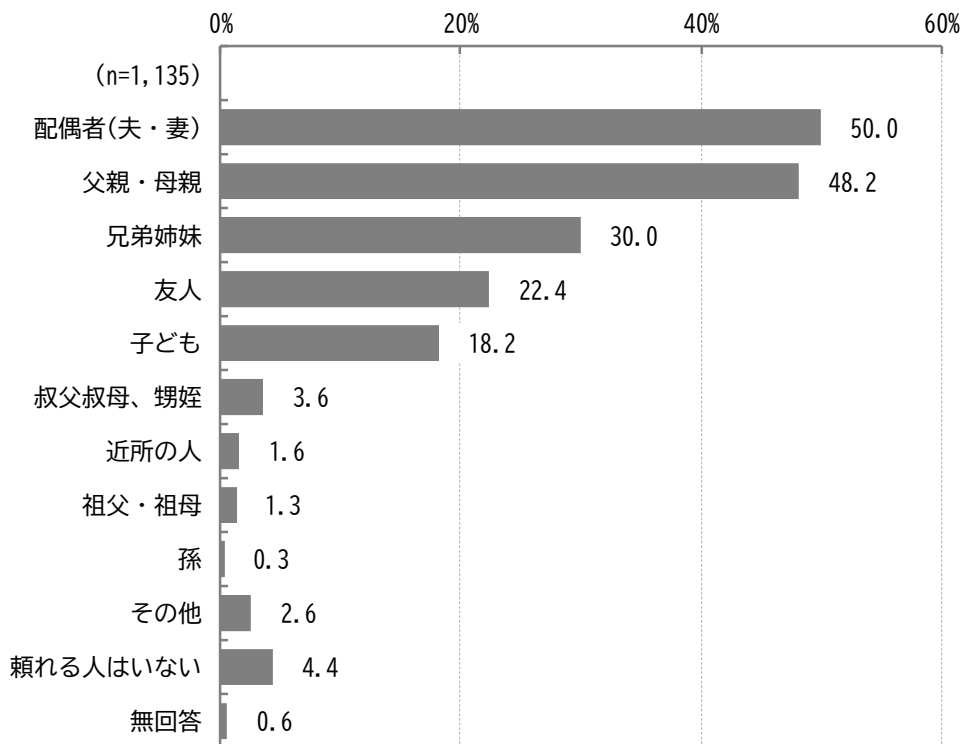
問39 なぜ、自宅以外を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)

「家族等に負担をかけたくないから」が 61.4%と最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に不安があるから」が 29.0%、「介護してくれる家族がいないから」が 19.2%となっている。



問40 万が一、何かあった時（緊急入院など）に頼れる人は誰ですか。（〇はいくつでも）

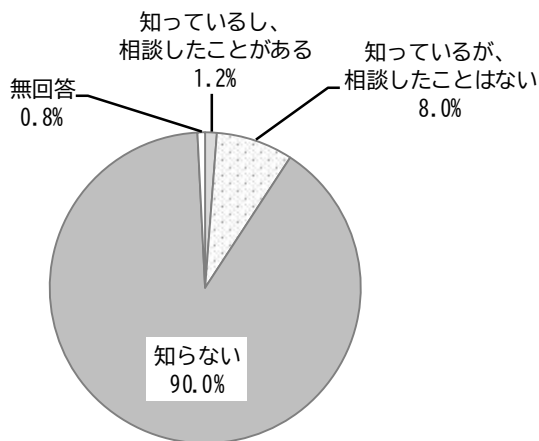
「配偶者(夫・妻)」が50.0%と最も多く、次いで「父親・母親」が48.2%、「兄弟姉妹」が30.0%となっている。



問41 港区在宅療養相談センターを知っていますか。（〇は1つ）

「知らない」が90.0%と最も多く、次いで「知っているが、相談したことはない」が8.0%、「知っているし、相談したことがある」が1.2%となっている。

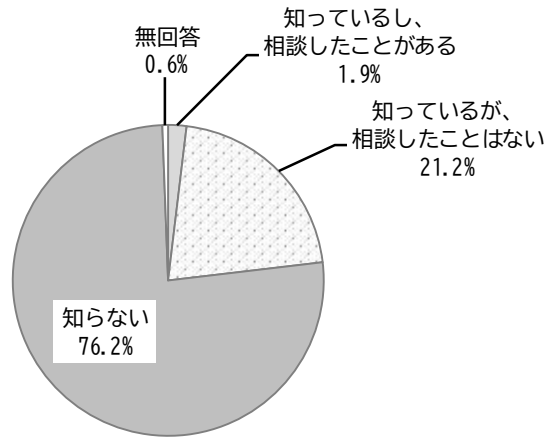
(n=1,135)



問42 福祉総合窓口を知っていますか。(〇は1つ)

「知らない」が76.2%と最も多く、次いで「知っているが、相談したことはない」が21.2%、「知っているし、相談したことがある」が1.9%となっている。

(n=1,135)

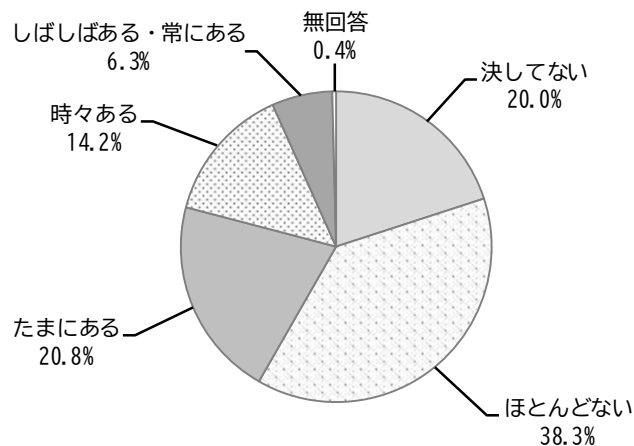


7. 孤独・孤立について

問43 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(〇は1つ)

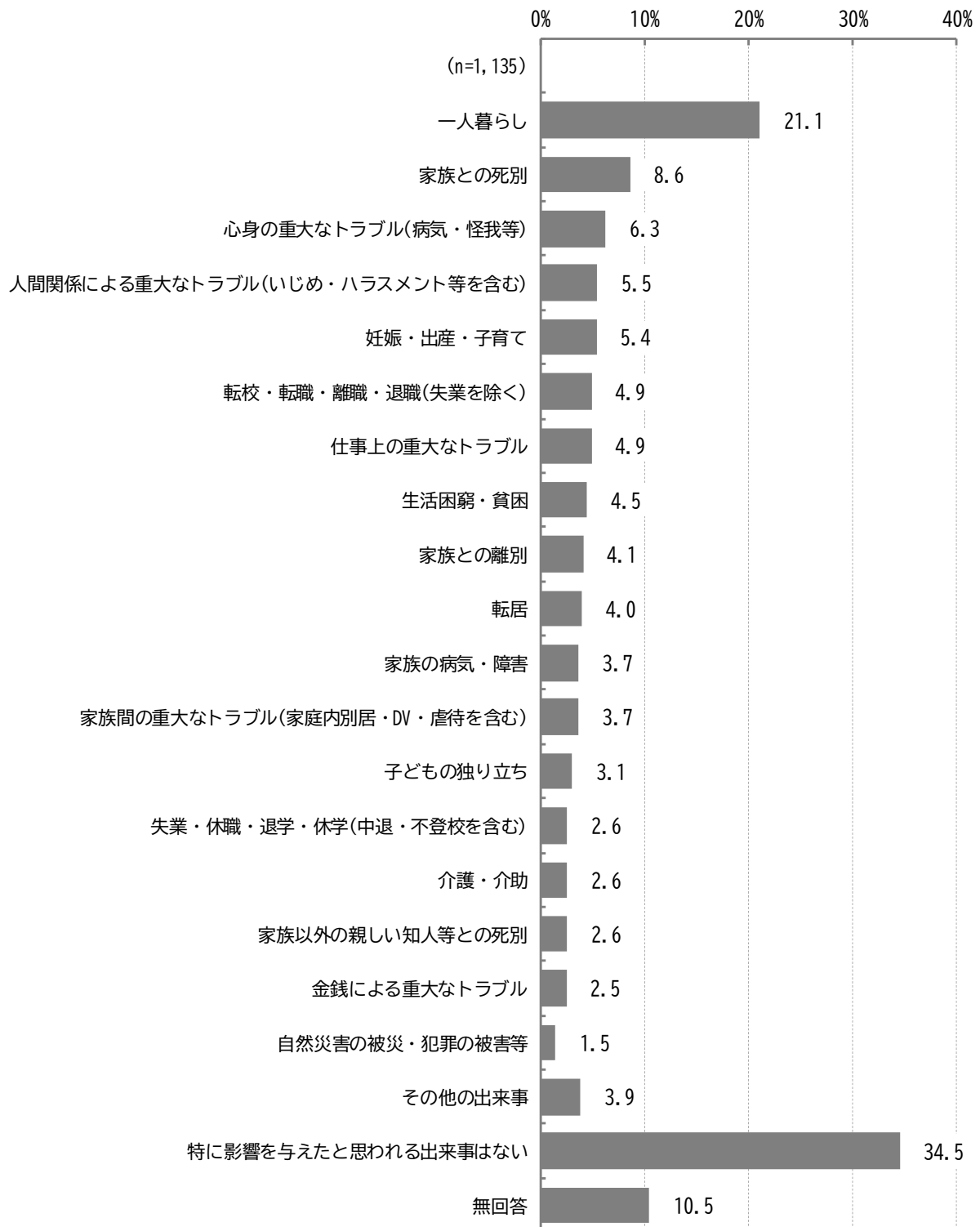
「ほとんどない」が38.3%と最も多く、次いで「たまにある」が20.8%、「決してない」が20.0%となっている。

(n=1,135)



問44 現在の孤独感（問43で回答した状況）に強く影響を与えたと思われる出来事はどれですか。
（〇はいくつでも）

「特に影響を与えたと思われる出来事はない」が 34.5%と最も多く、次いで「一人暮らし」が 21.1%、「家族との死別」が 8.6%となっている。

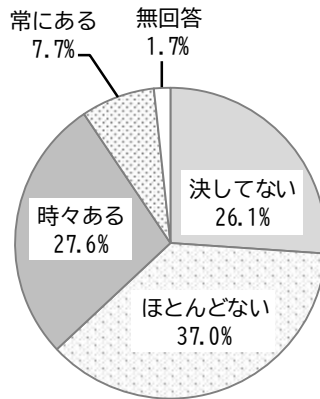


問45 次の①～③について、当てはまる数字をお選びください。(それぞれ○は1つ)

【① あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。】

「ほとんどない」が37.0%と最も多く、次いで「時々ある」が27.6%、「決してない」が26.1%となっている。

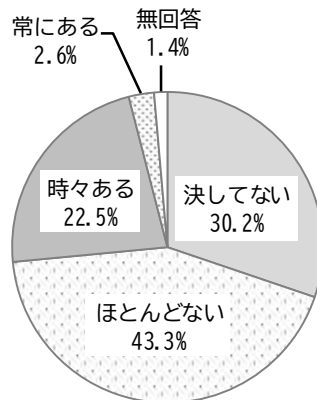
(n=1,135)



【② あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。】

「ほとんどない」が43.3%と最も多く、次いで「決してない」が30.2%、「時々ある」が22.5%となっている。

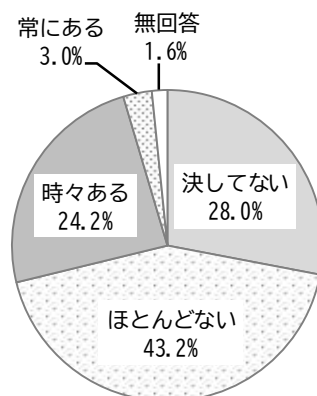
(n=1,135)



【③ あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。】

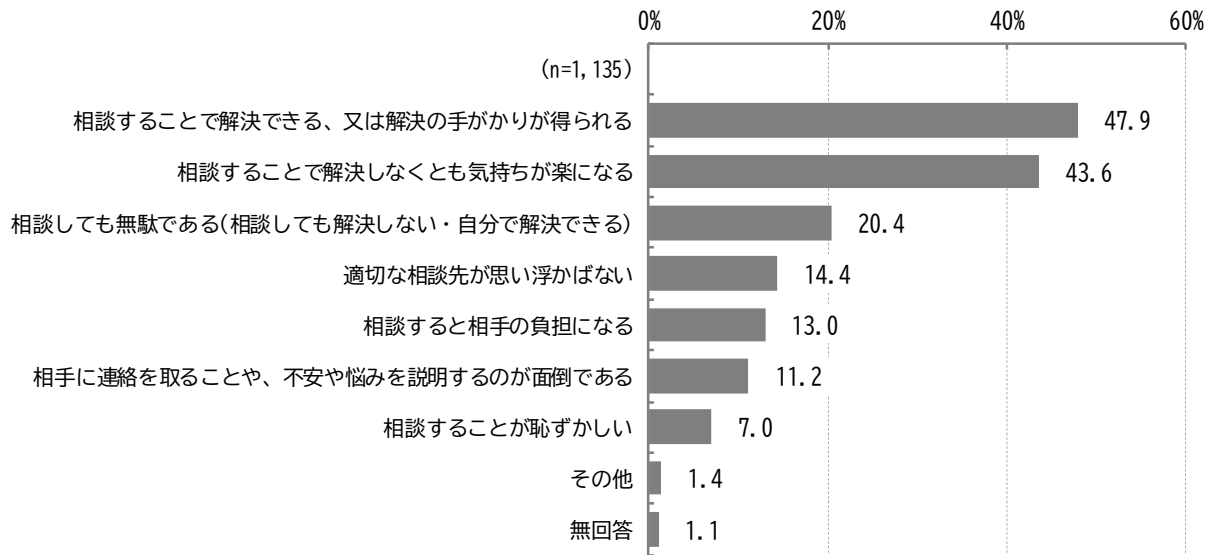
「ほとんどない」が43.2%と最も多く、次いで「決してない」が28.0%、「時々ある」が24.2%となっている。

(n=1,135)



問46 あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。(〇はいくつでも)

「相談することで解決できる、又は解決の手がかりが得られる」が 47.9%と最も多く、次いで「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」が 43.6%、「相談しても無駄である(相談しても解決しない・自分で解決できる)」が 20.4%となっている。



8. ひきこもりについて

問47 同居のご家族にひきこもりの状態(※)にある方がいますか。

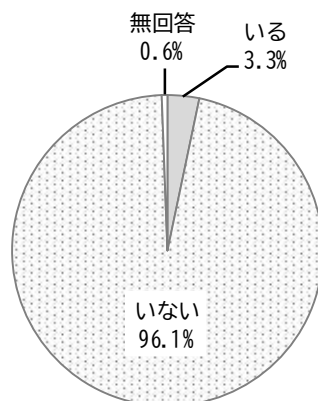
(回答者ご本人がひきこもりの状態にある場合を含みます。)(〇は1つ)

※ひきこもり状態とは

「就学、就労、家族以外での交流を避けるなど、社会的参加を避け、家庭にとどまり続けている状態」を指します。けがや疾病等の理由で自宅を中心とした生活をされている方は除きます。

「いない」が 96.1%、「いる」が 3.3%となっている。

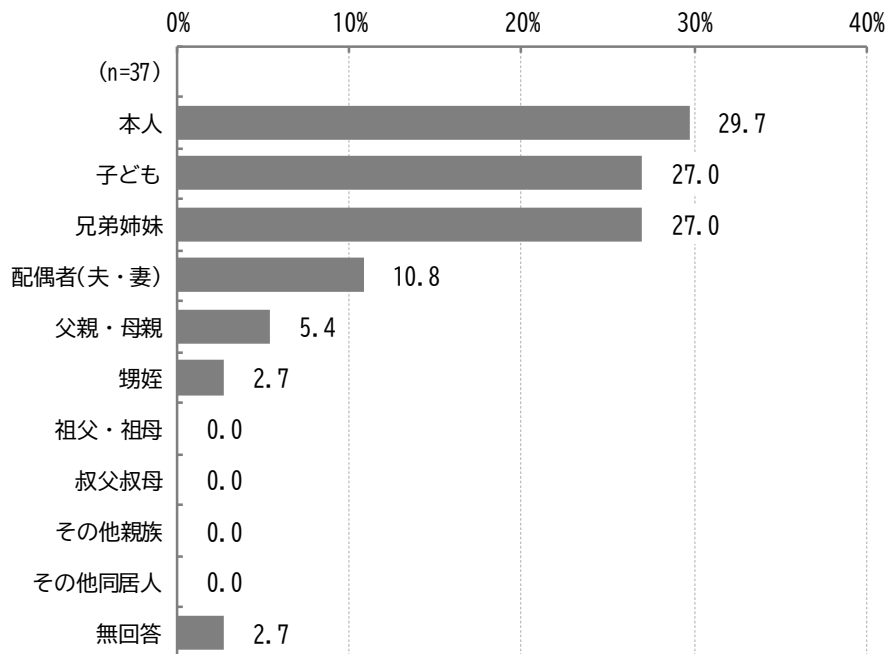
(n=1,135)



※問 48～53 は、問 47 で「いる」を選択した人のみ回答

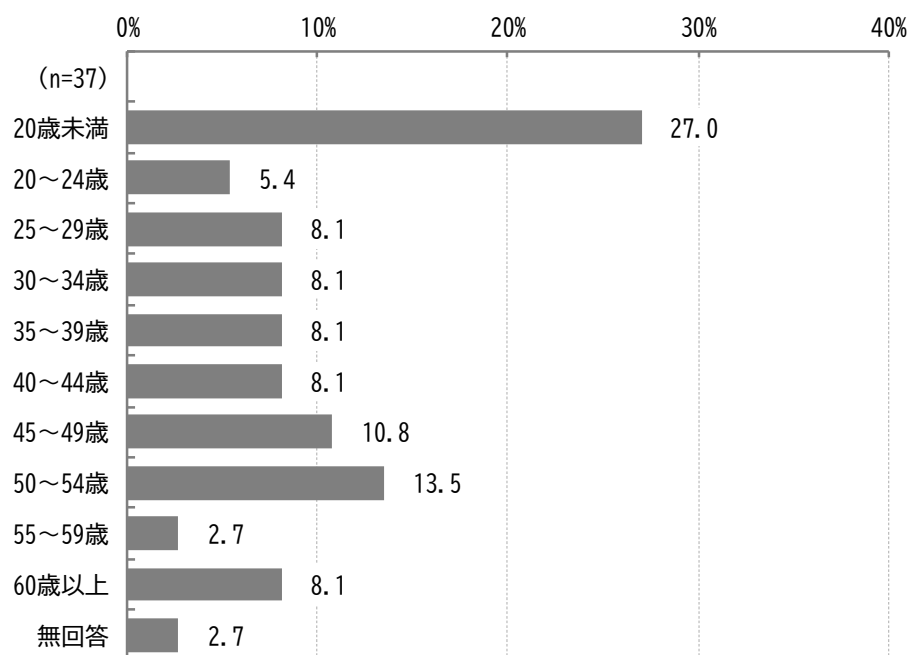
問48 ひきこもりの状態の方との関係を教えてください。
(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

「本人」が29.7%と最も多く、次いで「子ども」と「兄弟姉妹」が27.0%となっている。



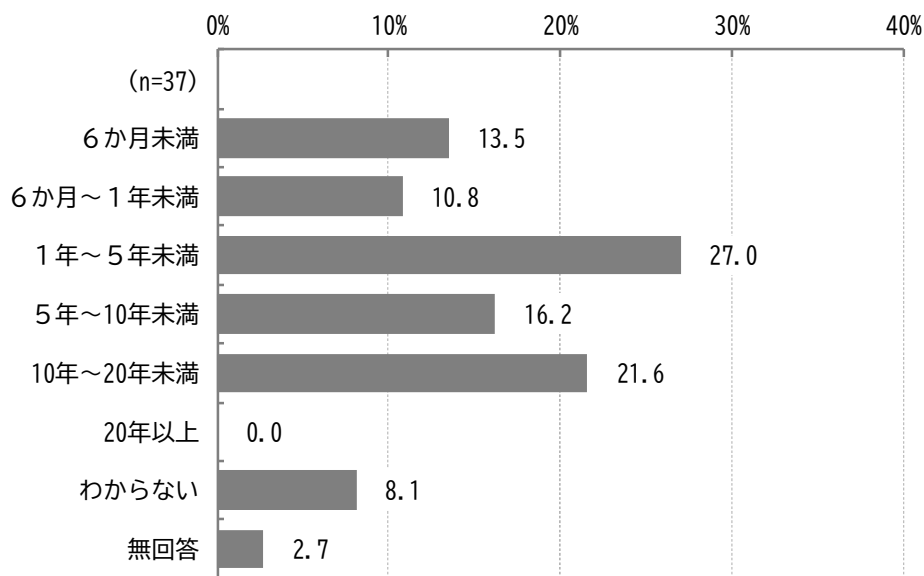
問49 ひきこもりの状態の方の年齢を教えてください。
(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

「20歳未満」が27.0%と最も多く、次いで「50～54歳」が13.5%、「45～49歳」が10.8%となっている。



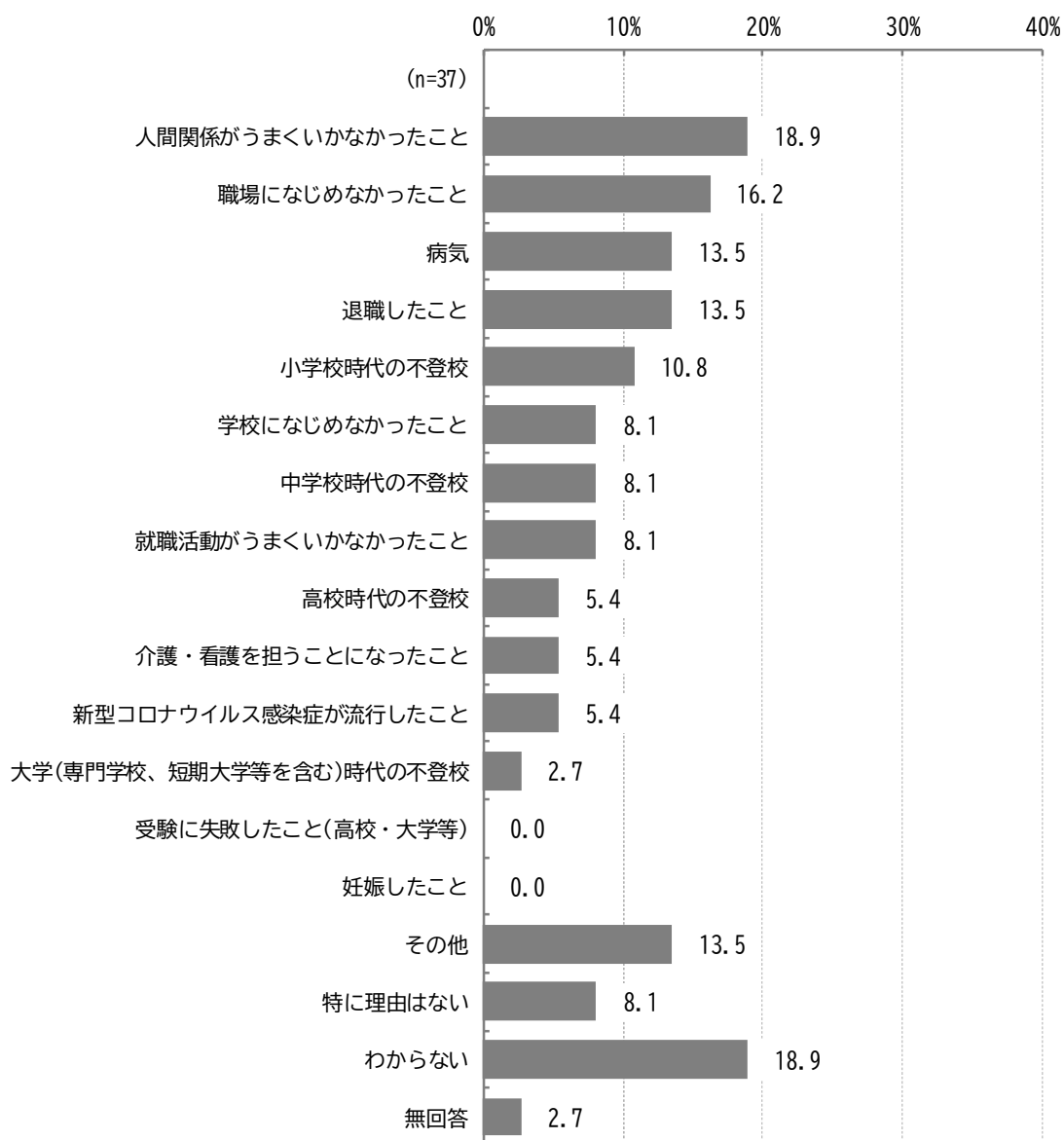
問50 ひきこもりの状態の期間はどれくらいですか。
(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

「1年～5年未満」が27.0%と最も多く、次いで「10年～20年未満」が21.6%、「5年～10年未満」が16.2%となっている。



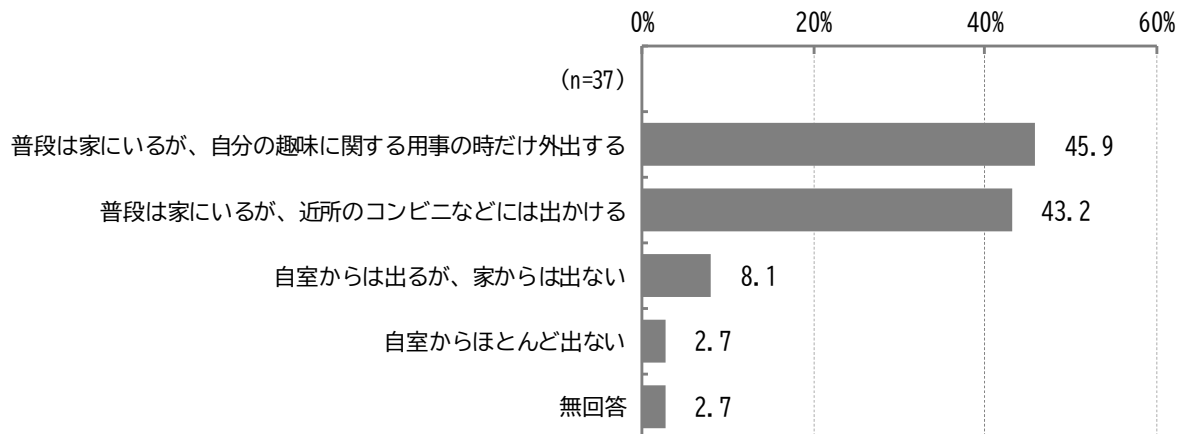
問51 その方がひきこもりの状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

「人間関係がうまくいかなかったこと」と「わからない」が18.9%と最も多く、次いで「職場になじめなかったこと」が16.2%となっている。



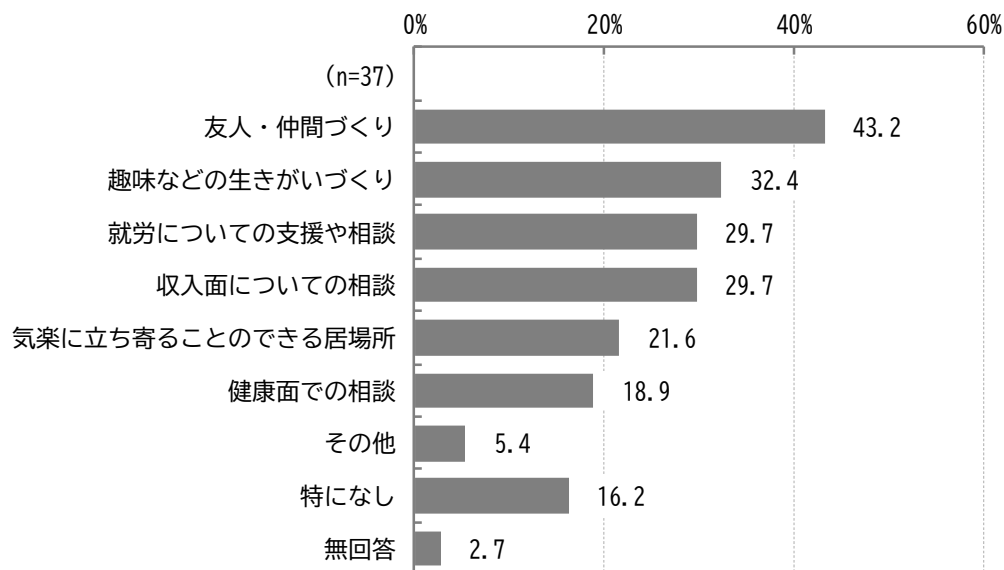
問52 その方は普段どのくらい外出しますか。(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」が45.9%と最も多く、次いで「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が43.2%、「自室からは出るが、家からは出ない」が8.1%となっている。



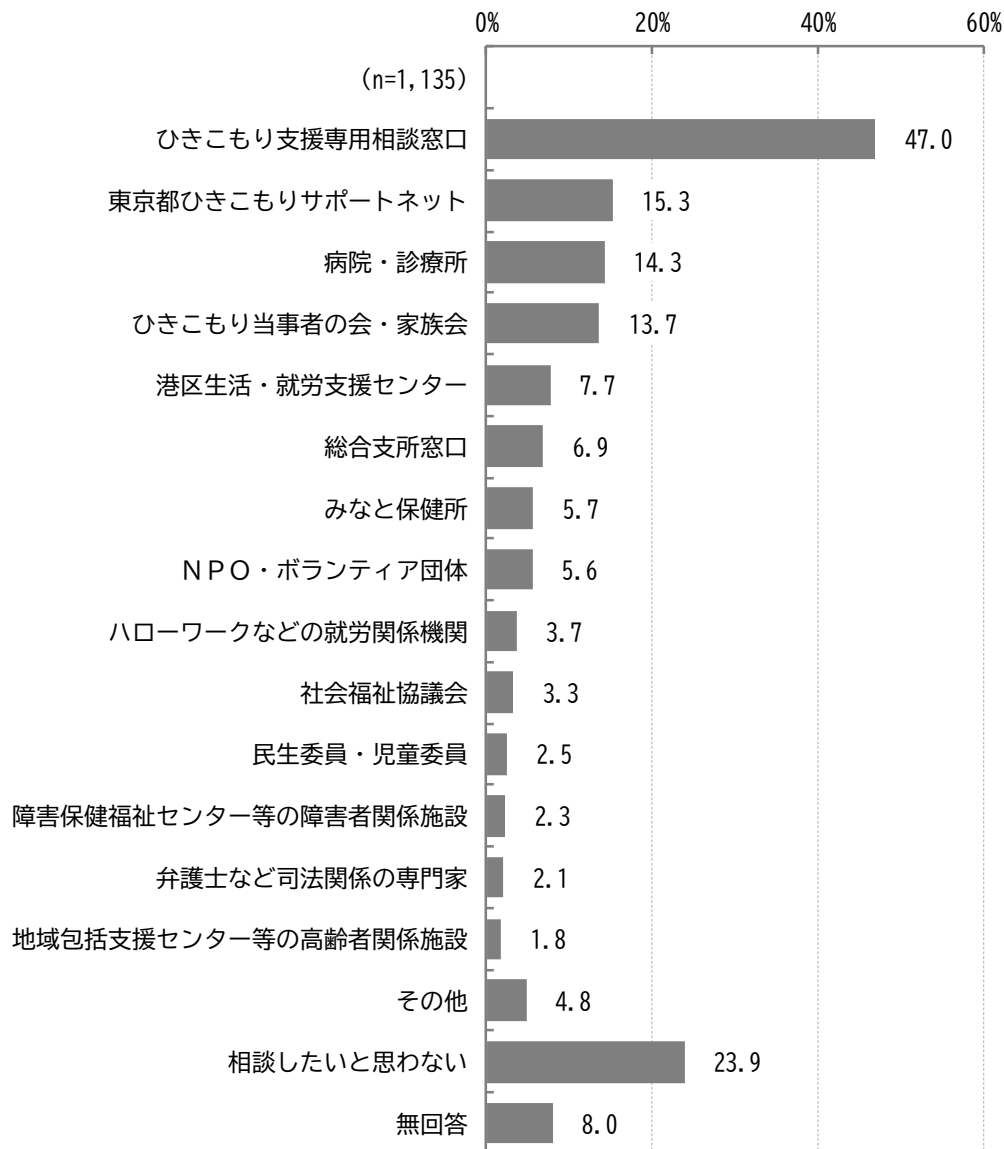
問53 その方にとって必要なものは何ですか。(○はいくつでも)

「友人・仲間づくり」が43.2%と最も多く、次いで「趣味などの生きがいがづくり」が32.4%、「就労についての支援や相談」と「収入面についての相談」が29.7%となっている。



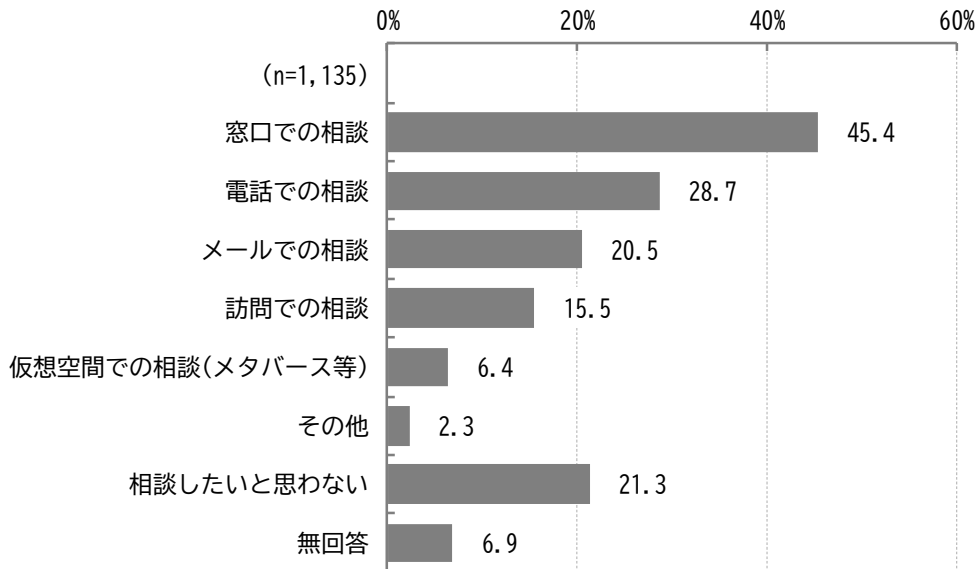
問54 ひきこもりについて、相談したことがある、又は相談するとしたら、どの機関等に相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

「ひきこもり支援専用相談窓口」が47.0%と最も多く、次いで「相談したいと思わない」が23.9%、「東京都ひきこもりサポートネット」が15.3%となっている。



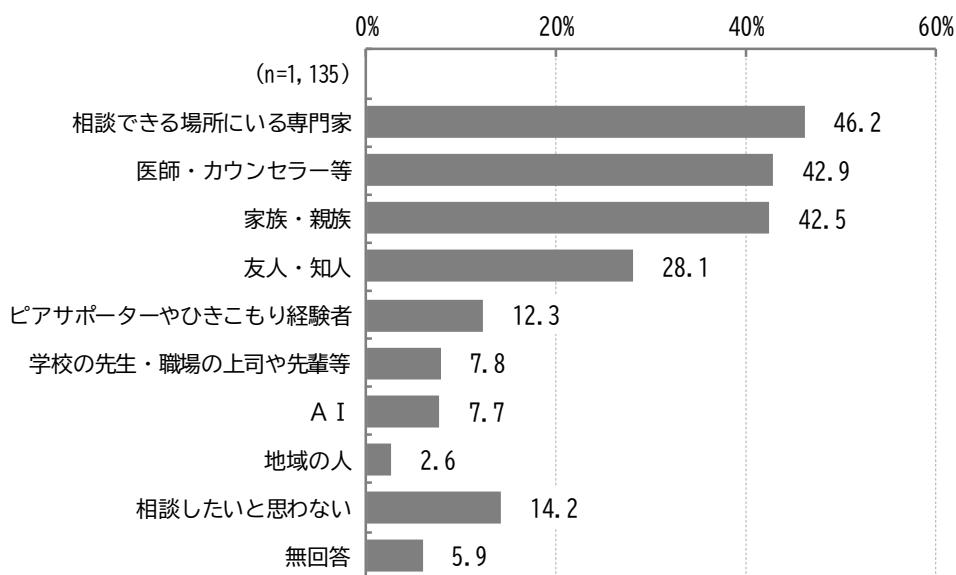
問55 ひきこもりについて、相談したことがある、又は相談するとしたら、どのように相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

「窓口での相談」が45.4%と最も多く、次いで「電話での相談」が28.7%、「相談したいと思わない」が21.3%となっている。



問56 ひきこもりについて、相談するとしたら、どのような相手に相談したいですか。(〇はいくつでも)

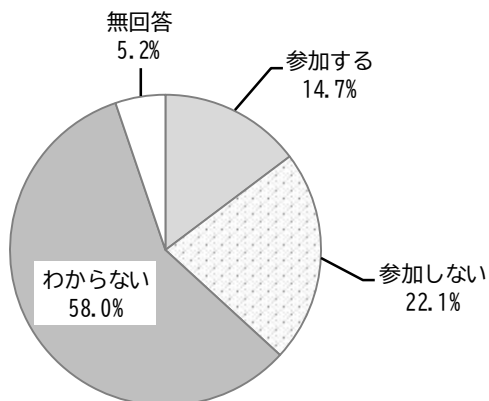
「相談できる場所にいる専門家」が46.2%と最も多く、次いで「医師・カウンセラー等」が42.9%、「家族・親族」が42.5%となっている。



問57 当事者会があれば、参加しますか。(○は1つ)

「わからない」が58.0%と最も多く、次いで「参加しない」が22.1%、「参加する」が14.7%となっている。

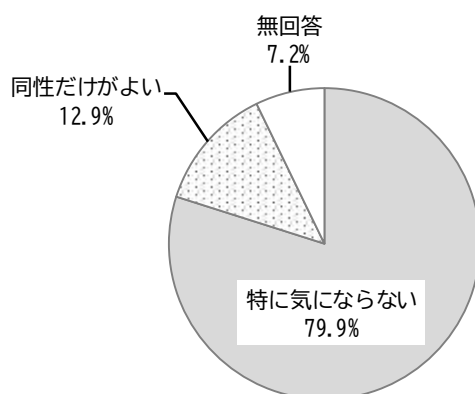
(n=1,135)



問58 当事者会に参加する場合、参加者の性別は気になりますか。(○は1つ)

「特に気にならない」が79.9%、「同性だけがよい」が12.9%となっている。

(n=1,135)

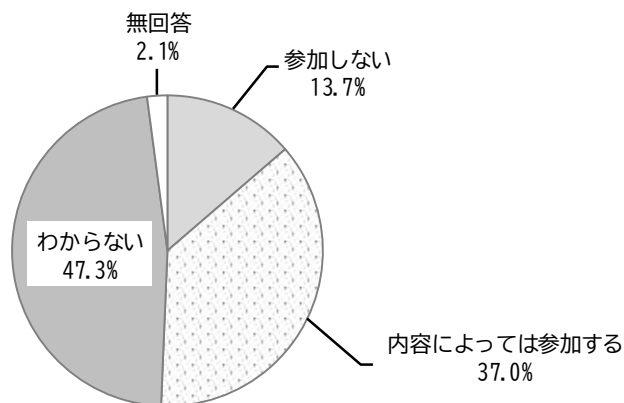


※問 59 は、問 58 で「同性だけがよい」を選択した人のみ回答

問59 異性がいる当事者会の案内があった場合、参加しますか。(○は1つ)

「わからない」が47.3%と最も多く、次いで「内容によっては参加する」が37.0%、「参加しない」が13.7%となっている。

(n=146)

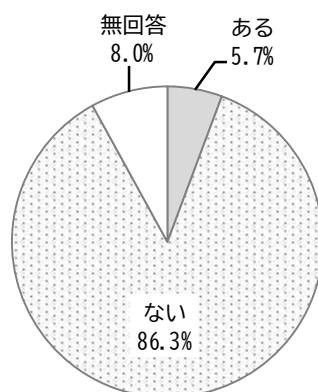


※問 60 は、問 47 で「いない」を選択した人のみ回答

問60 回答者ご本人、又は同居のご家族が過去にひきこもりの状態になったことはありますか。(○は1つ)

「ない」が86.3%、「ある」が5.7%となっている。

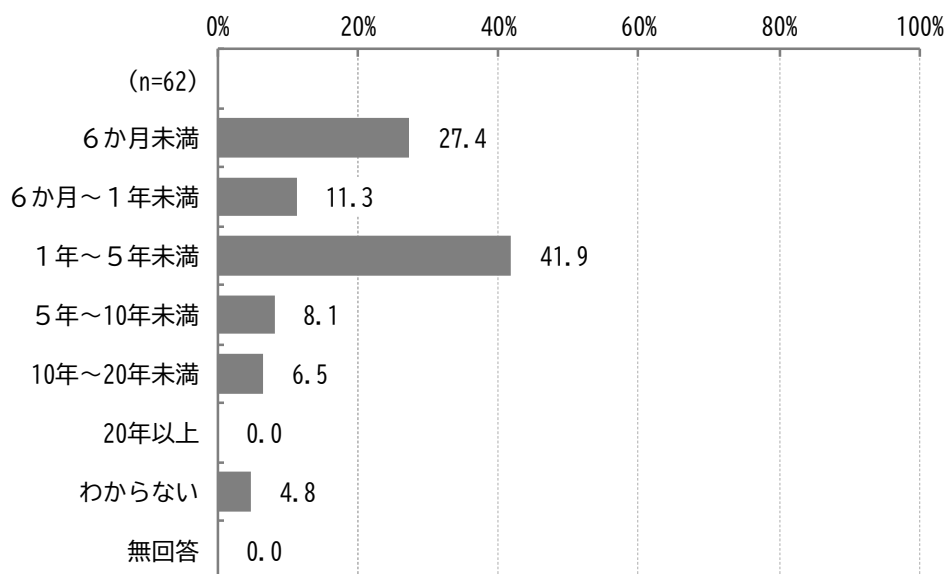
(n=1,091)



※問 61 と問 62 は、問 60 で「ある」を選択した人のみ回答

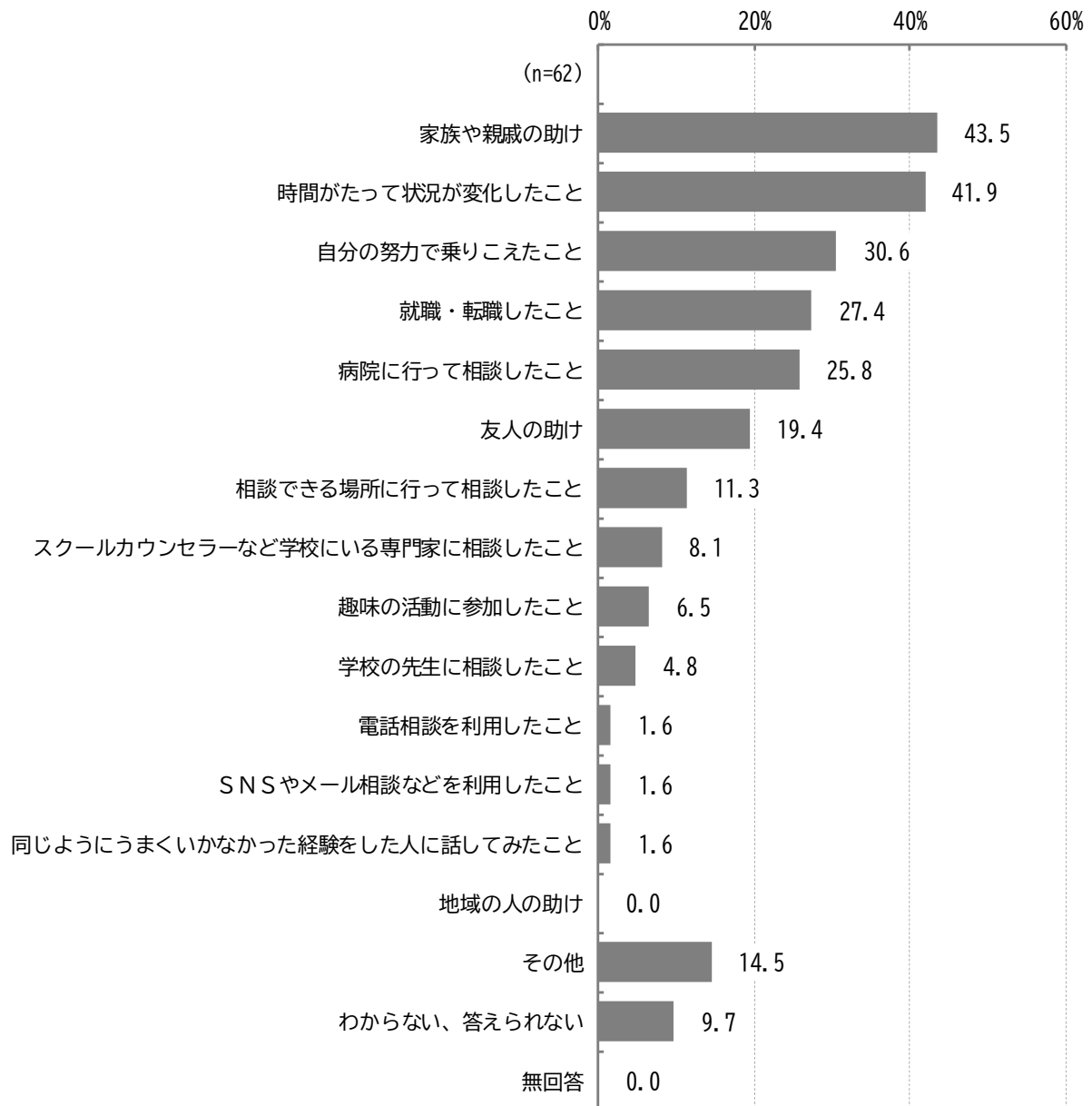
問61 ひきこもりの状態の期間はどれくらいでしたか。
(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

「1年～5年未満」が41.9%と最も多く、次いで「6か月未満」が27.4%、「6か月～1年未満」が11.3%となっている。



問62 その方がひきこもり状態を改善したきっかけや改善に役立ったことは何ですか。
(〇はいくつでも)

「家族や親戚の助け」が43.5%と最も多く、次いで「時間がたって状況が変化したこと」が41.9%、「自分の努力で乗り越えたこと」が30.6%となっている。

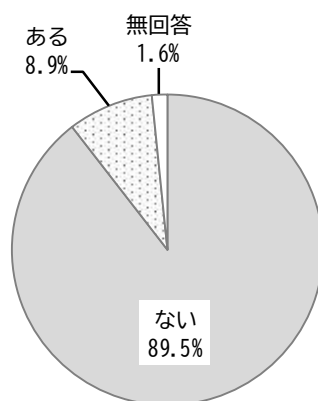


9. 自殺対策について

問63 これまでの人生の中で自殺をしようとして具体的な準備をしたことがありますか。
(○は1つ)

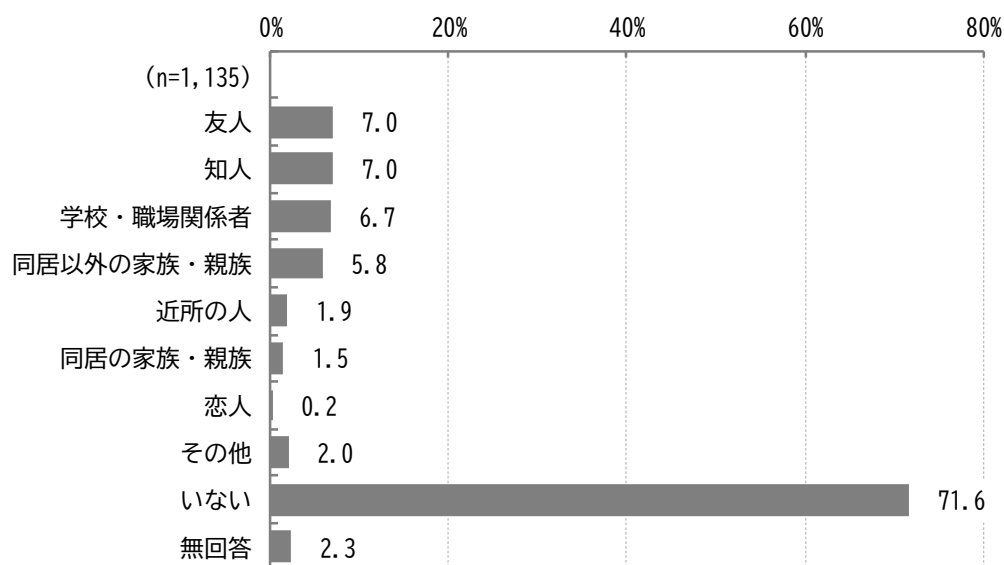
「ない」が89.5%、「ある」が8.9%となっている。

(n=1,135)



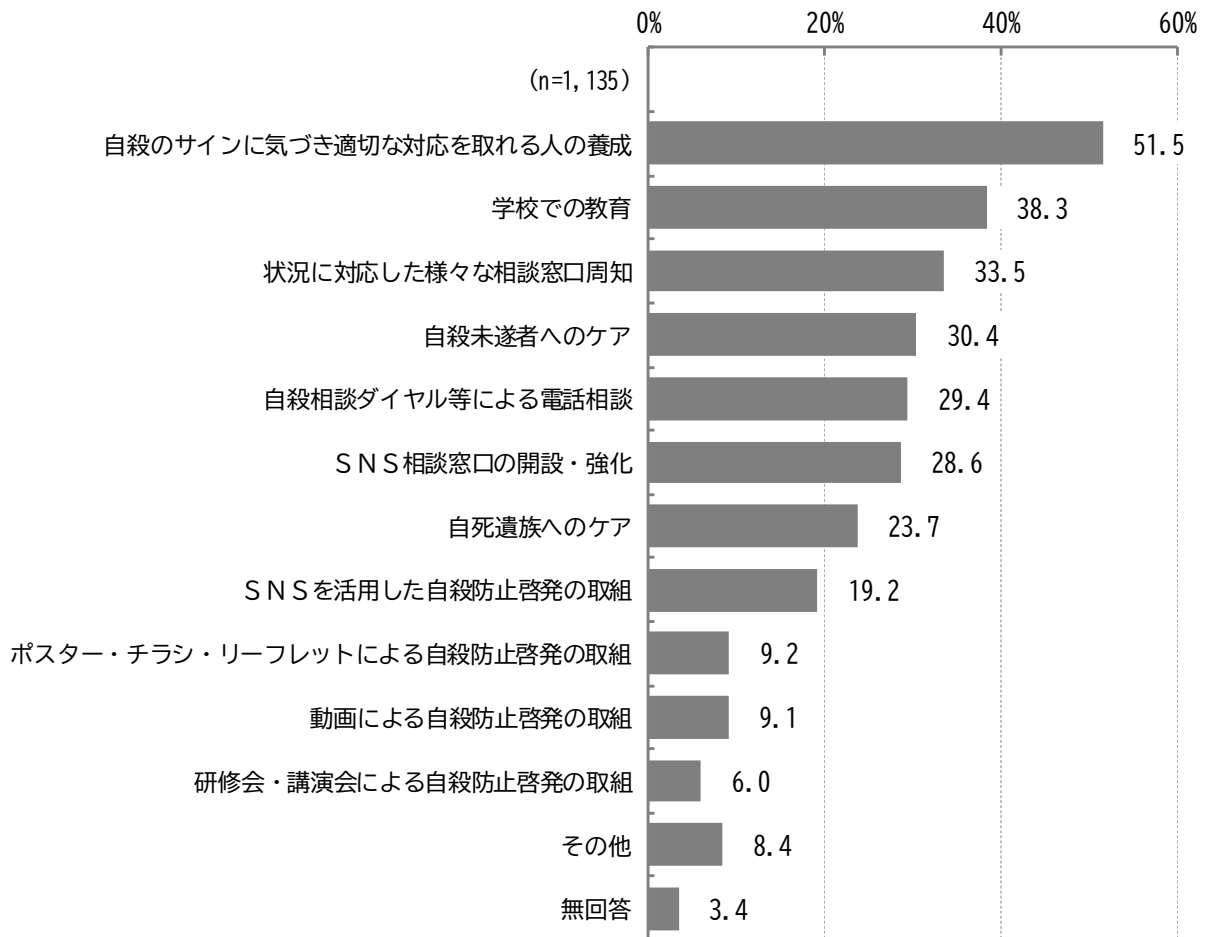
問64 あなたの周りで自殺（自死）した人がいますか。(○はいくつでも)

「いない」が71.6%と最も多く、次いで「友人」と「知人」が7.0%となっている。



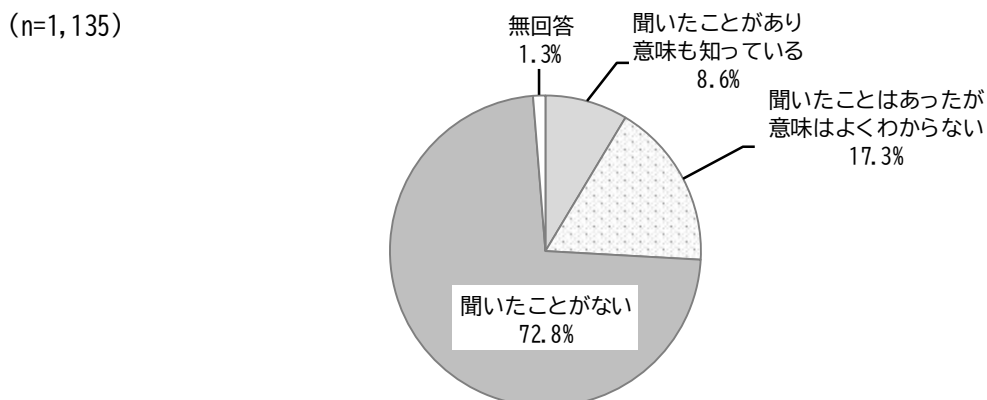
問65 自殺対策の取組として効果的だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

「自殺のサインに気づき適切な対応を取れる人の養成」が51.5%と最も多く、次いで「学校での教育」が38.3%、「状況に対応した様々な相談窓口周知」が33.5%となっている。



問66 ゲートキーパーという言葉を知っていますか。(〇は1つ)

「聞いたことがない」が72.8%と最も多く、次いで「聞いたことはあったが意味はよくわからない」が17.3%、「聞いたことがあり意味も知っている」が8.6%となっている。



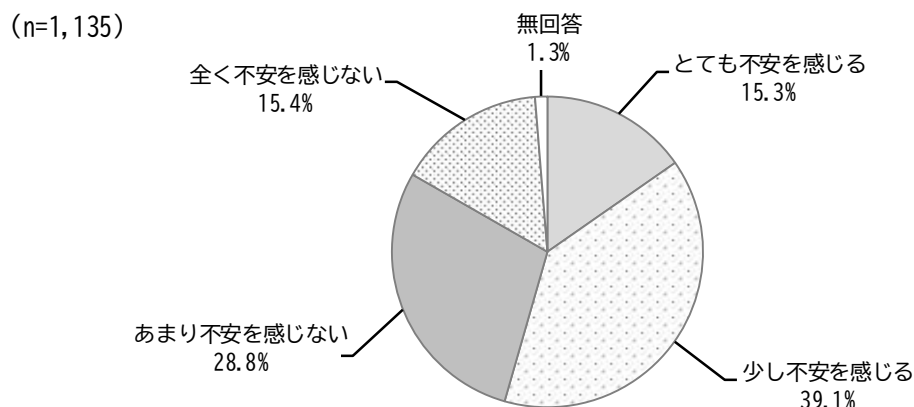
10. 終活について

問67 ご自身の終活（※）について不安を感じることがありますか。（○は1つ）

※終活とは

自身の意思に沿った将来の生活と終末期に備えられるよう準備する活動のことです。

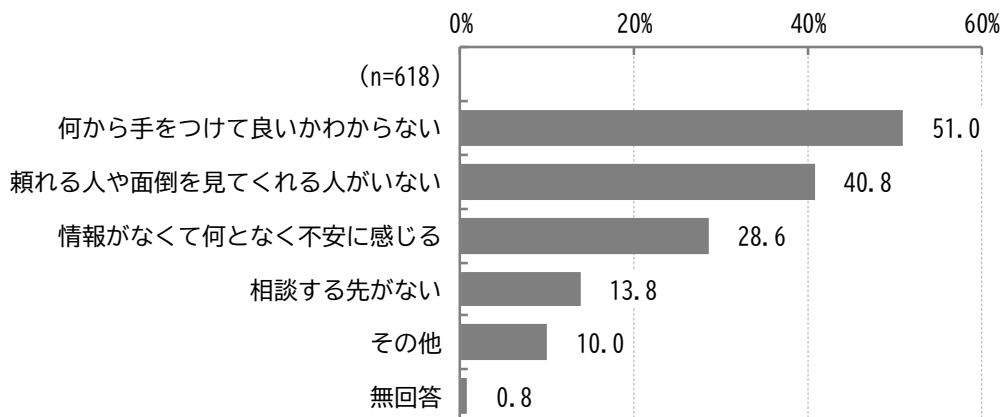
「少し不安を感じる」が39.1%と最も多く、次いで「あまり不安を感じない」が28.8%、「全く不安を感じない」が15.4%となっている。



※問68は、問67で選択肢「1.とても不安を感じる」又は「2.少し不安を感じる」を選択した人のみ回答

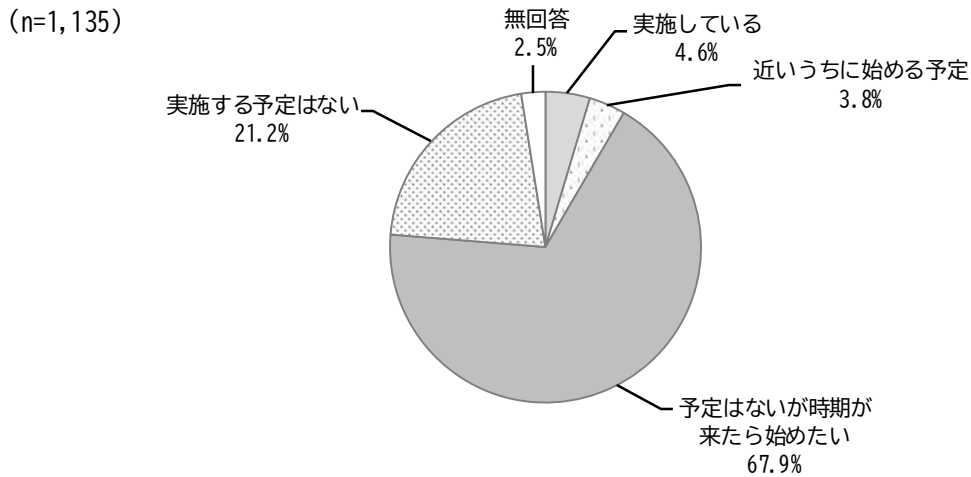
問68 なぜ不安に感じますか。（○はいくつでも）

「何から手をつけて良いかわからない」が51.0%と最も多く、次いで「頼れる人や面倒を見てくれる人がいない」が40.8%、「情報がなくて何となく不安を感じる」が28.6%となっている。



問69 ご自身の終活を実施していますか。(○は1つ)

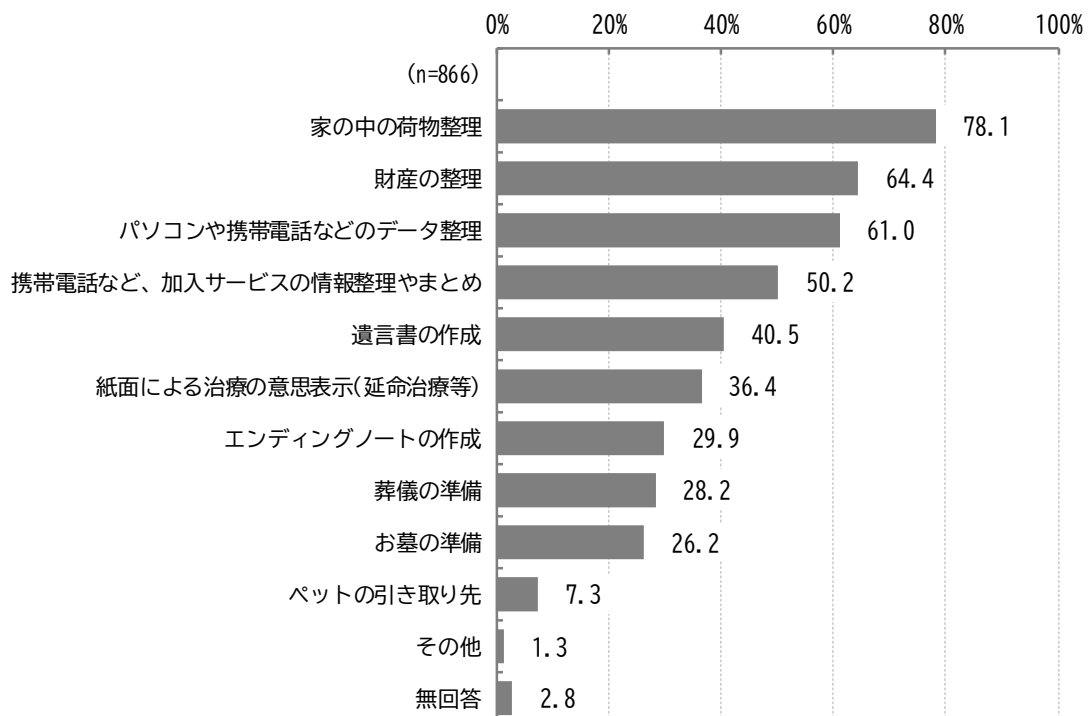
「予定はないが時期が来たら始めたい」が67.9%と最も多く、次いで「実施する予定はない」が21.2%、「実施している」が4.6%となっている。



※問70は、問69で選択肢「1.実施している」～「3.予定はないが時期が来たら始めたい」のいずれかを選択した人のみ回答

問70 実施していること、今後実施する予定があること、興味があることを教えてください。(○はいくつでも)

「家の中の荷物整理」が78.1%と最も多く、次いで「財産の整理」が64.4%、「パソコンや携帯電話などのデータ整理」が61.0%となっている。



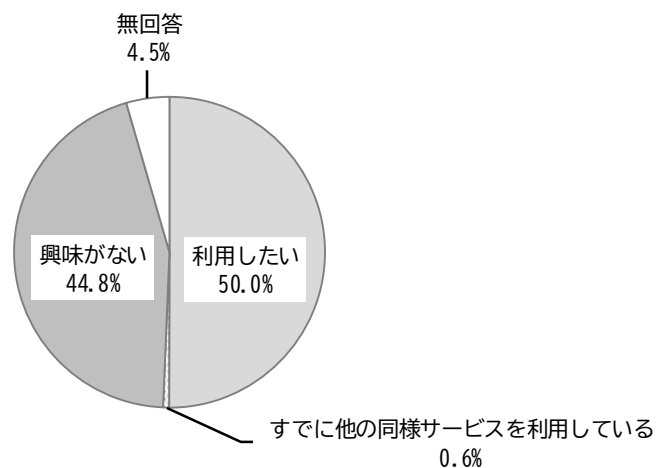
問71 令和7年10月から港区エンディングプラン登録事業（※）を実施します。
このサービスを利用したいと思いますか。（○は1つ）

※港区エンディングプラン登録事業とは

事前に緊急連絡先や生前契約等の終活情報を登録し、病気や事故等で意思表示ができなくなった時又は亡くなった時に、指定した開示先（警察、消防、医療機関、親族など）からの照会に基づき登録者の情報を開示するサービスです。

「利用したい」が50.0%と最も多く、次いで「興味がない」が44.8%、「すでに他の同様サービスを利用している」が0.6%となっている。

(n=1,135)

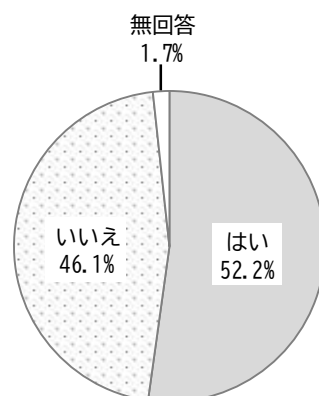


11. 介護について

問72 介護休暇制度を知っていますか（○は1つ）

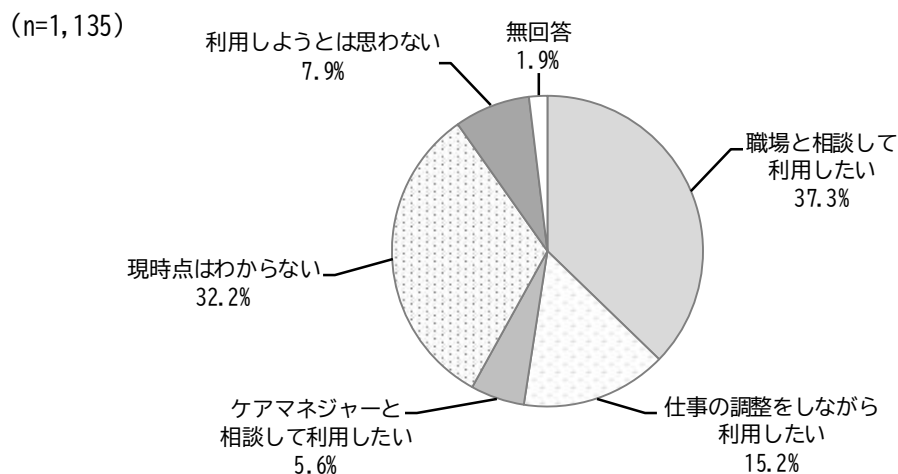
「はい」が52.2%、「いいえ」が46.1%となっている。

(n=1,135)



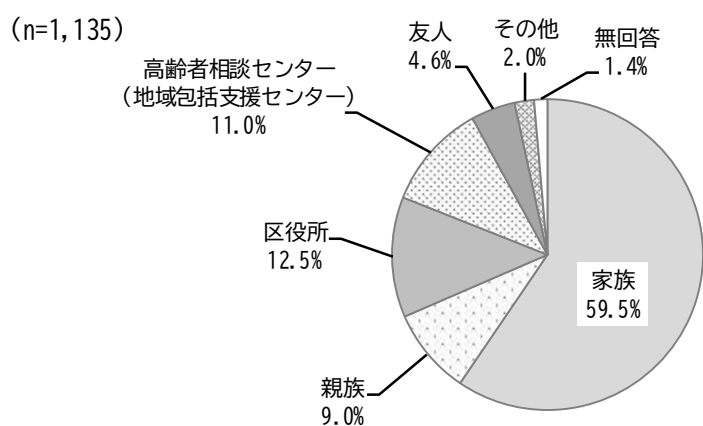
問73 家族（親族）に介護が必要となった時に、介護休暇制度を利用しようと思いますか。
 (○は1つ)

「職場と相談して利用したい」が37.3%と最も多く、次いで「現時点はわからない」が32.2%、「仕事の調整をしながら利用したい」が15.2%となっている。



問74 家族（親族）に介護が必要となった時に、誰に相談しますか。(○は1つ)

「家族」が59.5%と最も多く、次いで「区役所」が12.5%、「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が11.0%となっている。



12. 保健・福祉全般について

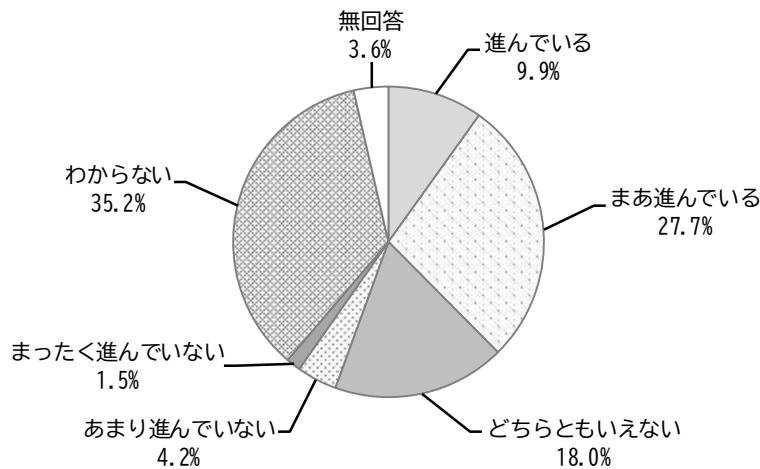
問75 あなたは区の保健・福祉に関する施策について、どのようにお考えですか。
各項目について、[ア]現在の施策に関する認識、[イ]今後重視すべき施策をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

[ア] 現在の施策に関する認識

【① 区民が健康に暮らすための健康増進施策】

「わからない」が35.2%と最も多く、次いで「まあ進んでいる」が27.7%、「どちらともいえない」が18.0%となっている。

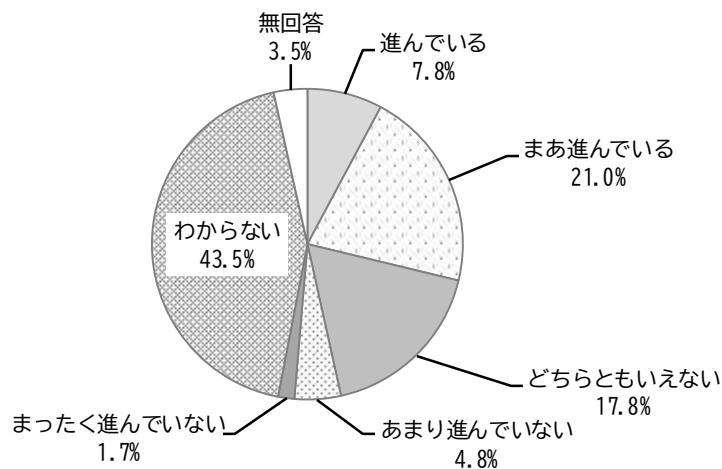
(n=1,135)



【② 高齢者が安心して暮らすための介護や高齢者支援施策】

「わからない」が43.5%と最も多く、次いで「まあ進んでいる」が21.0%、「どちらともいえない」が17.8%となっている。

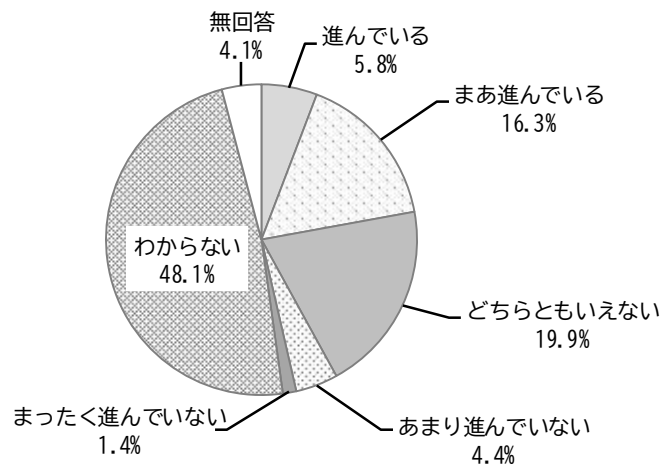
(n=1,135)



【③ 障害者が地域で安心して暮らすための障害者支援施策】

「わからない」が48.1%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が19.9%、「まあ進んでいる」が16.3%となっている。

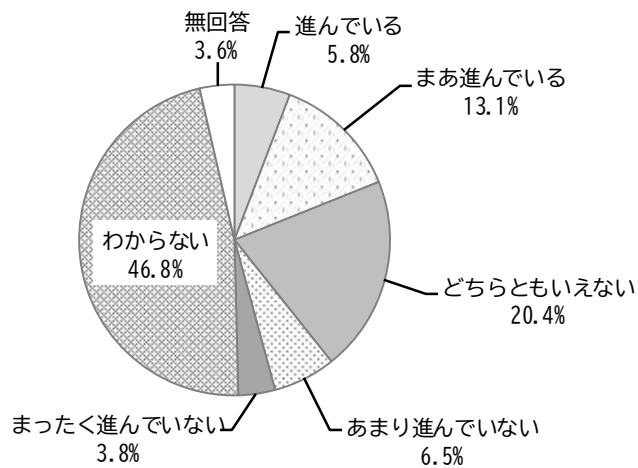
(n=1, 135)



【④ 低所得者等が安定した生活をおくれるようにするための生活福祉施策】

「わからない」が46.8%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が20.4%、「まあ進んでいる」が13.1%となっている。

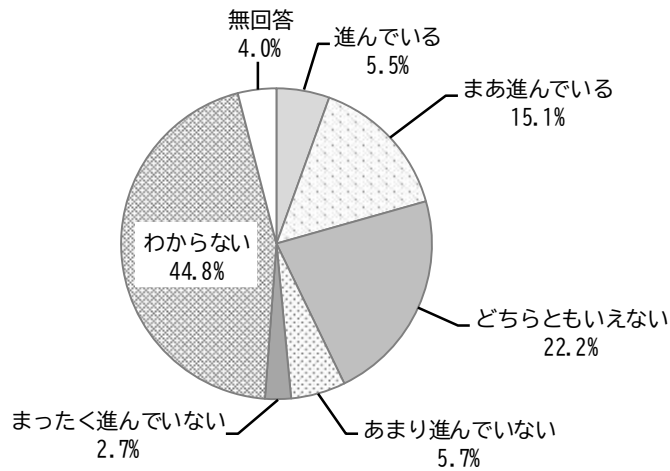
(n=1, 135)



【⑤ 住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らし続けられるための地域福祉施策】

「わからない」が44.8%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が22.2%、「まあ進んでいる」が15.1%となっている。

(n=1,135)

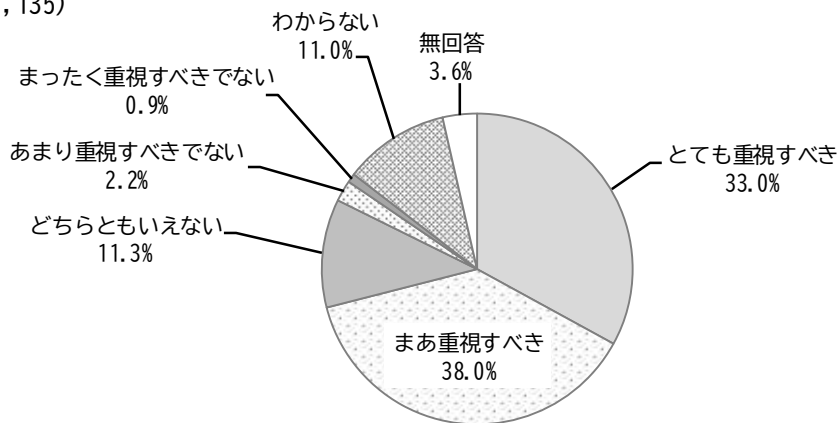


【イ】 今後重視すべき施策

【① 区民が健康に暮らすための健康増進施策】

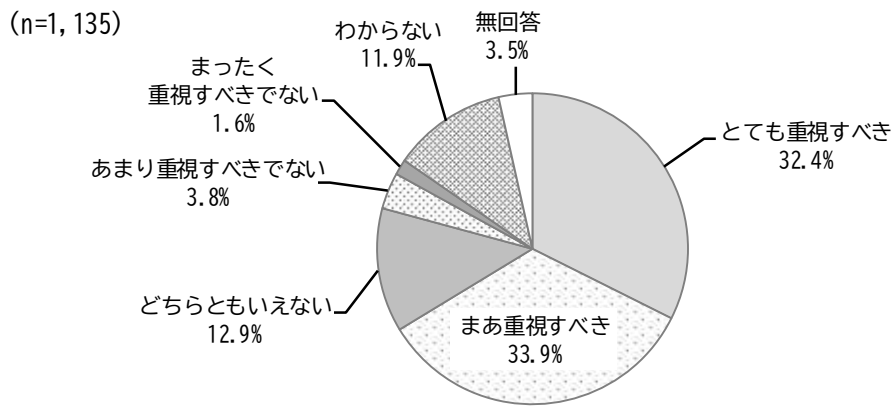
「まあ重視すべき」が38.0%と最も多く、次いで「とても重視すべき」が33.0%、「どちらともいえない」が11.3%となっている。

(n=1,135)



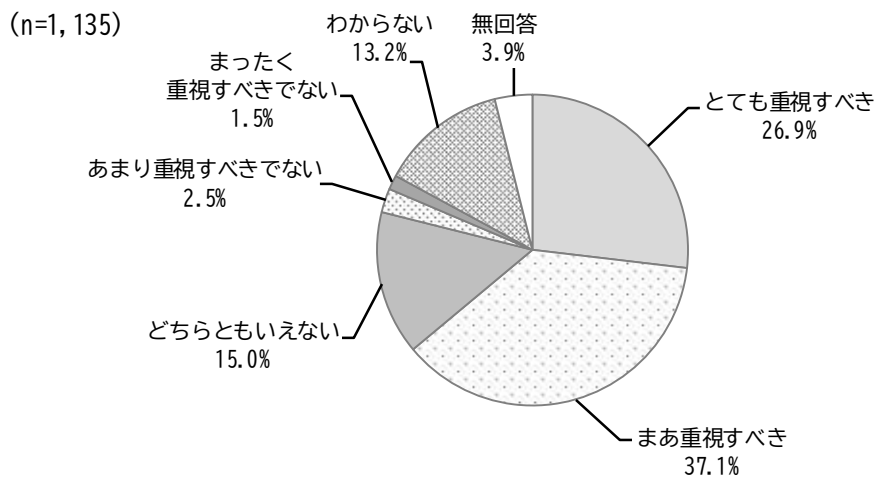
【② 高齢者が安心して暮らすための介護や高齢者支援施策】

「まあ重視すべき」が33.9%と最も多く、次いで「とても重視すべき」が32.4%、「どちらともいえない」が12.9%となっている。



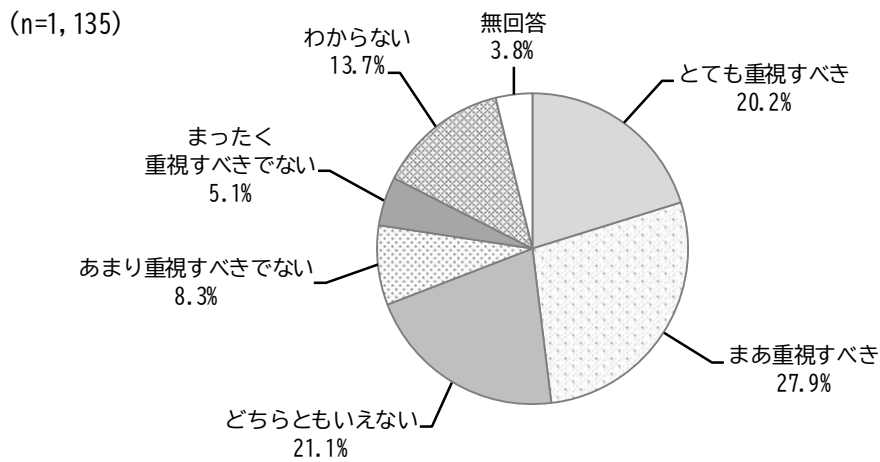
【③ 障害者が地域で安心して暮らすための障害者支援施策】

「まあ重視すべき」が37.1%と最も多く、次いで「とても重視すべき」が26.9%、「どちらともいえない」が15.0%となっている。



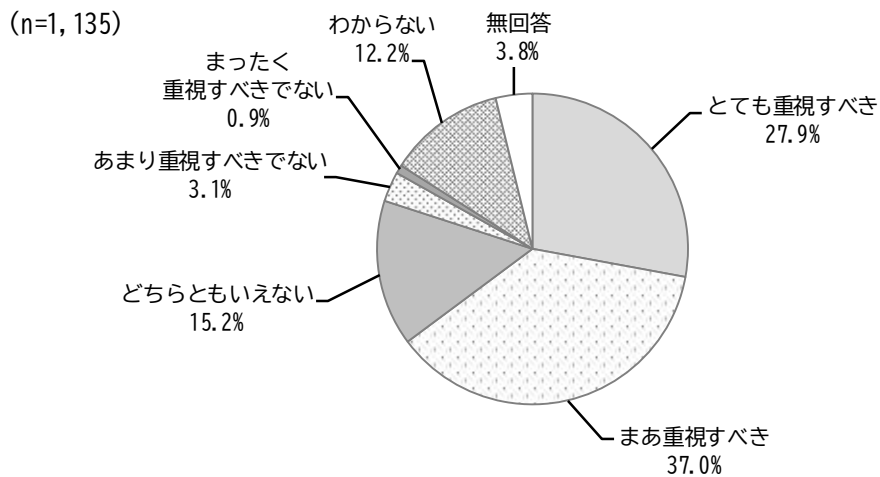
【④ 低所得者等が安定した生活をおくれるようにするための生活福祉施策】

「まあ重視すべき」が27.9%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が21.1%、「とても重視すべき」が20.2%となっている。



【⑤ 住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らし続けられるための地域福祉施策】

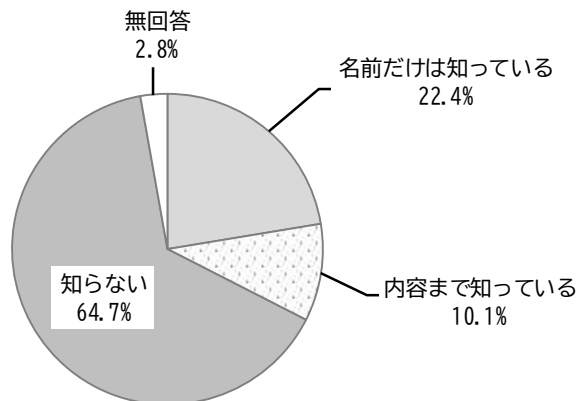
「まあ重視すべき」が37.0%と最も多く、次いで「とても重視すべき」が27.9%、「どちらともいえない」が15.2%となっている。



問76 障害者への差別をなくすことを目的として、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されました。
この法律には、障害を理由とした不当な差別的取扱いを禁じ、また、障害者から生活上のバリア（障壁）を取り除くため何らかの対応を求められたとき、負担が重すぎない範囲で対応することが規定されています。このことを知っていますか。（○は1つ）

「知らない」が64.7%と最も多く、次いで「名前だけは知っている」が22.4%、「内容まで知っている」が10.1%となっている。

(n=1, 135)



問77 港区の保健福祉サービスに対するご意見・ご要望や、今後充実してほしいサービス、普段の生活で困っていることなどがありましたら、ご自由にお書きください。

以下のとおり意見がありました。

分類		件数
1	情報提供・相談に関する意見	26
2	医療・健康施策に関する意見・要望	32
3	将来に関する不安や要望	13
4	保健福祉サービス全般への意見・要望	33
5	その他	78

ご記入いただいた意見のうち、一部を抜粋して記載しています。
 なお、記載に当たって文言等を修正している場合があります。

〔1 情報提供・相談に関する意見〕

- どのような福祉サービスをしているのかをまとめたポスターを区の建物に貼るのはいかがか。何があるのか、何をしているのか実際に困るまでよく知らないという人が多いのでは。
- この調査を通じて知らないサービスが有る事を知る事が出来て良い機会になりました。
- 様々なサービスを提供していただいている様ですが、若者にはあまりその情報が伝わってきません。もう少しサービスの内容の発信力を上げていただけると、幸いです。いつも高校生までの医療費無償化など素晴らしいサービスをありがとうございます。
- 子どもに知的障害があるように感じるが、どこに相談すれば良いかわからない。
- ホームページにはサービス内容を解り易く記載して欲しい。相談、問い合わせは電話や窓口など解り易く相談し易い環境にして欲しい。区民には高齢者以外にもインフルエンザやコロナ予防接種など無料もしくは補助をして欲しい。
- エンディングの施策が始まることをこのアンケートで知って、安堵しました。利用したいので、勉強していきたいと思います。
- 相談窓口があること自体やどんな窓口があるか、どこに相談するのが適切かが、広く周知されていないので、窓口の周知をして欲しいと思っています。

〔2 医療・健康施策に関する意見・要望〕

- 体調不良の際にどの科に受診したら良いかわからないので区の地区ごとの病院一覧がわかりやすいチャートになっていると有難い。
- コロナの際は他の自治体地域の知り合いよりも速やかにワクチン対応がなされ感謝しております。又高齢者の各種予防接種や印鑑証明、住民票の取得等が無料で有るなどサービスが良いと感じています。
- 近所の病院は信頼が無く高い。

- 健診や予防接種など予防医療に力を入れてくださっていると感じています。区だけでは困難かもしれませんが、区と民間を連携するような形での介護施設や介護の手前の状態でも入居できる大型の寮のような住居があると今後独りの高齢者の住まいとして安心と思います。
- どのようなサービスを提供されているのか認知を増やした方が良いかと思います。また、健康増進については無料で近くのジムに数回通える、優待サービスがあるなどの支援があると良いかと思います。よろしくお願いします。
- 健康増進面で、他区から転入して驚いたことは、銭湯の少なさと青山の清水湯にしか高濃度人工炭酸泉がなく、天然温泉（黒湯）は麻布十番の竹の湯のみであること、また白金の三越湯も含めた3つの銭湯がすべて金曜日が定休日、休みのバランスが悪いことでした。金曜日に休日の高齢者ではない港区民が行ける銭湯は、港区営のふれあいの湯のみで、ここは残念ながら楽しむお風呂ではなく単なる大浴場であるため、「お湯」を満喫できる銭湯ではありません。いきいきプラザには高齢者向けの中浴場があり、高齢者に週2回程度無料で開放されているようですが、この浴場を高齢者以外の多世代に「港区銭湯が休みの金曜日」に利用促進することはできませんか？浴場イベントを計画し、chill out 湯、炭酸泉タブレット湯、水風呂など、お湯を楽しむ多世代向けに開放してはどうでしょうか？転入してきた時、ガスの開設が翌日になり、引っ越しの埃まみれ中の救いは銭湯！金曜日に行ける銭湯がほとんどない港区です、、、ご一考ください。
- 区のがん検診を毎年同じ項目が受診出来るようにして欲しい。高齢者住居が少ないので65才以上が安く優先的に入れる住居を用意して欲しい。
- 少なくない税金を払っているにも関わらず、医療などは、生活保護の方が優先と聞き、やるせない気持ちに陥る。福祉の観点から全ての人へのサービスということは、ある程度理解するが、優先順位が違うのではないかと日々感じている。現役世代が病気などで働けなくなった場合、税収も下がることを考えると、サステナビリティの観点から、どこに重点を置くのかは考えるべきだと思う。

〔3 将来に関する不安や要望〕

- 区から住宅提供制度が充実するとよい
- 介護テクノロジーの活用を是非財力のある港区こそモデル地域となって日本をリード頂きたい。
- 終活サービス、身寄りにない人のため身元保証サービス。死後事務サービスなどを充実させて欲しい。
- 高齢者の特養ホームの順番待ちを解消して欲しい。家族の負担が大きいので直ぐに入れるようにして欲しい。
- 子供のいない夫婦です。将来どうなるかが心配。甥や姪もいないので頼れる人はいない。自分達で何とかしなくてはならないが何かから手を付けたら良いのか。
- 1人暮らしのため、家の中で突然倒れた時に誰にも発見されず死んでしまうのが、怖いです。実家も遠いので何かあった時にすぐには来られず心配です。子どもがいれば同じマンション内でのコミュニティに入れるのでしょうか。独りだと近所付き合いもなく知り合いも作りにくい状況で孤独感を感じます。子供向けだけではなく、独り身に対して参加しやすいサービスを求めます。

〔4 保健福祉サービス全般への意見・要望〕

- 介護が必要になってくるとケアマネジャーの方に相談しながら家族に負担をかけずにどこかの介護施設に移住するつもりですが、どのような施設が自分に合うか早めに情報を集めたいです。
- 障害者施設の職員の専門性、研修を強化してほしい。以前勤務していたところでは、障害者を尊重、理解する基本的な理念の欠如した職員が上に立っていた。各施設に虐待防止の研修を義務づけてほしい。
- 高齢者、障害者への支援は国や都が十分にやっている。港区の高額納税者や年収 900 万円以上の方への支援は手薄に感じて不公平である。港区独自の支援、小中高へのオーガニック食材提供等をお願いしたい。
- 港区生まれ、港区育ち、港区が故郷である人が優先的に入れる老人ホームを作ってください。麻布地区をお願いします。
- 高齢者向けおよび子供へのサービスが増えているがそれ以外の人も含めた全体へのサービス強化が重要と思う
- 現在の高齢者は彼らが現役世代に経験した負担より多くの負担を現在の現役世代に強いることで社会保障を受けているが現役世代の将来の保障や社会的サービスは現在の高齢者が享受しているものより質量ともに低下することが明らかであり、制度設計に欠陥があることを知りながら、地方自治体、国およびその首長、首相は得票数の多い現在の高齢者を優遇し続けている。
- 高齢者の住居施設の使用料(家賃、住居料)が、低所得者の枠から少し外れると高すぎます。結果、実際に使用料が高くて負担になっている。健康の為に継続してきたものも辞めざるおえない状況。低所得者にだけ負担ない使用料。ギリギリ外れてしまうと使用料が負担で今後は不安になっている高齢者見ていて、自分自身も今後は不安になる。使用料の上がり幅の設定を見直して欲しい。
- 低所得者層への支援ですが、基本的には港区では優先されるべきではないと考えます。そういう方は公立の学校等での親子共々質が悪いという事例をよく聞きます。大切にすべきは適切に納税し、子育てやそれ相応に質を求めてくる方々であると考えますが、そういう方々が逆に我慢をしたりストレスに感じるような状態を作っている低所得者への下手な支援は改めて考え直すべきだと思います。一意見となりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。
- 高齢者の生活の中に移動手段の利便性向上を検討頂きたくお願ひ申し上げます。港区では乗り合いタクシーなど安価で特別な支援をさほど必要としない方への交通手段への対応を試みて下さってますが電気自動車の無人運転車のサポートを手厚くして頂く事で金銭的余裕のある方などの老後生活が快適になる方が一定数おられるように感じます。
- 今回のアンケートで取り扱っているような問題の大部分について、港区が税金で取り組むべき課題とは思えない。特に孤独対策やエンディングノートなど、(その原因が障害など公的支援を要するものは別として)本来的に公費で実施すべきとは思えない。現役世代の税や社会保険の負担増を踏まえ、サービス拡充ではなく負担を下げる施策こそ検討してほしい。
- 高齢者や低所得者層ばかりの対策で不公平感がある。中間層にも、給付金などの支援をお願いしたい。

- 認知症の母の介護サービス、とても助かっています。港区に住んでいて良かったと思わされます。敬老の会も毎年楽しみにしております。
- 気楽に行けるたまり場みたいな場所があると孤立する人が減るように感じます。

〔5 その他〕

- いつも区民のためにありがとうございます。匿名なのはわかりますが、年代を絞ったアンケート内容でないとデータは取れないかと思います。
- 港区に引越したばかりで保健福祉サービスについて良く解っておりません。
- 今回のアンケートで取り扱っているような問題の大部分について、港区が税金で取り組むべき課題とは思えない。特に孤独対策やエンディングノートなど、(その原因が障害など公的支援を要するものは別として)本来的に公費で実施すべきとは思えない。現役世代の税や社会保険の負担増を踏まえ、サービス拡充ではなく負担を下げる施策こそ検討してほしい。
- 戦前、戦後から港区に住み続けている世代の若い世代にも、今だに閉鎖感が多くあると実体験からも感じる。「港区に入居し始めた人達皆、歓迎」と言葉では言っている。故に行政が一生懸命制度などを取り入れても、上記の理由から地域での交流を避けている自分には、全く意味は無い。子供の友達やその親にも、メンタルで問題抱えている人が、他エリアよりも多いし、短期間で港区より出て行く人(長期住み続ける所ではないと皆言っていた)が、とても多い。私も早く港区から出て行きたい。便利かもしれませんが、永く住む所ではないですね。
- 高齢者への福祉の充実はこれ以上もうしなくて良いので(特に港区の高齢者に対して支援は不要。全て自費でやるべき。)、そこにかかる費用を全て子育て世代に回すべき。
- 子ども(及び障害児)支援の充実の一択です低所得者向けや高齢者向けの社会福祉は十分過ぎるほど整っていると思います。
- 体操、囲碁、将棋、麻雀、ボードゲーム等の老人サークルを区のセンターで行って欲しい。
- これを書いていてもっと積極的に町会等の地域活動にコミットして行くべきかなと思いました。お互いの為に地域の活動は大切だと思っていたのに何もしていないなと思ったので。
- 老後に港区に住めると思っていないので、よくわかりません。

第4章 調査票

1 一般区民を対象とした調査票

ウー01：一般区民

港区保健福祉基礎調査

■ 回答にあたってのお願い

- 郵送又はインターネットのいずれか1つの方法でご回答ください。
- 調査は無記名方式で行いますので、調査票や返信用封筒に氏名・住所等を記載しないでください。
- できるだけあて名の方(ご本人)がご回答ください。ただし、ご本人が回答できない場合には、ご家族や身近な方がご本人のご意向を可能な限り確認したうえで、ご回答ください。
- インターネットで回答する場合は、同封の「ご協力をお願い」記載のURL・二次元コードからアクセスしてください。

ユーザID:

パスワード:

※ このユーザIDとパスワードは、インターネット回答のために使用するものであり、回答者個人を特定するものではありません。

■ 調査票記入にあたってのお願い

- えんぴつやボールペン等でこの調査票に直接ご記入ください。
- 選択式の設問では、あてはまる選択肢の番号に○をご記入ください。
- 選択式ではない設問では、文字や数字を回答欄にご記入ください。
- 「その他」の回答については、()内に具体的な内容をご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和7年10月10日(金)までに、郵便ポストにご投函ください。(切手不要、氏名等記入不要です)

1. あなた自身について

問1 性別を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------|----------|
| 1. 男性 | 3. 回答しない |
| 2. 女性 | |

問2 年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20歳未満 | 4. 30～34歳 | 7. 45～49歳 |
| 2. 20～24歳 | 5. 35～39歳 | 8. 50～54歳 |
| 3. 25～29歳 | 6. 40～44歳 | 9. 55～59歳 |
| | | 10. 60歳以上 |

問3 お住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

1. 芝地区 (東新橋、新橋、西新橋、虎ノ門、愛宕、浜松町、芝大門、芝公園、
海岸1丁目、芝、三田1~3丁目)
2. 麻布地区 (麻布台、東麻布、麻布永坂町、麻布狸穴町、六本木、麻布十番、
元麻布、南麻布、西麻布)
3. 赤坂地区 (元赤坂、赤坂、南青山、北青山)
4. 高輪地区 (三田4~5丁目、高輪、白金、白金台)
5. 芝浦港南地区 (芝浦、海岸2~3丁目、港南、台場)

問4 職業を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|------------|----------------------|
| 1. 学生 | 6. 会社経営・役員 |
| 2. 家事専業 | 7. 会社員・団体職員 (正規職員) |
| 3. 無職 | 8. 会社員・団体職員 (正規職員以外) |
| 4. 自由業・自営業 | 9. パート・アルバイト・派遣社員等 |
| 5. 公務員 | 10. その他 () |

問5 あなたの1週間の平均的な労働時間を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 働いていない | 4. 40~49時間 |
| 2. 30時間未満 | 5. 50~59時間 |
| 3. 30~39時間 | 6. 60時間以上 |

問6 現在、どなたと同居しているか教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 父親・母親 | 6. 孫 |
| 2. 配偶者 (夫・妻) | 7. 祖父・祖母 |
| 3. 子ども (未婚) | 8. その他の親戚 |
| 4. 子ども (既婚) | 9. その他 () |
| 5. 兄弟姉妹 | 10. 一人暮らし |

問7 現在お住まいの住宅を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 持ち家 (一戸建て・集合住宅) | 3. 民間賃貸住宅 (一戸建て・集合住宅) |
| 2. 公営賃貸住宅 | 4. その他 () |

問8 あなたの世帯全体における昨年1年間のおおよその年収（税込）を教えてください。

（○は1つ）※年金や生活保護等の金額も含みます。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 200万円未満 | 6. 700万円以上1000万円未満 |
| 2. 200万円以上300万円未満 | 7. 1000万円以上1500万円未満 |
| 3. 300万円以上400万円未満 | 8. 1500万円以上2000万円未満 |
| 4. 400万円以上500万円未満 | 9. 2000万円以上 |
| 5. 500万円以上700万円未満 | 10. わからない・答えたくない |

問9 港区での居住年数を教えてください。（○は1つ）

※港区内で引っ越し等をされている場合は、合計の年数をお選びください。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 1年未満 | 4. 5年以上10年未満 |
| 2. 1年以上3年未満 | 5. 10年以上20年未満 |
| 3. 3年以上5年未満 | 6. 20年以上 |

問10 今後、港区に住み続けたいと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 1年以内に引っ越し予定である | 4. 10年くらいは住み続けたい |
| 2. 2～3年くらいは住み続けたい | 5. ずっと住み続けたい |
| 3. 5年くらいは住み続けたい | |

問11 あなたが現在抱えている福祉課題を教えてください。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1. 育児・子育て（子どもの介護・看護を含む） | 5. 自身の障害 |
| 2. 親の介護・看護 | 6. 生活困窮・貧困 |
| 3. 配偶者（夫・妻）の介護・看護 | 7. その他（ ） |
| 4. 自身の疾病（高齢化に伴う日常生活自立度の低下を含む） | 8. 抱えている課題はない |

2. 地域での支え合いや地域活動について

問12 人とのつながりについて教えてください。(それぞれ○は1つ)

(1) 親戚とのつきあいについて

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 礼儀を尽くす程度のつきあい | 4. 疎遠 |
| 2. 気軽に行き来できるつきあい | 5. その他 () |
| 3. 何かにつけて相談できるつきあい | |

(2) 隣近所とのつきあいについて

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 会った時に挨拶する程度のつきあい | 4. 疎遠 |
| 2. 堅苦しくなく話し合えるつきあい | 5. その他 () |
| 3. 何かにつけて相談できるつきあい | |

問13 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. とても必要だと思う | 3. あまり必要だと思わない |
| 2. まあまあ必要だと思う | 4. 必要だと思わない |

※問14は、問13で「1」又は「2」を選択した方に伺います。

問14 地域で起こる様々な生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取組が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること |
| 2. 自ら進んで、日頃から住民同士のつながりを持つよう心がけること |
| 3. ボランティアやNPOの活動が盛んになること |
| 4. 民間企業と連携した地域住民の活動を盛んにすること |
| 5. 地域の人が気軽に集まれる場所をつくること |
| 6. 社会福祉協議会において地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていくこと |
| 7. 行政において地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていくこと |
| 8. その他 () |
| 9. わからない |

問15 お住まいの地域や様々な交流の場等で、気になる人や不安や悩みを抱えている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしようと思いますか。(〇は1つ)

1. はい 2. いいえ

※問16は、問15で「2」を選択した方に伺います。

問16 その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 自分には役に立てることがない | 6. どのように接してよいかわからない |
| 2. 自分が何をすればよいかわからない | 7. 誰かがやってくれると思う |
| 3. そのようなことに自分の時間や労力をかけたくない・面倒 | 8. 興味・関心がない |
| 4. 自分で解決すべき | 9. そのような余裕はない |
| 5. 人に声をかけづらい | 10. その他 () |

問17 お住まいの地域で、グループや団体に自主的に行われている活動(地域活動)へ参加したいと思いませんか。(〇は1つ)

1. 参加している
2. 参加したい
3. 参加したいが事情があって参加できない
4. 参加したくない

問18 誰もが気軽に立ち寄り、自由な時間を過ごすことができ、心理的に解放されるような「居場所」があったら、利用したいと思いますか。(〇は1つ)

1. 利用したい
2. 利用したくない
3. わからない

問19 最近、5年間において、公衆浴場(銭湯)を利用したこと又は利用したいと思ったことはありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 利用した | 3. 特に利用を考えたことがない |
| 2. 利用したいと思ったことがある | 4. その他 () |

※問20は、問19で「1」又は「2」を選択した方に伺います。

問20 その理由はなんですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 住居にお風呂がないから | 7. 地域の人たちなどとのふれあいが |
| 2. 住居にあるお風呂の掃除が大変だから | あるから |
| 3. 広いお風呂に入りたいから | 8. 健康増進のため |
| 4. 住居のお風呂を使うより経済的だから | 9. 無料入浴券を受給しているから |
| 5. 家族や友人等と一緒に入浴できるから | 10. 区民無料開放デーだったから |
| 6. 銭湯の雰囲気が好きだから | 11. 一人での入浴に不安があるから |
| | 12. その他 () |

問21 民生委員・児童委員を知っていますか。(〇は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 民生委員・児童委員の役割や活動内容まで知っている |
| 2. 民生委員・児童委員のことを少しは知っている |
| 3. 民生委員・児童委員の名称は聞いたことがある |
| 4. まったく知らない |

問22 65歳以上になっても仕事をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1. 自営業としての仕事をしたい |
| 2. 正規の職員・従業員として仕事をしたい |
| 3. 会社などの役員として仕事をしたい |
| 4. 契約・派遣・臨時・パートとして仕事をしたい |
| 5. シルバー人材センターの会員として仕事をしたい |
| 6. 仕事をするつもりはない・する必要がない |
| 7. 仕事はできない |
| 8. その他 () |

4. かかりつけ医と夜間休日診療体制について

問27 健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師（かかりつけ医）はいますか。（〇は1つ）

- | | |
|--------|---------------------|
| 1. いる | 3. 今はないがかかりつけ医を持ちたい |
| 2. いない | |

問28 港区の休日・夜間診療について、実施されていることを知っていますか。また、利用したことはありますか。（〇は1つ）

- | |
|---------------------------------|
| 1. 知っており、利用したことがある |
| 2. 知っているが、利用したことはない（その理由：_____） |
| 3. 知らない |

問29 みなと子ども救急診療室について、知っていますか。また、利用したことはありますか。（〇は1つ）

- | |
|--|
| 1. 知っており、利用したことがある（受診理由（〇は1つ）：病気・怪我・その他） |
| 2. 知っているが、利用したことはない（その理由：_____） |
| 3. 知らない |

5. 感染症について

問30 感染症について、どのような媒体から有益な情報を入手していますか。

（〇はいくつでも）

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 広報みなと | 6. テレビ |
| 2. 港区公式ホームページ | 7. インターネット |
| 3. 区からのメールや SNS | 8. 新聞 |
| 4. 厚生労働省のホームページ | 9. その他（_____） |
| 5. 東京都のホームページ | 10. 入手していない |

問31 普段の生活で取り入れている感染症を予防する生活習慣は何ですか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 手洗い | 7. 禁煙 |
| 2. 咳エチケット (マスクの着用等) | 8. バランスの良い食事 |
| 3. うがい | 9. 予防接種 |
| 4. 休養 | 10. 適切な抗生物質の使用 |
| 5. 湿度の管理・換気 | 11. 取り入っていない |
| 6. 口腔ケア | |

問32 結核は、空気感染で、家族や職場の同僚などの身近な人にうつす病気です。結核を早期発見するためには、胸部エックス線撮影が有効ですが、胸部エックス線撮影の機会がありますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 年1回、区民健診や職場の健診で撮影している | 3. 持病などで年に数回撮影している |
| 2. 2~3年に1回撮影している | 4. 5年以上撮影していない |

問33 エイズ・性感染症の検査を匿名・無料で受けられる場所を知っていますか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------|
| 1. みなと保健所 | 5. 匿名・無料で受けられることは知っていたが、場所は知らなかった |
| 2. 区内医療機関 (ai チェック実施) | 6. 匿名・無料で受けられることを知らなかった |
| 3. 都内の保健所 | |
| 4. 東京都新宿東口検査・相談室 | |

6. 地域包括ケアについて

問34 あなたに不安や悩みが生じた場合の相談先と相談方法について、「1～13」の相談相手がいる場合は「a～c」の中から相談方法をお答えください（〇はいくつでも）。
相談相手がいない、もしくは誰かに相談をしないという場合は、「14・15」のいずれかを
お答えください。

相談先	相談方法（a～cから選択。〇はいくつでも）		
	でんわ 電話	メール・ LINE等のSNS	たいめん 対面
1. 家族・親族	a	b	c
2. 友人・知人	a	b	c
3. 区役所・福祉総合窓口・保健所等の 区の窓口	a	b	c
4. 民間の福祉施設（介護保険、 障害福祉、保育サービス事業所等）	a	b	c
5. 社会福祉協議会	a	b	c
6. 学校	a	b	c
7. 病院、診療所	a	b	c
8. 職場関係者（上司・同僚・人事部・ 産業医など）	a	b	c
9. 近隣の住民	a	b	c
10. 町会・自治会	a	b	c
11. 民生委員・児童委員	a	b	c
12. NPO等の民間団体・ボランティア団体	a	b	c
13. その他（具体的に：)	a	b	c
14. 相談せずにインターネットや書籍等で調べる			
15. 相談相手がいないので、相談できない			

問35 今後、福祉に関する相談をすることになった時、区の相談機関にはどのようなことを求めますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1. ひとつの窓口でいろいろな相談ができる | 6. 気軽に相談できる雰囲気がある |
| 2. 予約なしで相談ができる | 7. 土日や祝日、仕事帰りに相談ができる |
| 3. 専門性の高い相談ができる | 8. 相談の際、同行している子どもや高齢者の面倒をみってくれる |
| 4. 区役所に行かなくても、リモート等で相談ができる | 9. その他 () |
| 5. 相談員が訪問してくれる | 10. 特に要望はない |
| | 11. わからない |

問36 人生会議（※アドバンス・ケア・プランニング<ACP>）を知っていますか。(〇は1つ)

※最期まで自分らしく暮らすために医療や介護をどのように受けたいか、ご家族や医療・介護の担当者とあらかじめ話し合い、共有する取組を指します。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 知っているし、実践したことがある | 3. 知らないが、実践してみたい |
| 2. 知っているが、実践したことはない | 4. 知らないし、実践したくない |

問37 人生の終末期をどこで過ごしたいですか。(〇は1つ)

- | | |
|---------|------------|
| 1. 自宅 | 3. 医療機関 |
| 2. 介護施設 | 4. その他 () |

※問38は、問37で「1」を選択した方に伺います。

問38 なぜ、自宅を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 訪問してくれるかかりつけの医師がいるから |
| 2. 住み慣れた場所で最期を迎えたいから |
| 3. 最期まで自分らしく好きなように過ごしたいから |
| 4. 家族等に看取られたいから |
| 5. 症状が急に悪くなったときにすぐに医師や看護師が訪問してくれるから |
| 6. 在宅医療や在宅介護の体制が整っているから |
| 7. 医療機関や介護施設で過ごすより経済的に負担が大きいと思うから |
| 8. その他 () |

※問39は、問37で「2」から「4」のいずれかを選択した方に伺います。

問39 なぜ、自宅以外を選択したのか、お考えに近いものをお選びください。
(○はいくつでも)

1. 訪問してくれるかかりつけの医師がないから
2. 在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから
3. 介護してくれる家族がないから
4. 家族等に負担をかけたくないから
5. 症状が急に悪くなったときの対応に不安があるから
6. 居住環境が整っていないから
7. 自宅で過ごすと経済的に負担が大きいと思うから
8. その他 ()

問40 万が一、何かあった時（緊急入院など）に頼れる人は誰ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 父親・母親 | 6. 祖父・祖母 |
| 2. 配偶者（夫・妻） | 7. 叔父叔母、甥姪 |
| 3. 子ども | 8. 友人 |
| 4. 兄弟姉妹 | 9. 近所の人 |
| 5. 孫 | 10. その他 () |
| | 11. 頼れる人はいない |

問41 港区在宅療養相談センターを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 知っているし、相談したことがある | 3. 知らない |
| 2. 知っているが、相談したことはない | |

問42 福祉総合窓口を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---------|
| 1. 知っているし、相談したことがある | 3. 知らない |
| 2. 知っているが、相談したことはない | |

7. 孤独・孤立について

問43 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 決してない | 4. 時々ある |
| 2. ほとんどない | 5. しばしばある・常にある |
| 3. たまにある | |

問44 現在の孤独感(問43で回答した状況)に強く影響を与えたとと思われる出来事はどれですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 一人暮らし | 11. 家族以外の親しい知人等との死別 |
| 2. 転居 | 12. 家族間の重大なトラブル |
| 3. 転校・転職・離職・退職
(失業を除く) | (家庭内別居・DV・虐待を含む) |
| 4. 失業・休職・退学・休学
(中退・不登校を含む) | 13. 心身の重大なトラブル |
| 5. 妊娠・出産・子育て | (病気・怪我等) |
| 6. 介護・介助 | 14. 仕事上の重大なトラブル |
| 7. 子どもの独り立ち | 15. 人間関係による重大なトラブル
(いじめ・ハラスメント等を含む) |
| 8. 家族の病気・障害 | 16. 金銭による重大なトラブル |
| 9. 家族との離別 | 17. 生活困窮・貧困 |
| 10. 家族との死別 | 18. 自然災害の被災・犯罪の被害等 |
| | 19. その他の出来事(具体的に：) |
| | 20. 特に影響を与えたとと思われる出来事はない |

問45 次の①～③について、当てはまる数字をお選びください。(それぞれ〇は1つ)

①～③についてそれぞれ〇は1つ	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある
①あなたは、自分には人とのつきあがないと感じることがありますか。	1	2	3	4
②あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。	1	2	3	4
③あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じるがありますか。	1	2	3	4

問46 あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。

(○はいくつでも)

1. 相談することで解決できる、又は解決の手がかりが得られる
2. 適切な相談先が思い浮かばない
3. 相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる
4. 相手に連絡を取ることや、不安や悩みを説明するのが面倒である
5. 相談することが恥ずかしい
6. 相談すると相手の負担になる
7. 相談しても無駄である(相談しても解決しない・自分で解決できる)
8. その他()

8. ひきこもりについて

問47 同居のご家族にひきこもりの状態(※)にある方がいますか。

(回答者ご本人がひきこもりの状態にある場合を含みます。)(○は1つ)

※ひきこもり状態とは

「就学、就労、家族以外での交流を避けるなど、社会的参加を避け、家庭にとどまり続けている状態」を指します。

けがや疾病等の理由で自宅を中心とした生活をされている方は除きます。

1. いる
2. いない

※問48 から問53 は、問47 で「1」を選択した方に伺います。

問48 ひきこもりの状態の方との関係を教えてください。

(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

- | | | | |
|-------------|----------|---------|------------|
| 1. 本人 | 4. 子ども | 7. 叔父叔母 | 9. その他親族 |
| 2. 配偶者(夫・妻) | 5. 兄弟姉妹 | 8. 甥姪 | 10. その他同居人 |
| 3. 父親・母親 | 6. 祖父・祖母 | | |

問49 ひきこもりの状態の方の年齢を教えてください。

(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20歳未満 | 4. 30～34歳 | 7. 45～49歳 |
| 2. 20～24歳 | 5. 35～39歳 | 8. 50～54歳 |
| 3. 25～29歳 | 6. 40～44歳 | 9. 55～59歳 |
| | | 10. 60歳以上 |

問50 ひきこもりの状態の期間はどれくらいですか。

(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 6か月未満 | 5. 10年～20年未満 |
| 2. 6か月～1年未満 | 6. 20年以上 |
| 3. 1年～5年未満 | 7. わからない |
| 4. 5年～10年未満 | |

問51 その方がひきこもりの状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 学校になじめなかったこと | 10. 病気 |
| 2. 小学校時代の不登校 | 11. 妊娠したこと |
| 3. 中学校時代の不登校 | 12. 退職したこと |
| 4. 高校時代の不登校 | 13. 介護・看護を担うことになったこと |
| 5. 大学(専門学校、短期大学等を含む) | 14. 新型コロナウイルス感染症が流行したこと |
| 6. 受験に失敗したこと(高校・大学等) | 15. その他() |
| 7. 就職活動がうまくいかなかったこと | 16. 特に理由はない |
| 8. 職場になじめなかったこと | 17. わからない |
| 9. 人間関係がうまくいかなかったこと | |

問52 その方は普段どのくらい外出しますか。

(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

1. 自室からほとんど出ない
2. 自室からは出るが、家からは出ない
3. 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
4. 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する

問53 その方にとって必要なものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 友人・仲間づくり | 5. 収入面についての相談 |
| 2. 趣味などの生きがいづくり | 6. 気楽に立ち寄ることのできる居場所 |
| 3. 健康面での相談 | 7. その他 () |
| 4. 就労についての支援や相談 | 8. 特になし |

※問54 から問58 は、全ての方がお答えください。

問54 ひきこもりについて、相談したことがある、又は相談するとしたら、どの機関等に相談したいと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. ひきこもり支援専用相談窓口 | 9. 社会福祉協議会 |
| 2. 総合支所窓口 | 10. ひきこもり当事者の会・家族会 |
| 3. ハローワークなどの就労関係機関 | 11. NPO・ボランティア団体 |
| 4. 港区生活・就労支援センター | 12. 民生委員・児童委員 |
| 5. みなと保健所 | 13. 弁護士など司法関係の専門家 |
| 6. 障害保健福祉センター等の障害者関係施設 | 14. 東京都ひきこもりサポートネット |
| 7. 病院・診療所 | 15. その他 () |
| 8. 地域包括支援センター等の高齢者関係施設 | 16. 相談したいと思わない |

問55 ひきこもりについて、相談したことがある、又は相談するとしたら、どのように相談したいと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------|----------------------|
| 1. 窓口での相談 | 5. 仮想空間での相談 (メタバース等) |
| 2. 訪問での相談 | 6. その他 () |
| 3. 電話での相談 | 7. 相談したいと思わない |
| 4. メールでの相談 | |

問56 ひきこもりについて、相談するとしたら、どのような相手に相談したいですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 家族・親族 | 6. 相談できる場所にいる専門家 |
| 2. 友人・知人 | 7. ピアサポーターやひきこもり経験者 |
| 3. 地域の人 | 8. AI |
| 4. 学校の先生・職場の上司や先輩等 | 9. 相談したいと思わない |
| 5. 医師・カウンセラー等 | |

問57 当事者会があれば、参加しますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1. 参加する | 2. 参加しない | 3. わからない |
|---------|----------|----------|

問58 当事者会に参加する場合、参加者の性別は気になりますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 特に気にならない | 2. 同性だけがよい |
|-------------|------------|

※問59 は、問58 で「2」を選択した方に伺います。

問59 異性がいる当事者会の案内があった場合、参加しますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|----------------|----------|
| 1. 参加しない | 2. 内容によっては参加する | 3. わからない |
|----------|----------------|----------|

※問60 は、問47 で「2」を選択した方に伺います。

問60 回答者ご本人、又は同居のご家族が過去にひきこもりの状態になったことはありますか。

(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

※問61 と問62 は、問60 で「1」を選択した方に伺います。

問61 ひきこもりの状態の期間はどれくらいでしたか。

(○は1つ、ただし2人以上いる場合は人数分)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 6か月未満 | 3. 1年～5年未満 | 5. 10年～20年未満 |
| 2. 6か月～1年未満 | 4. 5年～10年未満 | 6. 20年以上 |
| | | 7. わからない |

問62 その方がひきこもり状態を改善したきっかけや改善に役立ったことは何ですか。

(○はいくつでも)

1. 家族や親戚の助け
2. 友人の助け
3. 学校の先生に相談したこと
4. スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと
5. 地域の人々の助け
6. 病院に行って相談したこと
7. 相談できる場所に行って相談したこと
8. 電話相談を利用したこと
9. SNS やメール相談などを利用したこと
10. 同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと
11. 就職・転職したこと
12. 趣味の活動に参加したこと
13. 時間がたって状況が変化したこと
14. 自分の努力で乗り越えたこと
15. その他 ()
16. わからない、答えられない

9. 自殺対策について

問63 これまでの人生の中で自殺をしようとして具体的な準備をしたことがありますか。

(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ない | 2. ある |
|-------|-------|

問64 あなたの周りで自殺(自死)した人がいますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 同居の家族・親戚 | 6. 近所の人 |
| 2. 同居以外の家族・親戚 | 7. 知人 |
| 3. 友人 | 8. その他 () |
| 4. 恋人 | 9. いない |
| 5. 学校・職場関係者 | |

問65 自殺対策の取組として効果的だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1. 自殺のサインに気づき適切な対応を取れる人の養成 | 7. SNS を活用した自殺防止啓発の取組 |
| 2. 自殺相談ダイヤル等による電話相談 | 8. ポスター・チラシ・リーフレットによる自殺防止啓発の取組 |
| 3. 状況に対応した様々な相談窓口周知 | 9. 動画による自殺防止啓発の取組 |
| 4. SNS相談窓口の開設・強化 | 10. 研修会・講演会による自殺防止啓発の取組 |
| 5. 自殺未遂者へのケア | 11. 学校での教育 |
| 6. 自死遺族へのケア | 12. その他 () |

問66 ゲートキーパーという言葉聞いたことがありますか。(〇は1つ)

- | |
|-------------------------|
| 1. 聞いたことがあります意味も知っている |
| 2. 聞いたことはあったが意味はよくわからない |
| 3. 聞いたことがない |

10. 終活について

問67 ご自身の終活（※）について不安を感じることがありますか。（○は1つ）

※終活とは

自身の意思に沿った将来の生活と終末期に備えられるよう準備する活動のことです。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. とても不安を感じる | 3. あまり不安を感じない |
| 2. 少し不安を感じる | 4. 全く不安を感じない |

※問68は、問67で「1」又は「2」を選択した方に伺います。

問68 なぜ不安に感じますか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 頼れる人や面倒を見てくれる人がいない | 3. 情報がなくて何となく不安を感じる |
| 2. 相談する先がない | 4. 何から手をつけて良いかわからない |
| | 5. その他（ ） |

問69 ご自身の終活を実施していますか。（○は1つ）

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 実施している | 3. 予定はないが時期が来たら始めたい |
| 2. 近いうちに始める予定 | 4. 実施する予定はない |

※問70は、問69で「1」から「3」のいずれかを選択した方に伺います。

問70 実施していること、今後実施する予定があること、興味があることを教えてください。

（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 家の中の荷物整理 | 6. 遺言書の作成 |
| 2. 財産の整理 | 7. 紙面による治療の意思表示 |
| 3. パソコンや携帯電話などのデータ整理 | （延命治療等） |
| 4. 携帯電話など、加入サービスの情報整理やまとめ | 8. 葬儀の準備 |
| 5. エンディングノート（※）の作成 | 9. お墓の準備 |
| | 10. ペットの引き取り先 |
| | 11. その他（ ） |

※エンディングノートとは、

自分自身を振り返り、今後の人生を考えるためのものであり、個人を特定する基本情報などが書き込めるものです。

問71 令和7年10月から港区エンディングプラン登録事業（※）を実施します。

このサービスを利用したいと思いますか。（○は1つ）

※港区エンディングプラン登録事業とは

事前に緊急連絡先や生前契約等の終活情報を登録し、病気や事故等で意思表示ができなくなった時又は亡くなった時に、指定した顯示先（警察、消防、医療機関、親族など）からの照会に基づき登録者の情報を顯示するサービスです。

1. 利用したい
2. すでに他の同様サービスを利用している
3. 興味がない

11. 介護について

育児・介護休業法が改正され、令和7年4月から有期雇用労働者の介護休業の取得要件が緩和されました。仕事と介護の両立支援とした介護休業中の経済的支援や短時間勤務等の措置などの介護休暇が制度化されています。

問72 介護休暇制度を知っていますか（○は1つ）

1. はい
2. いいえ

問73 家族（親族）に介護が必要となった時に、介護休暇制度を利用しようと思いますか。

（○は1つ）

1. 職場と相談して利用したい
2. 仕事の調整をしながら利用したい
3. ケアマネジャーと相談して利用したい
4. 現時点はわからない
5. 利用しようとは思わない

問74 家族（親族）に介護が必要となった時に、誰に相談しますか。（○は1つ）

1. 家族
2. 親族
3. 区役所
4. 高齢者相談センター
（地域包括支援センター）
5. 友人
6. その他

12. 保健・福祉全般について

問75 あなたは区の保健・福祉に関する施策について、どのようにお考えですか。

各項目について、[ア]現在の施策に関する認識、[イ]今後重視すべき施策をお答え

ください。(○はそれぞれ1つ)

[ア]現在の施策に関する認識	進んでいる	まあ進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	まったく進んでいない	わからない
① 区民が健康に暮らすための健康増進施策	1	2	3	4	5	6
② 高齢者が安心して暮らすための介護や高齢者支援施策	1	2	3	4	5	6
③ 障害者が地域で安心して暮らすための障害者支援施策	1	2	3	4	5	6
④ 低所得者等が安定した生活をおくれるようにするための生活福祉施策	1	2	3	4	5	6
⑤ 住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らし続けられるための地域福祉施策	1	2	3	4	5	6

<small>こんごじゅうし しさく</small> [イ]今後重視すべき施策	<small>じゅうし</small> とても重視すべき	<small>じゅうし</small> まあ重視すべき	<small>じゅうし</small> どちらともいえない	<small>じゅうし</small> あまり重視すべきでない	<small>じゅうし</small> まったく重視すべきでない	<small>じゅうし</small> わからない
<small>くみん けんこう く</small> ① 区民が健康に暮らすための健康増進施策	1	2	3	4	5	6
<small>こうれいしゃ あんしん く かいご</small> ② 高齢者が安心して暮らすための介護や <small>こうれいしゃしえんしさく</small> 高齢者支援施策	1	2	3	4	5	6
<small>しょうがいしゃ ちいき あんしん く</small> ③ 障害者が地域で安心して暮らすための <small>しょうがいしゃしえんしさく</small> 障害者支援施策	1	2	3	4	5	6
<small>ていしょとくしゃとう あんてい せいかつ</small> ④ 低所得者等が安定した生活をおくれる <small>せいかつふくししさく</small> ようにするための生活福祉施策	1	2	3	4	5	6
<small>す な ちいき ささ あ あんしん</small> ⑤ 住み慣れた地域で支え合い、安心して <small>く つづ ちいきふくししさく</small> 暮らし続けられるための地域福祉施策	1	2	3	4	5	6

どい しょうがいしゃ とべつ もくてき へいせい ねん がつ にち しょうがいしゃとべつかいしょうほう
 問76 障害者への差別をなくすことを目的として、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」
しこう ほうりつ しょうがい りゆう ふうとう とべつてきとりあつかい さん
 が施行されました。この法律には、障害を理由とした不当な差別的取扱いを禁じ、また、
しょうがいしゃ せいかつじょう しょうへき と のび なん たいおう もと
 障害者から生活上のバリア（障壁）を取り除くため何らかの対応を求められたとき、
ふたん おお はんい たいおう さくい
 負担が重すぎない範囲で対応することが規定されています。このことを知っていますか。

(○は1つ)

1. <small>なまえ し</small> 名前だけは知っている	2. <small>ざいよう し</small> 内容まで知っている	3. <small>し</small> 知らない
------------------------------------	------------------------------------	--------------------------

問77 みなとく ほけんふくし 港区の保健福祉サービスたい いけん ようぼうに対するご意見・ご要望や、今後充こんごじゆうじつ実してほしいサービス、ふだん普通の生活で困せいかつ こまっていることなどがありましたら、ご自由じゆう かにお書きください。

じゆうきじゆつらん
<自由記述欄>

せつあん いじょう かいどう
設問は以上です。回答ありがとうございました。

く かくしゆ いちらん じょうほうはっしん らん
区では、各種サービスの一覧やホームページで情報発信をしています。ぜひご覧ください。



かいごほけん こうれいしゃ
介護保険・高齢者
サービスの手引き



しょうがいしゃ いちらん
障害者
サービス一覧



けんこう いりよう
健康・医療
について



ふくし そうだん
福祉の相談は
福祉総合窓口へ

区 の 木



ハナミズキ

区 の 花



アジサイ



バラ



港区のマークは、昭和24年7月30日に制定しました。旧芝・麻布・赤坂の3区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

刊行物発行番号 2025246-3711

港区保健福祉基礎調査 報告書 (一般区民調査)

令和8年(2026年)3月発行

発行・編集 港区保健福祉支援部保健福祉課
港区芝公園一丁目5番25号
03-3578-2111(代表)



港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。
この印刷物は、古紙を活用した再生紙を使用しています。